

1421
104



始



大正五年度業務報告

岡山縣水產試驗場

1424-104



器 推 壓 用 網 染 一 タ ル ー コ

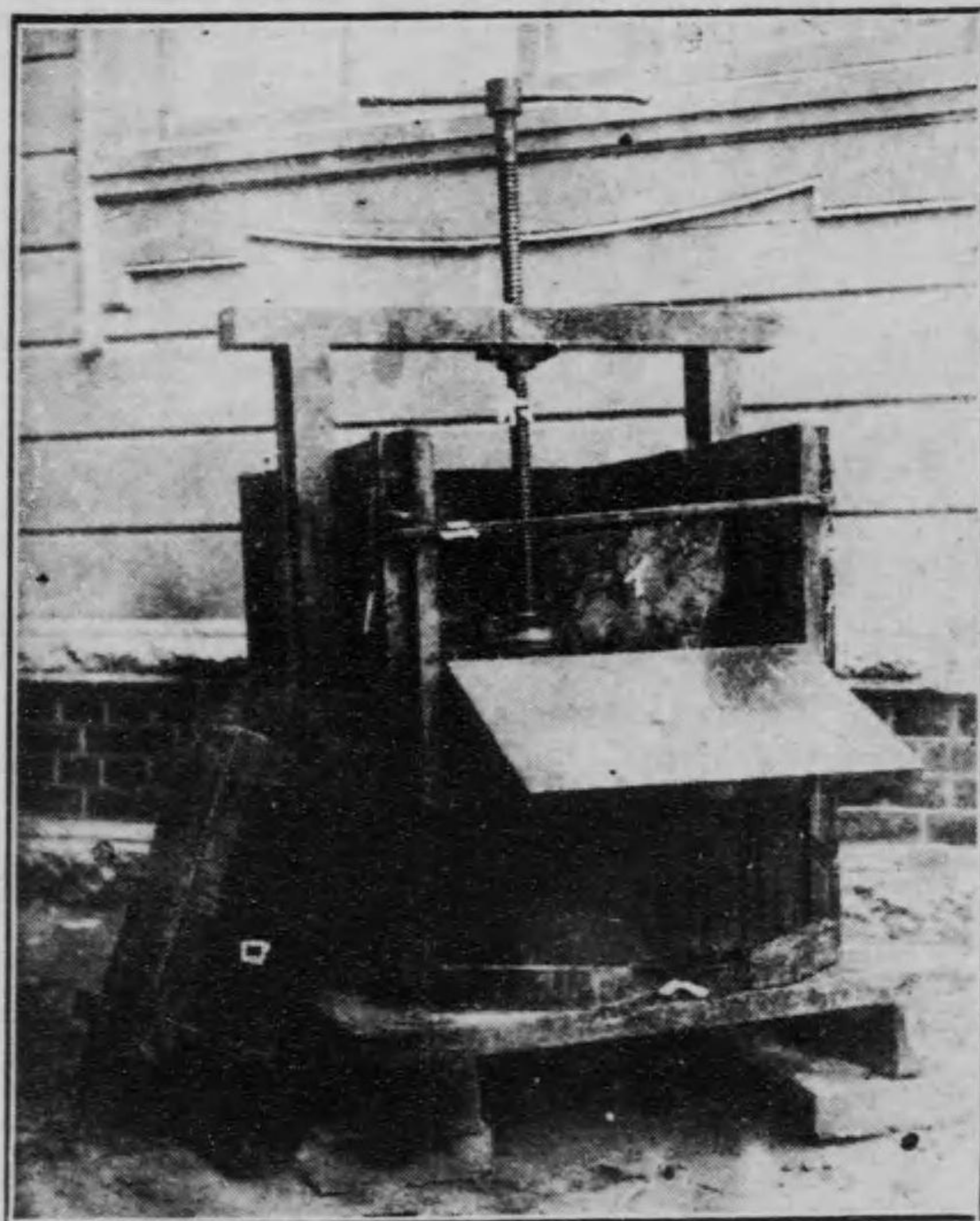
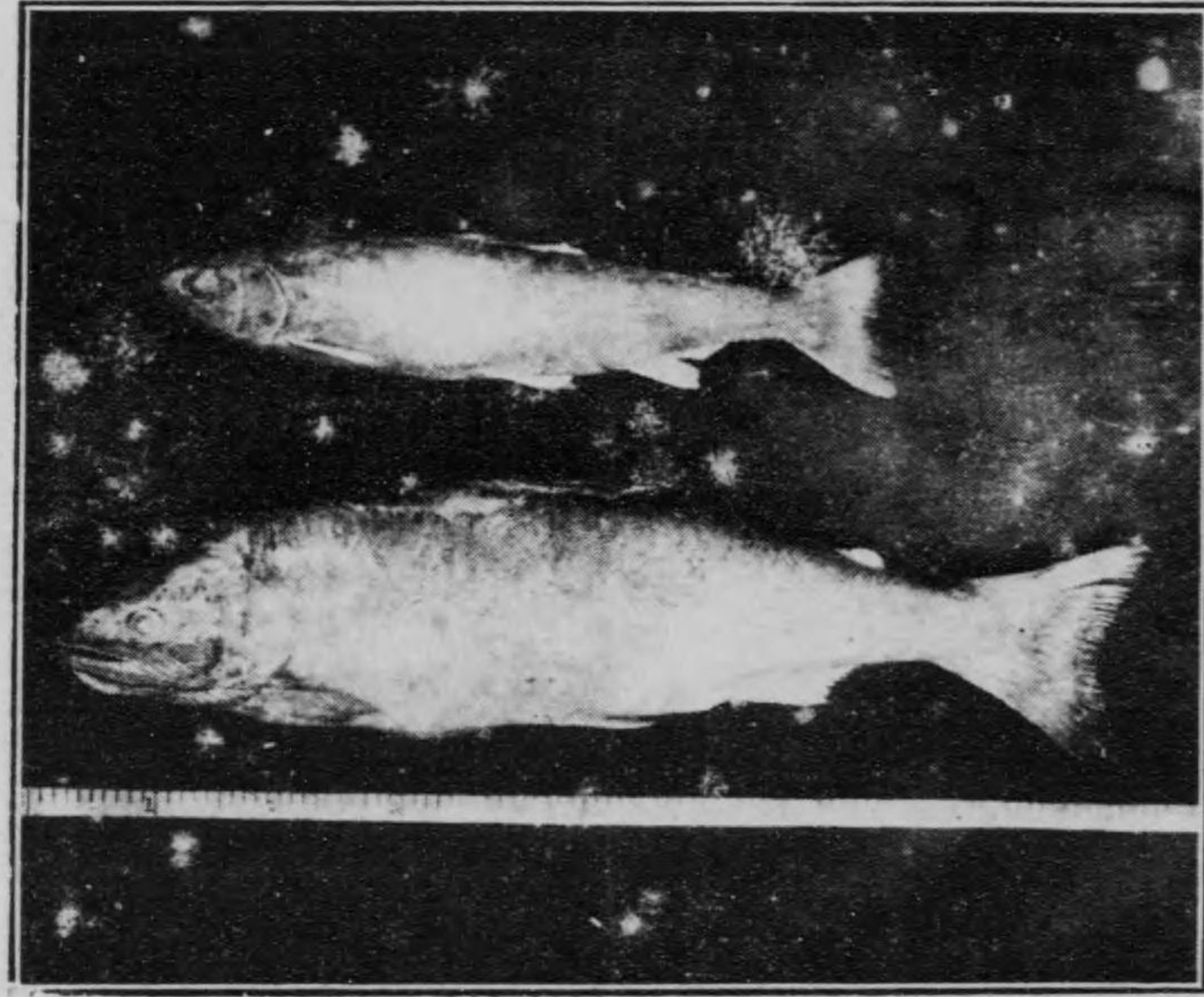


圖 解

- (イ) 底 板 (ロ) 覆セ板
 - (ハ) 開キ板 (ニ) 止メ棒
 - (ホ) 壓 搾 棒
 - (ヘ) コールター 流出口
- (イ)を函底に置き之れに染めたる
網地を入れ(ロ)を覆ひ(ハ)を以て
圍み(ニ)にて之を止め(ホ)にて覆
せ板を壓搾すれば餘分のコールタ
ーは(ヘ)より流出す

大 正
7 5 . 13
寄 贈

鯨ノ後流放化孵工人



圖解

上圖、大正五年一月八日赤磐郡石生村大
字田原釜ニテ漁獲ノ當才魚体長六
寸体高一寸、体重十一匁

下圖、大正五年四月十日和氣郡福河村大
字福浦壺網ニテ漁獲ノ二歳魚体長
九寸、体高二寸三分体重七十八匁

大正五年度岡山縣水產試驗場業務報告

目次

淡水養殖之部

一、鯉兒囑托養成及配布試驗.....	一
二、親鯉養成委託試驗.....	七
三、鰻鼈改良飼育委託試驗.....	九
四、淡水養魚委託試驗.....	一五
1、溜池養魚試驗.....	一五
2、流水養魚試驗.....	一八
備前區流水養魚試驗.....	一八
備中區流水養魚試驗.....	二五
美作區流水養魚試驗.....	三一
3、鮎蓄養試驗.....	三五
4、鮎蓄成試驗.....	四三

目

次

一

五、淡水魚族人工孵化試驗

イ、鮎人工孵化放流試驗

ロ、鱒族人工孵化放流試驗

鹹水養殖之部

一、牡蠣養殖試驗

イ、住ノ江牡蠣養殖試驗

ロ、真牡蠣養殖試驗

二、車蝦蓄養委託試驗

三、活魚運搬試驗

漁撈之部

一、コールター染料試驗

二、漁業調査

イ、海洋觀測

ロ、重要漁況調査

附鮮魚平均相場表

講習講話及實地指導

一、養殖短期講習

二、講話及實地指導

大正五年度岡山縣水產試驗場業務報告

淡水養殖之部

技手 中井信隆擔任

一、鯉兒囑托養成及配布試驗

本試驗場縣下養鯉等ノ改善發達ヲ企圖スルハ勿論更ニ稻田溝渠溜池等ノ養鯉ヲ併セ獎勵シ淡水養魚ノ普及ニ資セムトス
 在リテ縣下適當ノ個所ニ鯉兒囑托養成所ヲ分設シ本場ニ於テ每年五月末迄ニ一般希望者ノ請求數ヲ公告ノ上取經メ
 之ヲ配布尾數及區域ヲ囑托者ニ指定シ最寄郡市町村ノ請求者ニ可成の安全且迅速ニ配付セシムルモノニシテ本場ハ囑托
 者ニ對シ左記養成補助金ヲ其配布尾數ニ應ジ交附ス。

鯉兒體長	一尾ニ對スル補助金額	鯉兒體長	一尾ニ對スル補助金額
七分内外	金貳毛六	一寸内外	金四毛
一寸三分内外	金九毛	一寸五分内外以上	金壹厘參毛

囑托養成所ハ備前及美作ハ前年度ト同様ニシテ前者ハ和氣郡赤磐郡兒島郡ニ後者ハ真庭郡勝田郡久米郡ニ各郡一ヶ所ヲ
 設置シタルモ備前ハ養成ノ都合上前年度ヨリ都窪、淺口、阿哲ノ三郡ヲ省キ小田、後月、上房ノ三郡ニ各一ヶ所ヲ設ケ
 タルコト次ノ如シ。

鯉兒囑托養成及配布試驗

鯉兒囑托養成及配布試驗

囑托所在地
赤磐郡五城村
兒島郡八濱町
後月郡西江原村
真庭郡久世町
久米郡加美村

囑托者名
江田 柰松
岩城 鈞
多賀 雄一
横山 茂一
濱野 祐之

囑托所々在地
和氣郡香登村
小田郡矢掛町
上房郡松山村
勝田郡勝間田町

囑托者名
友光 光次郎
田尻 甚藏
白神 喜左衛門
万代 惣十郎

請求數ハ備前十四萬九千二百七十尾、備中十六萬二千三百四十尾及美作二十三萬二千六百六十尾合計五十四萬三千七百七十尾ニシテ其ノ詳細次ノ如シ

請求尾數及件數表

郡市名	市		町		公共團體		個人		小計	
	請求數	件數	請求數	件數	請求數	件數	請求數	件數	請求數	件數
岡山										
赤磐										
和氣										
島根										
上房										
兒島										
小計	111,010	1	57,850	28	60,160	3	8,100	10	149,120	42
淺口										
郡計										
總計	111,010	1	57,850	28	60,160	3	8,100	10	149,120	42

請求數體長別表

郡市名	市		町		公共團體		個人		小計	
	請求數	件數	請求數	件數	請求數	件數	請求數	件數	請求數	件數
岡山										
赤磐										
和氣										
島根										
上房										
兒島										
小計	79,090	4	35,400	31	61,950	4	48,990	38	114,440	73
真庭										
勝田										
久米										
英田										
小計	57,070	3	39,550	29	65,890	1	55,890	16	112,340	45
阿蘇										
川上										
吉備										
上月										
後月										
小計	10,000	1	11,190	5	6,520	1	1,770	4	22,880	11
總計	146,160	6	86,140	65	134,360	6	116,450	59	351,660	131

鯉兒囑托養成及配布試驗

111

上道郡	兒島郡	都窪郡	淺田郡	小月郡	後備郡	吉房郡	上房郡	川上郡	阿哲郡	御津郡	上房郡	眞庭郡	勝田郡	英田郡	計
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
11,000	60,000	110,000	110,000	3,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
11,000	60,000	110,000	110,000	3,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500

以上請求ニ對シ左記ノ通り囑托尾數及配布區域ヲ六月二十日夫々囑托養成人ニ通告セリ。

配布區域及囑托尾數表

囑托者名	囑托尾數(一寸内外ニ換算數)	配布區域	囑托尾數
江田全松	五〇、〇〇〇	御津郡半部 赤磐郡大部	一〇、七五〇 二二、〇〇〇

友光光次郎

一六〇、〇〇〇

赤磐郡一部
和氣郡一部
邑久郡半部
上道郡大部
都窪郡大部
吉備郡大部
岡山郡市

一、二〇〇
二二、〇二〇
二、九〇〇
一一、四〇〇
二二、四〇〇
一七、二二〇
一、〇〇〇
五、三〇〇
二、〇〇〇
八〇〇

岩城鈞

一一〇、〇〇〇

御津郡一部
邑久郡半部
上道郡一部
兒島郡一部

六〇、三〇〇
六、八〇〇
四〇、二七〇

田尻甚藏
多賀雄一

六〇、〇〇〇
七〇、〇〇〇

小月郡
後備郡

五、八〇〇
三一、〇七〇
一四、九一〇
一四、六九〇

白神喜左衛門

一三〇、〇〇〇

川上郡
阿哲郡

八、六〇〇
一、八〇〇
三九、五五〇
六九、四八〇

横山茂一

一〇〇、〇〇〇

御津郡一部
上房郡一部

三三、六〇〇

方代惣十郎

一五〇、〇〇〇

勝田郡
英田郡

五

濱野祐之

一七〇、〇〇〇

久米田郡

二六、〇八〇
八一、二五〇

備考

淺口郡五千二百二十尾及吉備郡千五百五十尾ノ請求ニ對シテハ前年度通り淺口郡長尾村小野禮太郎ニ七萬尾ノ養成ヲ囑托シ配布セシムル豫定ナリシモ養成ノ都合上遂行スル能ハズ囑托ヲ解除セリ。

配布ハ各地ノ狀況ニ應ジ、稻田插秧後開始スル事トシ、七月下旬迄ニ、備前十二萬六千八百六十六尾、備中十九萬二千八百三十一尾及美作二十六萬四千五百八十五尾計五十八萬四千二百八十三尾ノ配布ヲ終了セシヨト次ノ如シ

配布細別表

郡市名	七分内外	一寸内外	一寸三分内外	一寸五分内外	小計	全一寸内外ニ換算數
岡山市	四、一〇〇	一、〇〇〇	一、一〇〇	六、五五〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
御津郡	三、八六八	五、九〇〇	五、九〇〇	九、七七〇	一五、五七〇	二〇、一六〇
赤磐郡	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	九、七七〇	二一、五七〇	五〇、九二八
和氣郡	一、九五〇	一、九五〇	二、七五〇	二、七五〇	二八、七八〇	八二、一八八
邑久郡	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	四、九五〇	一、一七〇〇
上道郡	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇
兒島郡	六、〇〇〇	三、九一六	七、〇〇〇	八、七三〇	二六、八六六	一三〇、三〇〇
小笹郡	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、一〇〇	三、一〇〇	一、五七五
淺口郡	四、五〇〇	四、五〇〇	四、五〇〇	一〇、三九〇	二六、一五五	六三、四八九
小月郡	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	四、二七〇	一、〇〇、八七八
後月郡	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇	四、二七〇	一、〇〇、八七八

一、親鯉養成委託試験

本試験ハ縣下ニ於ケル魚種ヲ改良シ、養鯉業ノ發展ヲ圖ラムトスルニアリテ、前年度ニ繼承兒島郡八濱町岩城鈞ニ將來親魚トシテ、配布スベキ優良種ノ養成ヲ委託施行セリ。

魚苗ハ前年度大和及美濃兩國産親魚ヨリ孵化養成セルモノ五百尾中ヨリ撰別セルモノニシテ三百尾ヲ四月十日養池五百四十坪ニ放養試験ニ着手セリ。

放養尾數表

放養尾數

(全池分)

三十尾

(一坪當リ)

〇・二五

親鯉養成委託試験

七

郡市名	七分内外	一寸内外	一寸三分内外	一寸五分内外	小計	全一寸内外ニ換算數
吉備郡	八、五五〇	八、五五〇	一〇、〇〇〇	一四、一〇〇	二一、七〇〇	五四、五二一
上房郡	一、〇〇〇	二、九、五五〇	三、五〇〇	二、二、四八五	六、九、五三五	一、一九、六〇一
川上郡	一、〇〇〇	一、六、五〇〇	一、一、五〇〇	一、一、五〇〇	一、八、六五〇	二、一、三〇〇
阿哲郡	六、四五〇	四、九三〇	一、六、〇四五	一、〇、〇〇〇	一、二、四一〇	一、二、四一〇
小計	二、一、一五〇	六、五、〇〇〇	一、六、〇四五	八、九、九三七	一、九、二、八三三	一、二、三、七八三
眞庭郡	一、二、八〇〇	二、七、〇〇〇	一、六、〇七五	一、五、八七五	七、二、〇五〇	一、二、三、七八三
勝田郡	一、〇〇〇	八、〇〇〇	一、三、〇〇〇	一、三、〇〇〇	二、一、八二〇	五、二、〇一五
久米郡	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、五、五三五	七、三、〇三五	一、九、二、六一四
英田郡	一、〇〇〇	三、五、〇〇〇	一、三、〇〇〇	八、〇、二五〇	一、三、〇、七五〇	二、六、四、三一一
小計	一、二、八〇〇	五、三、〇〇〇	二、九、七七五	一、六、八、六一〇	二、六、四、五八五	四、三、九七三
合計	三、九、九七〇	一、四、八、二一六	五、二、八二〇	三、四、三、二七七	五、八、四、二八二	一、四、〇、八、六八一

鰻養委託試験

放養重量

(全池分)

三十貫六百匁

(一坪當り)

二五・五

放養魚大サ表

体	体	体	小ノ分	大ノ分	最	多	摘	要
重	高	長						
〇、七五	〇、七五	一、〇三	〇、七五	一、〇三	一、二七	一、二七	測定ハ二十尾平均	
〇、二四	〇、二四	〇、三〇	〇、二四	〇、三〇	〇、三〇	〇、三〇	同	
八五、八	八五、八	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	一、〇三	同	

餌料ハ四月十一日ヨリ十一月十日迄ニ干蠶蛹四十五貫八百四十匁ヲ投餌セシガ經過良好ニシテ、三月末日池淺ノ結果左記成長ヲ示シ次年度配布ノ豫定ヲ以テ繼承飼育中ニ属ス。

成長度表

体	体	体	小ノ分	大ノ分	最	多	摘	要
重	高	長						
三九〇、七	三九〇、七	一、三三	三九〇、七	一、三三	一、四三	一、四三	測定ハ二十尾平均	
〇、〇四	〇、〇四	〇、五二	〇、〇四	〇、五二	〇、五二	〇、五二	同	
五八三、五	五八三、五	一、四三	一、四三	一、四三	一、四三	一、四三	同	

生産量表

尾	重	放	養	時	三	月	末	日	步	減	又	ハ	増	重	同	上	率
量	數	養	時	三	月	末	日	步	減	又	ハ	増	重	同	上	率	
〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	(步減)	三	割	一	分	弱	同	上	率
〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	〇〇、〇〇	(増重)	九	割	七	分	強	同	上	率

三、朝鮮産鰻龍改良飼育委託試験

本試験ハ形態品質共ニ劣等ニシテ價格低廉ナル朝鮮産鰻龍ノ矯正飼育ヲナシ、内地産ト遜色ナカラシメムトスルニアリテ、前年度ニ繼承シ兒島郡八濱町岩城鈎ニ委託施行セリ。

試験地ハ八濱町所在本場養魚場ニシテ養池千二百坪ヲ充用シ、前年度同様ノ設備ヲナシ、四月五日ヨリ五月十五日迄ニ鰻一尾十二匁五分ノ者五十九貫八百匁及龍一頭四十六匁五分ノモノ百八十一貫百匁ヲ放養シ、試験ニ善手セシガ其詳細次ノ如シ。

放養魚体形表

種	別	測定個所	小ノ分	大ノ分	最	多	摘	要
鰻	龍	体	体	体	体	体	体	体
重	幅	長	重	長	重	長	重	長
一、二二	一、二二	一、二二	一、二二	一、二二	一、二二	一、二二	一、二二	四月五日ヨリ十二日迄ニ放養ス
九、七八	九、七八	一、二二	一、二二	一、二二	一、二二	一、二二	一、二二	測定ハ二十尾平均ニ依ル
〇、三三	〇、三三	〇、三三	〇、三三	〇、三三	〇、三三	〇、三三	〇、三三	四月十日ヨリ二十日迄ニ放養ス
〇、〇三	〇、〇三	〇、〇三	〇、〇三	〇、〇三	〇、〇三	〇、〇三	〇、〇三	測定ハ二十頭平均ニ依ル

放養量表

種	別	坪	數	重	量	尾	全	數	池	重	分	量
鰻	龍	尾	數	重	量	尾	全	數	池	重	分	量
三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二	三、二二
四九、八	四九、八	四九、八	四九、八	四九、八	四九、八	四九、八	四九、八	四九、八	四九、八	四九、八	四九、八	四九、八
一五〇、九	一五〇、九	一五〇、九	一五〇、九	一五〇、九	一五〇、九	一五〇、九	一五〇、九	一五〇、九	一五〇、九	一五〇、九	一五〇、九	一五〇、九
四七、八	四七、八	四七、八	四七、八	四七、八	四七、八	四七、八	四七、八	四七、八	四七、八	四七、八	四七、八	四七、八
三九、九	三九、九	三九、九	三九、九	三九、九	三九、九	三九、九	三九、九	三九、九	三九、九	三九、九	三九、九	三九、九
一八、〇〇	一八、〇〇	一八、〇〇	一八、〇〇	一八、〇〇	一八、〇〇	一八、〇〇	一八、〇〇	一八、〇〇	一八、〇〇	一八、〇〇	一八、〇〇	一八、〇〇

朝鮮産鰻龍改良飼育委託試験

飼料ハ前年ト同シク鱧ニハ生蠶蛹、干蠶蛹、糠蝦、あかこヲ鱧ニハ煮干鰯、干雜魚、生雜魚、生蠶蛹ヲ投餌セルモノニシテ投餌方法ハ鱧ノ餌料ハ何レモ其儘投餌台上ニ置キ自由ニ捕食セシメ鰯ノ餌料ハ生蠶蛹ヲ其マ、干蠶蛹ハ煮沸シタル後何レモ細切シテ糠蝦ト混用シ、あかこハ餌付ケ用トセリ、投餌期間ハ四月十日ヨリ十一月十日迄ニシテ投餌量次ノ如シ。

投餌表

餌料名	鱧		鰯		計
	用	計	用	計	
煮干鰯	七一四、四九〇				七一四、四九〇
干雜魚	二八二、一五〇				二八二、一五〇
生雜魚	四七二、五〇〇				四七二、五〇〇
干蠶蛹		三二五、〇〇〇			三二五、〇〇〇
生蠶蛹				一五六、一六〇	一五六、一六〇
糠蝦			二二、二〇〇		二二、二〇〇
あかこ			三三、〇〇〇		三三、〇〇〇
かこ			一、一六〇		一、一六〇

而シテ飼育期間中夏期用水不足ノ爲メ約十日間投餌ヲ中止セシ外著シキ障害ナク、三月末日調査ノ結果ニ依レバ、鰯ハ三倍四分鱧ハ一倍八分ノ成長ヲナシ歩減ハ鰯一割九分鱧二割九分ニシテ増重率鰯一割四分、鱧二割五分ナル事左表ノ如ク、尙ホ鱧ノ歩減稍大ナリシハ夏期細菌其他寄生虫ノ爲メ肝臟及皮膚ヲ侵害セラレタルガ爲メニシテ秋期水温下降スルニ從ヒ被害ナキニ至レリ。

成長度表

魚種	測定個所	放		養		三		月		末	
		小	大	小	大	小	大	小	大	小	大
鰯	体長	一、二二	一、二八	一、二二	一、二八	一、二二	一、二八	一、二二	一、二八	一、二二	一、二八
	体幅	三、〇	三、四	三、〇	三、四	三、〇	三、四	三、〇	三、四	三、〇	三、四
鱧	体長	一、一三	一、一五	一、一三	一、一五	一、一三	一、一五	一、一三	一、一五	一、一三	一、一五
	体幅	三、〇	三、四	三、〇	三、四	三、〇	三、四	三、〇	三、四	三、〇	三、四

備考 測定ハ二十尾平均ニ依ル。

生産表

魚種	尾數	放		三		月		末		尾		歩		同		上		重	
		數	重	數	重	數	重	數	重	數	重	數	重	數	重	數	重	數	重
鰯	尾數	四七、八四〇	五九、八〇〇	三、八二二	一八七、八五〇	九三二	〇、一九	一、二八、〇五〇	二、一四	四七、八四〇	五九、八〇〇	三、八二二	一八七、八五〇	九三二	〇、一九	一、二八、〇五〇	二、一四	四七、八四〇	五九、八〇〇
	尾重	三、八九五	一、八一、一〇〇	二、七五二	二二六、四八四	一、一三九	〇、二九	四、五、三八四	〇、二五	三、八九五	一、八一、一〇〇	二、七五二	二二六、四八四	一、一三九	〇、二九	四、五、三八四	〇、二五	三、八九五	一、八一、一〇〇
鱧	尾數	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇
	尾重	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇	一、八一	一、〇〇

次ニ投餌量ト生産量ノ關係ヲ考察センニ給與セラレタル餌料ハ魚体ノ保重即チ現体重ノ保持ニ利用セラレタル過剩分ガ増重即チ魚体重ノ増加ニ供セラル、モノナレバ生産量ト投餌量ノ關係ヲ明瞭ナラシムムニハ兩者ニ就キ區々攻究セザルベカラズ、然レドモ此ハ魚体ノ生理上ニ渉ル精細ナル實驗ヲ遂行スルニ非ザレバ斷定シ難キヲ以テ此處ニハ單ニ兩者ノ總量タル生産量ニツキ投餌量トノ關係ヲ究知セン。

即チ本年度生産量ハ鰯百八十七貫八百五十匁及鱧二百二十六貫四百八十四匁ニシテ之ガ投餌量ハ干蠶蛹百五十六貫百六十匁生蠶蛹二百一貫二百匁、糠蝦三十四石四升八合、あかこ一石一斗六升ヲ鰯ニ煮干鰯七百十四貫四百九十匁、干雜

魚二百八十二貫百五十匁生雜魚四百七十二貫五百匁、生蠶蛹三百十五貫ヲ籠ニ使用シタルコト前述ノ如クニシテ魚肉一貫匁ノ生産ヲ圖ル爲メ左記投餌量ヲ給シ、之ヲ評價スル時ハ、鰻ハ成肉價格ノ三割五分籠ハ三割六分ノ餌料費ヲ要セリ。

生産對投餌表

魚種	生産額	生産額對餌料費比率	餌料費	餌料名	數	量	單價	小計
鰻	三、二二五	0.35	一、一三九	生干蠶	0.831	0.450	0.575	0.475
	八、〇八〇	0.36	二、九二二	生干蠶	1.214	0.355	0.155	0.375
籠	〇、三六		二、九二二	煮干雜魚	0.006	1.000	0.006	0.006
			二、〇八六	かこ蝦	1.214	0.180	0.180	0.218
計			二、九二二					0.188

備考 生産額ハ生産量一貫匁ヲ評價シタルモノナリ。

而シテ本年度生産品ハ大阪魚市場ニ販賣セシニ、鰻ハ形態全ク内地産ト異ラズ、而モ平均相場内地産ヨリ、約一割高價ニシテ成績良好ナリシガ、籠ハ肥大シ、体色改マリタルモ、体長長ク内地産ト一見シテ識別セラレ形態ノ改良意ノ如クナラザリシ爲メ評價適ニ、内地産ヨリ劣レリ、從テ收支經濟ニ於テ、籠ハ殆ンド收利ナク、僅カニ二分強ニ留マリシガ、鰻ハ收利大ニ四割六分ヲ計上シタリ。

乃チ本試験ハ鰻ニ對シテハ其收益多大ナリシモ、籠ニ於テ殆ンド收利ヲ見ザリシ爲メ結局ノ計算ハ一割強ノ利益ヲ擧ゲタルニ止マレリ。

收支經濟表

魚種	收入費目細別	數	量	價	小計
鰻	販賣		一八七、八五〇	三、二二五	六〇四、一三五
	越品見積		一〇、〇〇〇	九、〇〇〇	九七三、八六七
計			一九七、八五〇	〇〇〇、〇〇〇	一、八二九、九三二
籠	販賣		一、二二二	二、九二二	八五七、〇三二
	越品見積		一、二二二	二、〇八六	一、〇四三、一一八
計			二、四四四	五、〇〇八	二、〇八六、一五〇

支出ノ部

魚種	支出費目細別	數	量	價	小計
鰻	魚苗費		五九、八〇〇	一、八〇〇	一〇九、六〇〇
	干蠶		一五六、一六〇	〇、四九〇	三〇、二七三
籠	生蠶		一、一〇〇	〇、一五五	二八、五一一
	かこ蝦		三、〇〇〇	三、〇〇〇	一〇九、一五五
計	餌料費		一、一〇〇	〇、一五五	一〇九、一五五
	雇人給料其他諸費		一、一〇〇	一〇、〇〇〇	一一、〇〇〇
計					二二二、九二八

計	魚				計	計
	魚苗	煮干	雜魚	生魚		
	一八一、〇〇〇	七、四〇〇	二八二、一五〇	四七二、五五〇	三二五、〇〇〇	九九六、〇〇〇
	〇	〇	〇	〇	〇	三九二、九七〇
	〇	〇	〇	〇	〇	一四一、〇七五
	〇	〇	〇	〇	〇	八五、〇〇〇
	〇	〇	〇	〇	〇	四二、五二五
	〇	〇	〇	〇	〇	六六、一六二
	〇	〇	〇	〇	〇	一三九、五〇〇
	〇	〇	〇	〇	〇	一、七九七、一七〇
	〇	〇	〇	〇	〇	二、二〇九、八三八

損益勘定ノ部

魚種	收入金額	支出金額	差引益金	支出金額ニ對スル收利比率
鰻	六〇四、二二五	四二二、六六八	一八一、四五六	〇、二四六
鮠	一、八二九、九〇五	一、七九七、一七〇	三二、七三五	〇、〇二二
計	二、四三四、一三〇	二、二一九、八三八	二二四、九九二	〇、〇九二

之レヲ要スルニ養鰻ハ歩減リ少ク増重大ニ、而モ形態、肉質ヲ改良スルコトヲ得テ評價高額ニ上リ、成績良好ナリシモ、養鰻ハ疾病起リ易ク歩減稍大ニ、高價ナル餌料ヲ多量給與セシニ係ラズ増量少ク、而シテ肉質体色ヲ改良シ得タリシガ、外形上内地産ト異ナリ、評價適ニ低クカリシヲ以テ成績不良ニ終レリ即チ養鰻ハ一年若クハ二年ニシテ、全ク改良飼育ノ目的ヲ遂行スル事ヲ得テ今後有望ナル事業ナルコトヲ確認セリト雖モ、養鰻ハ飼育年數ノ長短ニ係ラズ、到底体形ヲ改善スル事能ハズ改良ノ目的ヲ達シ難キヲ認メタリ、本試験ノ成績ニ依リ、爾來民間ニ於テ、二三其方法ニ倣ヒ事

業企劃スルモノアルニ至レルヲ以テ、今後ハ専ラ之レガ指導ニ努ムルコトトナシ、本試験ハ本年度限り、之ヲ終了トセリ。

四、淡水養魚委託試験

本試験ハ池沼溝渠其他育水潤澤ナル地方ニ於ケル、養魚ノ獎勵ニ資セムトスルニアリテ、左記四項ニ就キ試験ヲ委託施行セリ。

- イ、溜池養魚試験
- ロ、流水養魚試験
- ハ、貯蓄養魚試験
- ニ、鯉養成試験

イ、溜池養魚試験

本試験ハ溜池養魚ノ模範ヲ示サントスルニアリテ、赤磐郡鳥取上村所在整理池及八幡池ヲ充用シ、前年度ニ繼承シ、同郡西山村則武庄一郎ニ試験ヲ委託施行セリ。
 試験地ハ兩池相連絡シ、面積二町歩弱耕地ノ排水ヲ受ケ水深比較的淺ク、八幡池一丈二尺、整理池五尺ニシテ、水藻繁茂セズ、養魚池トシテ好個ノ溜池ナリ、而シテ養魚設備ハ前年秋末ニ於テ兩池ニ連接スル底水樋ヲ口径一尺ノ土管製尺八樋ニ改造シ、整理池ノ注水口、八幡池ノ剩水排出口ニ竹製高サ三尺ノ二重魚堰ヲ設ケ、又整理池ニハ夏期高水時ニ備ヘンガ爲メ注水口附口ニ面積百二十三坪、深三尺ノ魚溜ヲ設置セリ。

養魚方法ハ粗放の養成法ニ依ルモノニシテ秋期稻田養成ニ係ル魚苗ヲ整理池ニ放養シ、翌年秋期採捕シ、八幡池ニ移シ翌々年捕獲スルニケ年收納ニ依ルモノニシテ、本年度績成次ノ如シ。魚苗ハ大正四年十一月十七日及十二月二十五日ノ一回ニ平均一尾七枚一分ノ當才鯉兒千〇七尾七貫百六十枚ヲ整理池ニ放養セシコト昨年度報告ノ如シ、而シテ飼育期間中ハ經過良好ニシテ障害ナク、本年九月二十六日池浚ノ結果四百〇二尾二十六貫五百九十五枚ヲ生産シ、一尾平均六十枚ノ成長ヲ示シ放養當時ノ九倍四分ノ増重アリシコト次ノ如シ。

成長度表

体長	放		養		採		捕	
	小	大	小	大	小	大	小	大
重	三、九	五、二	一八、二	五、二	八、六	四、〇	二八、九	五、八
長	三、四	五、三	一八、二	五、二	八、六	四、〇	二八、九	五、八
時	最多	最多	最多	最多	最多	最多	最多	最多

備考 測定ハ二十尾平均ニ依ル。

生産量表

尾數	養	時	採	捕	時	尾數	尾	步	重	増
1000	七、〇	七、一	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇
尾數	七、〇	七、一	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇
重	七、〇	七、一	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇
時	七、〇	七、一	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇
尾數	七、〇	七、一	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇
尾	七、〇	七、一	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇
步	七、〇	七、一	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇
重	七、〇	七、一	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇
増	七、〇	七、一	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇	七、〇

即チ歩減六割一分、増重率二割七分ニシテ歩減大ナリシハ八幡池ニ通ズル水樋ノ金網破損シ、之レヨリ同池ニ逸出シタルニ依ル、而シテ放養時遅延セルニ係ラズ、良好ナル成長ヲ遂ゲ平均一尾九倍四分、總量ニ於テ三倍七分ノ増重アリシヲ以テスレバ、本池ノ天然生産力豊富ナルヲ證シテ餘リアルモノト謂フベシ、即チ本年採捕セルモノハ、九月二十七日八幡池ニ移シ、整理池ニハ更ニ前年度ノ倍量即チ坪當リ八尾、四十三枚ノ比ヲ以テ十一月十一日及二十一日ノ兩回ニ二

千〇七尾十貫三百五十枚ヲ放養シ次年度ニ繼承飼育中ニ屬ス。

放養量表

計	第一回		第二回		計	
	小	大	小	大	小	大
尾數	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六
重	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六
時	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六
尾數	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六
尾	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六
步	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六
重	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六
増	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六	一、六

十一月十一日放養
十一月二十一日放養

備考 測定ハ二十尾平均ニ依ル

尚ホ飼育期間中ノ觀測表ヲ示セバ左表ノ如シ

月次	天		候		最多風	氣		水	
	晴	曇	雨	風向		最高	最低	最高	最低
一	三〇	一	一	北	一	七、五	四、九	一〇、七	四、〇
二	二六	一	一	北	一	七、五	四、九	一〇、七	四、〇
三	二五	一	一	北	一	七、五	四、九	一〇、七	四、〇
四	二〇	一	一	北	一	七、五	四、九	一〇、七	四、〇
五	二五	一	一	北	一	七、五	四、九	一〇、七	四、〇
六	一八	一	一	北	一	七、五	四、九	一〇、七	四、〇
七	二二	一	一	北	一	七、五	四、九	一〇、七	四、〇
八	二八	一	一	北	一	七、五	四、九	一〇、七	四、〇
九	二六	一	一	北	一	七、五	四、九	一〇、七	四、〇

鰻九割四分、鰻六分ノ割合トナリ、其數量左表ノ如シ。

放養魚種別投餌表

魚種	飼料				
	麥	麥	糖	醬油	粕
鰻	七、〇五	一一、四〇	一一、四〇	二五、七五	一五三、〇五六
鰻	七、〇五	一一、四〇	一一、四〇	二五、七五	一五三、〇五六
計	七、〇五	一一、四〇	一一、四〇	二五、七五	一五三、〇五六

成長度並ニ生産量

十月二十三日池淺ノ際調査セル處ニ依レバ成長度ハ鰻五倍二分鰻一倍五分、鰻一倍二分ノ成長ヲ遂グ、生産量ハ鰻二千八百十二尾、三百五十二貫八百三十匁、鰻一萬四千六百四尾、二百五十五貫五百五十九匁、鰻百十五頭、十三貫三百七十五匁ニシテ歩減鰻四割四分、鰻一割四分、鰻一割七分、増重率鰻二倍三分、鰻三割五分、鰻四分減ナル事左表ノ如シ。

成長度表

魚種	放養		取揚		摘
	體長	體重	體長	體重	
鰻	四、八	〇、〇	一一、〇	一、〇、〇	測定ハ十五尾平均ニ依ル
鰻	一一、五	一、一、〇	一一、〇	一、八、〇	同
鰻	四、六	〇、〇、〇	一一、五	一、〇、三	同

生産量表

魚種	放養		取揚		歩		減	増	同	重
	尾數	貫	尾數	貫	尾數	同				
鰻	五、〇〇〇	一六、三〇〇	一一、八一	三五二、八三〇	一一、九二	〇、〇	一三、六〇〇	一三、六〇〇	〇、〇	〇、〇
鰻	一六、九六六	一八九、〇〇〇	一、六〇	二五五、五五九	二、三三二	〇、一	六六、四九九	六六、四九九	〇、三	〇、三
鰻	一一九	一三、九八三	一一五	一三、三三三	二	〇、一	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇

即チ鰻ハ成長極メテ良好ナレド歩減甚シカリシ爲メ増重比較的僅少ナリ、之レ夏期傳染性疾病ニ犯サレタリシガ爲ニシテ、病魚隔離シテ豫防ニ努メシガ奏功少ナク漸ク晩秋ニ至リテ終熄セルモノニシテ、之レカぶり病ニ類似ノ徵候ヲ有シタレド春期過度ノ脂肪性餌料ヲ投餌セシ事ナリ、病原不明ナリ、鰻ハ歩減少ケレド成長良好シカラザリシ爲増重少ナシ、之レ鰻苗ハ大正二年放養ニ係ル鰻越魚ニシテ、放養當時五匁内外ノ者ニテ爾後餌付良好ナラズ、而モ其中成長良好ナルモノハ累年選出販賣セシ結果本年度鰻越魚ハ大部分劣等品ニ留マリ餌付ニ付種々注意ヲ拂ヒシモ良好ノ成績ヲ舉ゲル能ハザリシニ依ルモノナリ、又鰻ノ成績良好ナラザリシハ地方産ノ壯成種ヲ購入セシ爲メ餌付キ良好ナラザリシト、且ツ放養期遅延セルニ依ル。

投餌量對生産量

本年度ニ於ケル飼育ノ概況ハ鰻百十六貫三百四十匁、鰻百八十九貫百匁、鰻十三貫九百八十三匁ヲ放養シ、餌料トシテ、麥七斗五合、麥糠十二石四斗二升、醬油粕三石三斗七升五合、生蠶蛹千五百三十貫五百六十匁ヲ投餌シ、鰻三百五十二貫三百七十五匁ヲ生産シ、増肉量鰻二百三十六貫四百九十匁、鰻六十六貫四百五十九匁、鰻二貫三百三十五匁ノ成績ヲ得タリ、即チ此増肉量ヲ前記魚種別投餌量ニ對比セバ増肉一貫匁ニ對シ左記餌料ヲ費消シタルコトナル。

魚種	飼料	麥	麥	糠	醬油	粕	生蠶	蠶	摘	要
鯉		101.5	101.5					335.4	647.2	麥一斗ハ三貫四百多、麥一斗ハ二貫多、醬油粕一斗ハ二貫三百多ナリ
鰻								193.5	193.5	増肉量ハ成長度ヨリ算出セリ
鮠								393.9	393.9	

之レヲ時價ニ評價スル時ハ一貫多ノ増肉ヲ圖ル爲、鯉ハ拾五錢五厘、鰻ハ壹圓八拾參錢八厘、鮠ハ參圓七拾參錢六厘ノ餌料費ヲ要シ、成肉一貫多ノ時價ニ對シ、鯉ハ一割四分、鰻ハ八割五分、鮠ハ四割四分ノ餌料費ノ支出トナリ鯉最モ成績良好ナルコト左表ノ如シ、而シテ鰻鮠ノ成績不良ナリシハ、前述ノ如ク餌付良好ナラザリシニ依ルモノナリ。

魚種	麥		糠		醬油		粕		生蠶		蠶		摘	要
	價	量	價	量	價	量	價	量	價	量	價	量		
鯉	0.010	0.042	0.010	0.010	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	一貫ニ付麥ハ八錢八厘、麥糠ハ七錢醬油粕ハ參錢蠶生蠶ハ一貫ニ付九錢五厘	
鰻													一貫ニ付麥ハ八錢八厘、麥糠ハ七錢醬油粕ハ參錢蠶生蠶ハ一貫ニ付九錢五厘	
鮠													一貫ニ付麥ハ八錢八厘、麥糠ハ七錢醬油粕ハ參錢蠶生蠶ハ一貫ニ付九錢五厘	

經濟

本年度ハ鯉三百五十二貫八百三十多、鰻二百五十五貫五百五十九多、鮠十三貫三百七十五多ヲ生産シ、内鯉一尾百六十多内外ノ者四十五貫五百十多、鰻一尾三十多内外ノ者三十三貫百二十九多、鮠一頭百三十五多内外ノ者三貫六百二十五多ヲ試驗地附近及津山町ニ夫々販賣シ殘部ハ次年度ニ繼承飼育中ニ屬ス而シテ本年度ハ一般ニ魚價低廉ナリシ爲メ、販賣魚ノ評價モ低キヲ免レザリシガ鯉ハ評價比較的良シク鰻及鮠ハ増肉少カリシ爲メ、市價ヨリ、安價ナリキ、從テ收利少カリシハ遺憾ニシテ、支出金額ニ對シ、僅カニ九分弱ノ收益ヲ舉ゲタルニ止マル、其ノ詳細左表ノ如シ。

收支經濟表

魚種	收入ノ部		支出ノ部		小計	摘	要
	數	價	數	價			
鯉	207,310	1,100	116,340	1,074	57,625	試驗地附近ニ販賣ス	
鰻	35,183	1,121	22,731	2,173	328,052	一尾百多内外ニ成長セル次年度繰越魚ノ見積價	
鮠	33,139	2,676	8,311	8,311	395,677	津山方面ニ販賣ス	
計	275,632	4,897	147,382	11,558	88,688	一尾十六多内外ノ次年度繰越魚ノ見積價	
魚苗費			153,056	0,950	112,500	内朝鮮産種一貫二百五十多ヲ單價七圓貳拾錢ニテ試驗地附近ニ販賣ス	
生蠶			10,212	0,950	82,205	一頭百多内外ニ成長セル次年度繰越魚ノ見積價	
計			163,268	1,900	194,705		

餌料費		賃人給料		借地料		用水路費		修繕費		備品費		運搬費		雜費	
麥	0,700	小作米	1,500	一石	17,000										
麥糠	11,200														
醬油粕	3,375														
計	15,275														
主トシテ虫粉ヲ混シタルモノニシテ安價ナリ	2,125														
常用人夫一ケ年一人分七拾八圓及臨時人夫賃	86,500														
用水引用ニ對スル賦課	26,010														
養魚地ノ修繕	18,210														
損料新調及修繕	25,750														
調餌用薪炭ヲ含ム	8,700														
餌料及販賣魚運賃	30,830														
通信費其他	7,700														
計	97,030														

收入金額	支出金額	差引益金	支出金額ニ對スル利益歩合
106,457	97,030	9,427	9.0%

摘要、

本年度ハ收利比較的ニ少ク充分ノ成績ヲ舉グルコト能ハザリシハ、鰻ノ増肉少カリシト、鯉ノ歩減大ナリシニ依ルモノニシテ其原因ハ前述ノ如クナルヲ以テ、次年度ニ於テハ餌付ケニ注意シ増肉ヲ大ナラシムル様努ムルハ勿論從來ノ鰻ハ大部分販賣シ、更ニ一尾十五匁乃至二十匁ノ魚苗ヲ放養一ケ年若クハ二ケ年ニテ收納シ可成の短期間ニ於テ、資金ノ回

收ヲ計ラントス。

尚ホ飼育期間中ニ於ケル養魚日誌ヲ示セバ左表ノ如シ。

養魚日誌

月別	天候		候		氣		水		摘要
	晴	曇	雨	最高	最低	平均	最高	最低	
四月	二〇	三	七	二〇.〇	九.〇	一七.一	二二.〇	一一.〇	鯉ノミニ投餌其回数七回四月六日投餌初ム
五月	二	四	三	二二.〇	一〇.〇	一七.〇	二二.〇	一七.〇	投餌日數十日
六月	一九	四	七	三三.〇	二〇.〇	二六.七	三〇.〇	二四.〇	二十四日迄用水路修繕ノ爲休餌
七月	一九	一	一	三三.〇	二二.〇	二八.七	三〇.〇	二六.九	十二日迄苗放養
八月	二五	四	二	三六.〇	二八.〇	三三.〇	三六.〇	二七.〇	毎日投餌
九月	一五	四	二	三三.〇	二二.〇	二八.五	三三.〇	二九.〇	同上
十月	一六	一〇	四	三三.〇	二二.〇	二八.五	三三.〇	二九.〇	十九日迄苗放養
十一月	一八	八	四	二七.〇	九.〇	一七.五	二二.〇	一八.〇	池邊ノ爲ニ二十三ヨリ月末迄休餌
十二月	二二	四	五	一七.〇	一.〇	一〇.一	二二.〇	三.〇	五日迄休餌
一月	二二	一	一	八.五	零下	一.〇	二二.〇	三.〇	八日迄投餌
二月	一七	七	一	一六.〇	零下	一.〇	二二.〇	三.〇	休餌
三月	一七	八	三	一七.〇	五.五	一〇.九	二二.〇	七.〇	同
平均	二〇	七	四	二五.〇	一〇.一	一八.三	二〇.九	一三.八	同

備考 本表ハ午後二時ニ於ケル日次觀測ニ依ル。

備中區流水養魚試驗

淡水養魚委託試驗

本試験ハ養鯉ヲ主トシ、前年度ニ繼承養池三百六十六坪ヲ充用シ施行セリ。

魚苗ハ前年度繰越魚ノ外本年新ニ稻田養鯉ニ依レル、當歲鯉兒及地方ニテ漁獲セララルル鱸苗ヲ隨時購入放養セリ、即チ鯉苗ハ八月三十日ヨリ十月十日迄ニ一尾体長二寸五分、体重十一匁九分ノモノ三千二百五十尾、三十八貫五百四十五匁ヲ養池三百五十四坪ニ籠ハ五月一日ヨリ十月十一日迄ニ一頭体長三寸六分、体重四十四匁ノモノ七頭三百七匁ヲ養池十二坪ニ放養セリ、而シテ前年度繰越魚ハ鯉百五十二貫八十二匁、鰻三十二貫五百七十匁及ビ、鱸三百四十匁ニシテ、鯉ハ混養トシ、用池三百五十四坪ニ籠ハ單養トシ、用池十二坪ニ放養セルモノナレバ、坪當リ放養量ハ鯉ハ五百三十九匁六分鰻ハ九十匁七分及ビ鱸ハ五十四匁ナル事左表ノ如シ。

魚種	体			尾數	重量	摘
	長	体	重			
鯉	三、五	一六、九	一五、〇	八九九八	一五二、〇八二	前年度繰越魚ニシテ、前年八月ヨリ十月末迄ニ放養ス
	二、五	一一、九	一一、九	三二五〇	三八、五四五	本年放養分
鰻	一三、〇	二〇、〇	二〇、〇	一六二九	三二、五七〇	前年度繰越魚
	二、五	一五、四	一五、四	二二	〇、三三〇	前年度繰越分
計	三、六	四四、〇	四四、〇	七	〇、三〇七	本年放養分

餌料

餌料ハ鯉ニハ、麥糠、大麥及生蠶蛹ヲ鰻ニハ田螺蠶蛹ヲ給與シ四月初旬ヨリ十月末日迄ニ麥糠六十七石二斗、大麥十六石四斗四升八合、田螺二十六石四斗七升一合、生蠶蛹百七十九貫四百匁ヲ使用セリ、而シテ、之等投餌量ヲ放養魚種別ニ區別センニ、麥糠、大麥ハ、全然鯉ニ、田螺ハ鰻、鱸ニ捕食セラレタルモノニシテ鱸ハ單養ナレバ、投餌量分明ス

レドモ、鯉鰻混養餌料タル生蠶蛹ヲ放養魚種別ニ分ツ事困難ナリ、然レドモ前年度ノ經驗ニ依レバ鯉鰻ノ捕食割合ハ鯉二割鰻八割ナレバ、更ニ放養量ノ割合ニ依リ、魚種別捕食量ヲ捕食率ト放養率トノ相乗積ノ比ニテ分ツヲ得ベク、然ル時ハ魚種別投餌量ハ左表ノ如クナルベシ。

魚種	餌料			摘
	麥糠	大麥	生蠶蛹	
鯉	六七、二	一六、四四八	九九、三五六	麥糠、大麥ハ煮沸シタル後投餌セリ生蠶蛹ハ其儘又ハ細切シ田螺ハ粉碎シテ投餌セリ
	一	一	六九、〇四四	
鰻	一	一	一、〇〇〇	計
	六、七、一〇〇	一六、四四八	一、七九、〇〇〇	

成長度並ニ生産量

十月十六日池浚ノ結果ニ依レバ放養時ニ比シ鯉繰越分ハ、三倍四分、鰻ハ一倍三分、繰越分鱸ハ一倍三分本年放養分ハ一倍五分ノ成長ヲ遂ゲタリシガ鯉本年放養分ハ放養期遅延セシ爲メ増重殆ンドナク、生産量ハ鯉繰越分、六千五百四十七尾、三百九十貫九百一匁、本年放養分二千九百四十七尾、三十四貫七百五十匁ヲ鰻九百二十尾、二十三貫七百六十八匁ヲ鰻繰越分十頭二百匁、本年放養分六頭三百九十五匁ヲ計上シ、歩減ハ鯉繰越ハ二割七分、本年放養分一割鰻四割四分鰻繰越分五割五分、本年放養分一割四分ニシテ、坪當リ増量鯉ハ六百六十四匁、鰻ハ十五匁三分鰻ハ十一匁一分ナル事左表ノ如シ。

魚種	放			採			摘
	体	長	重	体	長	重	
鯉	三、五	一六、九	一五、〇	六、四	五九、七	五九、七	前年度繰越分
	二、五	一一、九	一一、九	二、五	一一、八	一一、八	本年度放養分

魚種	尾數	重量	尾生數	重量	步減數	增重量	摘	要
鯉	1,810	1,810	1,810	1,810	2,519	前年度繰越分		
鰻	11,500	11,500	11,500	11,500	20,000	同		
計	13,310	13,310	13,310	13,310	25,519	本年度放養分		

魚種	尾數	重量	尾生數	重量	步減數	增重量	摘	要
鯉	8,998	1,510,083	6,547	3,900,911	2,451	3,388,299	前年度繰越分	
鰻	3,150	38,545	2,947	3,750	3,000	3,750	本年度放養分	
計	12,148	1,548,628	9,494	3,904,661	5,451	7,138,299	前年度繰越分	
計	12,148	1,548,628	9,494	3,904,661	5,451	7,138,299	本年度放養分	

投餌量對生產量、

本年度ハ鯉百九十貫六百二十七匁、鰻三十二貫五百七十匁及ビ鰻六百四十七匁ヲ放養シ、麥糠六十七石二斗、大麥十六石四斗四升八合、田螺二十六石四斗七升一合、生蠶蛹百七十九貫四百匁ヲ投餌シ鯉四百二十五貫六百六十一匁、鰻二十二貫七百六十三匁及ビ鰻五百九十五匁ヲ生産セリ、而シテ麥糠六十七石二斗、大麥十六石四斗四升八合及生蠶蛹九十九貫三百五十六匁ヲ鯉ニ、生蠶蛹六十九貫四十四匁及田螺二十六石二斗七升一合ヲ鰻ニ、又生蠶蛹十一貫匁、田螺二斗ヲ鰻ニ夫々投餌シ、増肉量鯉ハ二百三十五貫三十四匁、鰻ハ五貫四百三十八匁、鰻ハ百三十四匁ヲ得タルモノナレバ一貫匁ノ増肉ヲ關ル爲ニ鯉ニハ、生蠶蛹四百二十三匁、麥糠二斗八升六合、大麥七升ヲ、鰻ニハ生蠶蛹十二貫七百二十匁、田螺四石八斗四升ヲ鰻ニハ、生蠶蛹八十二石八升九合、田螺一石四斗九升三合ノ餌料ヲ要シタル事トナルベク、更ニ之ヲ時

價ニ評價シテ相對比セバ成肉一貫匁ノ價格ニ對シ、鯉ニハ其七割一分、鰻ニハ二十割鰻ニハ、八割一分ノ餌料費ヲ消費シタル事トナリ何レモ、餌料ノ増肉係數極メテ、少ク成績良好ナラズ。

魚種	増肉一貫匁ニ對スル投餌量		同上		計	成肉一貫匁ノ價格	摘	要
	麥糠	大麥	生蠶蛹	田螺				
鯉	0.118	0.070	0.058	0.035	0.181	1.100	麥糠一石壹圓六拾錢	
鰻	0.118	0.070	0.058	0.035	0.181	1.100	大麥一石五圓	
計	0.118	0.070	0.058	0.035	0.181	1.100	生蠶蛹十貫九拾五錢	
計	0.118	0.070	0.058	0.035	0.181	1.100	田螺一石七拾錢	

經濟、

本年度ハ鯉九千四百九十四尾、四百二十五貫六百六十一匁、鰻九百二十尾、二十二貫七百六十三匁及ビ鰻十六頭五百九十五匁ヲ生産シ、內鯉千六百二十尾、百四十四貫六百六十一匁、鰻五百六十九尾、十四貫七百六十三匁及ビ鰻六頭三百九十五匁ヲ近郊ニ販賣シ、殘部ハ次年度ニ繰越飼育中ニ屬シ、之ガ收支經濟ハ左表ノ如ク、支出金額ニ對シ二割二分ノ欠損ヲ見タリ。

收入細別表

魚種	收入種別	數	量	單價	小計	計
鯉	販賣	1,810	1,810	1,590	2,879	2,879
	次年度繰越	1,000	1,000	1,000	1,000	
鰻	販賣	11,500	11,500	11,500	131,000	131,000
	次年度繰越	1,000	1,000	1,000	1,000	
計		13,310	13,310	13,310	135,879	

淡水養魚委託試驗		合 計	1,000	1,000
販賣		0,395		
次年度繰越		0,100		
計		0,595		

支出細別表

支出費目	數	單	價	小計	摘要
魚苗費	計			1,000	前年度繰越分
鯉	152,083		0,943	1,000	前年度放養分
鰻	38,545		0,748	1,000	前年度繰越分
鯉	計			1,000	前年度繰越分
魚苗費	計			1,000	前年度繰越分
鯉	32,570		2,000	1,000	前年度繰越分
鰻	0,307		8,000	1,000	前年度繰越分
計				1,000	前年度繰越分
飼料費	計			1,000	前年度繰越分
麥	67,100		1,600	1,000	前年度繰越分
大麥	16,448		5,000	1,000	前年度繰越分
生蠶蛹	17,900		0,950	1,000	前年度繰越分
田螺	36,471		0,700	1,000	前年度繰越分
計				1,000	前年度繰越分
常用入夫給料	1ヶ月		10,000	1,000	一人分
借地料	1ヶ月		10,000	1,000	一人分
計				1,000	前年度繰越分
水路使用料	1ヶ月		10,000	1,000	一人分
池溝修繕	1ヶ月		10,000	1,000	一人分
飼料及魚苗運賃	1ヶ月		10,000	1,000	一人分
調餌用薪炭ヲ含ム	1ヶ月		10,000	1,000	一人分
新調及修繕費	1ヶ月		10,000	1,000	一人分
通信費其他	1ヶ月		10,000	1,000	一人分

水路	10,000	用水路使用料一ヶ年分
修繕	10,000	池溝修繕
運搬	10,000	飼料及魚苗運賃
消耗品	10,000	調餌用薪炭ヲ含ム
備品	10,000	新調及修繕費
雜費	10,000	通信費其他
計	78,211	

收支對稱表

收入金額	569,635	支出金額	738,321	差引損金額	168,686	支出金額ニ對スル損金歩合	29.6%
------	---------	------	---------	-------	---------	--------------	-------

摘要

之レヲ要スルニ、本年度ハ支出金額ニ對シ、二割二分ノ欠損ヲ見ルニ至リ、成績不良ニ終リシハ主トシテ、鯉鰻ノ酷暑ノ被害ニ依リ、鰻ハ逸出シテ歩減大ナリシニ起因スルモノナレド、概シテ餌料ノ増肉係數少ナク、成育不良ノ傾キアレバ次年度ニ於テハ飼育特ニ投餌上ニ注意シ、歩減ノ減少ト増肉ノ増加ヲ圖ラムトス。

美作區流水養魚試驗

本試驗ハ鰻鯉混養ヲ目的トシ、前年度ニ繼承飼育ヲ委託施行セシガ、六月二十六日不慮ノ大出水ニ際會シ、放養魚ノ大部分ヲ逸出セシメシ爲メ成績不良ニ終レリ。

本年度ハ鯉二歳魚ヲ多少購入放養スル外主トシテ、前年度繰越魚タル、鯉六十貫、鰻百五十貫ノ繼承飼育ヲナスノ豫定ニシテ四月三十日及五月十四日ノ兩回ニ鯉六貫五百六十匁、四百五十五尾ヲ養池三百三十六坪ニ放養シ坪當リ、鯉ハ百九十八匁一分鰻ハ四百四十六匁四分ノ割合ニテ飼育セシ事左表ノ如クナリシガ、六月二十六日出水ノ爲メ放養魚ノ大部分ヲ逸出セシムルニ至リシ爲メ補給トシテ、鯉兒當才魚四千尾一尾二匁内外ノ者ヲ七月二日及八月三日ノ兩回ニ放養セリ、又鰻苗ノ補缺ハ秋末之ヲ施行スルノ予定ナリシガ、不漁ノ爲メ放養スルコト能ハザリキ。

魚種	体長	体重	全池		坪當		摘
			尾數	重量	尾數	重量	
鰻	1貫、5匁	110、000	5、750	110、000	11、2	4、460	繰越魚
	1貫、0	110、000	11、0	60、000	0、9	1、78、6	
鯉	5匁、0	11、0	4、550	6、550	1、3	1、9、5	同
	11、0	11、0	8、000	8、000	11、9	23、8	
							四月三十日及五月十四日放養
							七月二日及八月三日放養

餌料

餌料ハ生蠶蛹ヲ主トシ、補充用トシテ、鰻ニハ田螺、干蠶蛹ヲ、鯉ニハ麥糠ヲ使用セリ、而シテ、四月初旬ヨリ投餌ノ豫定ナリシモ、水温下降セル爲メ餌付宜シカラズ、漸ク五月一日ヨリ、投餌ヲ開始シ、成績良好ナリシガ、六月二十六日出水ニ際會シ、鰻逸出セシヲ以テ、爾來主トシテ、鯉ニ投餌シ、九月十七日池浚迄ニ生蠶蛹百二十四貫、干蠶蛹二十七貫八百五十匁、田螺四十三貫八百匁麥糠一石五斗三升ヲ使用セシ事左表ノ如シ。

月次	生蠶蛹	干蠶蛹	田螺	麥糠	雜	摘	要
五月	110、000	110、000	10、400	0、5	0、3	一日ヨリ投餌ス、餌付良好、十四日	鯉十一貫五百匁放養

月次	生蠶蛹	干蠶蛹	田螺	麥糠	雜	摘	要
六月	15、000	7、000	11、900	0、3	0、3	二十六日出水後、三日間休餌	
七月	80、400	0、0	0、0	0、1	0、1	二日鯉兒二千尾放養	
八月	20、000	0、0	0、0	0、1	0、1	三日鯉兒二千尾放養	
九月	17、000	0、0	0、0	0、0	0、0	十七日後休餌ス、三十日池浚ヲナス	
計	119、000	7、000	23、800	0、4	0、4		

成長度并ニ生産量

本年度ハ水害ノ爲メ放養魚ノ大部分ヲ逸出スルニ至リ九月三十日池浚ノ結果鰻ハ僅カニ、二貫匁四十二尾、鯉ハ四十六貫五百匁、二百九十尾ヲ殘存セリ、而シテ水害以前ニ於テ鯉一尾平均二百匁内外ノモノ五十尾十貫匁鰻一尾三十五匁平均ノモノ七百十四尾二十五貫匁ヲ採捕販賣セシヲ以テ、本年度歩減ハ鰻八割、鯉五割四分ニシテ、生産總量鰻二十七貫五十六匁五百匁ヲ計上シ、成績不良ニ終レリ、從テ成長度ニ關シテハ精細ナル調査ヲナス能ハザリシガ、九月三十日池浚當時ノ殘存魚ニ就キ檢セルニ鰻ハ大ナル者六十匁乃至七十匁ニ成長シ平均前述ノ如ク四十二匁内外ノ成績ヲ示シ、鯉ハ五百匁内外ノ者四十尾二百匁乃至三百匁ノモノ五十尾七十匁内外ノ者二百尾ナリシヨリ考案スレバ、鰻ハ増重僅少ナリシガ、鯉ハ前年繰越魚ハ二倍四分乃至一倍二分、本年放養魚ハ四倍九分内外ノ成長ヲナセリ、又本年放養ノ當才魚兒ハ五匁内外ニ成長シ、總量十二貫匁ヲ算シ經過良好ナリ。

生産量對投餌量

生産量對投餌量ノ關係ハ放養魚逸出シ正確ナル増重量ヲ知ル能ハザル爲メ比較ヲ省略ス。

經濟

本年度成績ノ概況鰻ハ六十六貫、五百五十尾及當才鯉兒四千尾ト鰻百五貫匁ヲ放養シ、餌料トシテ、生蠶蛹百二十四貫匁、

千蠶蛹二十七貫八百五十匁、田螺四十三貫八百匁麥糠一石五斗三升ヲ投餌セシガ、水害ノ爲僅カニ鯉五十六貫五百匁、二十七貫當才鯉兒十二貫匁ヲ生産セシノミニシテ、當才鯉兒ヲ除ク外他ノ生産魚ハ全部池浚後販賣セシガ、支出金額ニ對シ、七割強ノ缺損ヲ見ルニ至リシコト左表ノ如シ。

收支經濟表

品目		收入ノ部		支出ノ部		摘要	
計	量	單	價	計	小	計	摘
鯉	27,800		1,100	27,800		27,800	生産品販賣
鯉兒	12,000		1,000	12,000		12,000	同
鯉	56,000		1,000	56,000		56,000	次年度繰越魚見積
計			3,100			3,100	
魚苗	100,000		1,100	100,000		100,000	繰越魚
同	60,000		1,000	60,000		60,000	同
同	6,500		1,000	6,500		6,500	本年放養二才魚
計	166,500		3,100	166,500		166,500	同
餌料	1,200		1,000	1,200		1,200	當才魚
田蠶	4,800		0,110	4,800		4,800	
麥糠	1,500		0,000	1,500		1,500	
計	7,500		2,110	7,500		7,500	
雇人給料				23,645		23,645	臨時雇人料ヲ含ム
借地料				31,000		31,000	
物置借上料				10,000		10,000	
消耗品費				3,200		3,200	
備品費				2,415		2,415	
雜費				28,310		28,310	薪炭運費費其他
計				108,570		108,570	
收入總額	155,150			155,150		155,150	
支出總額				263,740		263,740	
差引損						108,590	
金						368,520	
支出金額ニ對スル欠損歩合						七割	

收支對照表

收入總額	支出總額	差引損	金
155,150	263,740	108,590	368,520
			七割

摘要

之レヲ要スルニ本年度ハ成長可ナリ良好ナリシガ不測ノ水害ノ爲メ放養魚ノ大部分ヲ逸出シ、支出金額ニ對シ七割ノ欠損ヲ見ルニ至リ成績不良ニ終リシガ、次年度ニ於テハ繰越ノ當才鯉兒ノ繼承飼育ヲナスト共ニ、百貫内外ノ鰻苗ヲ補給セント欲ス。

ハ、鮎蓄養試驗

本試驗ハ、鮎ノ短期蓄養ヲ目的トシ、前年度ニ繼承、赤磐郡石生村、松島嘉太郎ニ委託施行セリ。
養池ハ同村大字田原上ノ井手ニ沿ヒ、面積十坪水深三尺中央ニ一坪ノ深サ五尺ノ深所アリ、井手ニ沿ヒ、二個ノ注排

水口ヲ備ヘ河水ヲ引用シテ、池水温度ノ調節ニ便セシメ、尙本年度ハ、外敵ノ侵害及ビ防寒ノ爲池上ニ板及ビ葎ヲ以テ覆蓋ノ設備ヲ施セリ。

鮎ノ放養ハ累年試験成績ニ依レバ、早キ程効果良好ナルヲ以テ、本年度ハ初秋之ガ漁獲ニツトメシモ、適當ノ種魚ヲ得ズ漸ク九月八日一尾二十匁内外ノ者八十五尾一貫七百五十匁ヲ放養セリ、然ルニ放養前河水温ト池水温トノ調節ヲ圖リタルモ、河水減水シテ意ノ如クナラズ、河水温二十二度、池水温二十六度ニシテ、四度ノ差アリ、且ツ放養魚ハ鰓繩ヲ以テ、漁獲シ疲勞セルモノ多ク、体ノ各部ニ損傷ヲ被ムリシ爲メカ、斃死スル者多ク放養後三日ニシテ五十五尾ヲ失フニ至リ、生育不可能ナルヲ認メタルヲ以テ試験ヲ中止セリ、

次デ九月二十七日同所築ニテ漁獲セル者ノ中健全ナル種魚ヲ撰別シ雌百八十尾、雄百六十四尾計三百四十四尾七貫百匁ヲ得、同日養魚池ニ放養セリ、當時河水温二十度、池水温二十三度半ナリシヲ以テ、河水ヲ引用シ、水温ノ調節ニツトメ、池水温二十一度半トナシタル後放養セル者ニシテ放養魚ノ大サ左表ノ如シ。

測定箇所	体形		最	多	分	摘	要
	大	小					
体長	八、〇	五、七	七、三	七、三	測定八十尾平均ニ依ルモノニシテ大ノ分ハ雌魚ニ多ク小ノ分ハ雄魚ニ多シ		
体重	三、五、〇	六、九	二、一、五	同	同上		

爾來餌料トシテ乾燥餅ヲ一日一合乃至五合宛時々水面ニ投下セシニ、其都度水面ニ飛躍シテ、捕食ノ狀ヲ示シ、又斃死魚ヲ解剖シテモ胃中ニ餌料ノ破片ヲ包藏スル者アリテ、經過良好ナリキ、又河水ヲ引用シテ、水温ノ調節ニツトメシガ十一月下旬ニ至リ、河水温十度内外ニ降下セシヲ以テ、池水温ノ下降ヲ防グ爲メ、河水ノ引用ヲ中止シ投餌モ、亦此ノ頃ニ至リ、放養魚ハ池底ニ潜ミ攝餌ノ模様ナキヲ以テ中止セリ。

而シテ、十月中ハ僅カニ七尾ヲ失ヒシノミナリシガ、十一月下旬ニ至リ、一日一尾乃至四五尾宛斃死シ同月中ノ斃死數四十四尾ヲ算スルニ及ビ、更ニ十二月上旬迄ハ略前月ト同様ノ状態ヲ維持セシガ、中旬以降日々十四、五尾宛斃死シ、月末迄ニ二百七十七尾ヲ失ヒ一月八日迄ニ全滅シ試験ヲ中止スルノ止ムナキニ至レリ。
之ガ原因ニ就キ調査セシニ、蓄養初期ニ於ケル斃死魚ハ何レモ生殖器成熟シ、投餌セシ餅ノ破片ヲ胃中ニ包藏セル者多ク且ツ、体色、雄魚ハ黒變セルモ、雌魚ハ著シキ變化ヲ認メズ、然ルニ十二月中旬以降斃死セル者ハ雌雄共ニ体色黒變シテ瘡セ、生殖器未熟ノ者アリ、胃中及腸管内ニ硅藻類及接合藻類ニ属スル植物ノ少量ヲ含有セリ、又雌魚中熱卵ヲ有スルモノハ腸壁ヲ壓迫シテ、卵巢ノ露出スルモノ少カラズ、之レニ依レバ蓄養魚ハ、常ニ攝餌習性ヲ有スレド、生殖器ノ異狀發達ハ之ガ障害ヲナセル者ノ如ク斃死魚ノ状態左表ノ如シ。

斃死日	体長		体高		体重		斃死魚状態
	大	小	大	小	大	小	
十月十六日	七、五	七、五	一、〇	一、〇	二、〇	二、〇	体色背部稍黒色成熟卵腹腔ニ充實シ、消化管ヲ包藏ス、胃中ノ卵ノ破片多ク膽囊膨大シ膽汁充實ス。
十一月四日	七、一〇	七、一〇	一、〇〇	一、〇〇	一、六、八	一、六、八	体色漆黒精囊腹腔ニ充實、胃中餌料ナカリシモ膨大セリ、腸管内ニ坩堝及硅藻類殘留ス。
全 九日	六、七〇	六、七〇	〇、九六	〇、九六	一、四、三	一、四、三	体色黒變シ胃部膨大シはしがたみごろノ多量、硅藻類砂粒ヲ殘存ス。
全 十九日	六、八〇	六、八〇	一、〇三	一、〇三	一、七、六	一、七、六	卵巢未熟ニシテ胃部膨大シ、水飴狀物及あみノ脚部破片殘存ス。
全 二十四日	六、五〇	六、五〇	一、〇五	一、〇五	一、三、二	一、三、二	体色稍黒變シ腎臟毀損成熟卵ヲ有シ胃部壓迫セラレ食餌ナシ。
十二月九日	六、九〇	六、九〇	一、〇五	一、〇五	一、四、七	一、四、七	体ノ全面黒色精囊腹腔ニ充實シ、胃中食餌ナシ。
全 十三日	七、一〇	七、一〇	一、〇〇	一、〇〇	一、五、〇	一、五、〇	体色黒變シ腹腔未熟卵充實胃部膨大シテ水飴狀物及昆虫(くも類?)ノ破片アリ。
全 十四日	七、五〇	七、五〇	一、一〇	一、一〇	二、〇、〇	二、〇、〇	体ノ背部漆黒色腹腔卵巢充實未熟卵及死卵ヲ多量存シ、一部腹壁ヨリ露出ス、胃部膨大シ水飴狀物充實腸管内ニハ多量ノ硅藻ト坩堝アリ、

十二月廿一日	五、八〇	〇、九〇	二、〇〇	♀ 体色黒變シ成熟卵ヲ充實ス、卵巢腹壁ヨリ露出ス、胃中食餌ナシ。
十二月二十二日	六、〇〇	〇、七六	九、八	♂ 体色黒色ニシテ胃中食餌ナシ腸内ニ不消化餌料及泥塊アリ。
十二月二十四日	六、八〇	一、〇五	一六、八	♀ 体色黒變シ腸腔成熟卵充實シ、消化管壓縮セラレ食餌ナシ。
十二月二十六日	六、八〇	一、一〇	一八、九	♂ 体色同上胃部膨大シあをみごろノ多量及めろしら、ぶりうろしぐまノ少量ヲ含有ス。
一月十日	四、八〇	〇、六四	四、六	♀ 体殆んど全部黒變シ成熟卵ヲ包藏ス、胃中あをみごろ、ほしがたみごろノ多量ヲ存ズ。

以上斃死魚ノ状態ヨリ察知セバ蓄養魚ハ餌料ヲ求メナガラ生殖器官發達シテ、消化器ヲ壓迫セル爲メ所要ノ攝餌ヲナス能ハザルモノノ如ク、從テ嘗テ生殖器構成ノ爲メ消耗セラレタル体質ハ恢復セララルニ至ラズ、加フルニ寒氣ノ爲犯ナレテ、体質ハ消耗セララルノミトナリ、衰弱ノ極遂ニ斃死セシガ如シ。

而シテ、之ヲ累年試験成績ニ徴スルニ畧同様ノ斃死經過ヲ示シ、到底産卵期、當時ノ成魚ヲ以テシテハ蓄養不可能ナルヲ認め、而モ溯河當時ノ幼魚ハ種魚トシテ、之ヲ求メ難ク、本試験ノ目的ヲ遂行シ得ハザルヲ以テ、本年度限り之ガ試験ヲ中止セリ。

尙ホ本年度蓄養中ノ觀測表ヲ示セバ左表ノ如シ。

月 日	天候	氣 温	池水温	投餌量	摘 要
九月八日	晴	二九、〇	二六、〇	ナシ	八十五尾一貫七百五十匁放養ス。
九月九日	全	二七、五	二三、五	全	七尾斃死ス。
九月十日	全	二七、〇	二三、七	全	二十三尾斃死ス、魚体ニ毀損個所多シ。
九月十一日	全	二七、〇	二四、〇	全	二十五尾斃死シ残存セル者モ水上ニ浮游シ、生存ノ見込ナキ爲メ引上げ試験ヲ中止ス。
自 十二月二十六日					試験中止セシ爲観測セズ。

月 日	天候	氣 温	池水温	投餌量	摘 要
十二月二十七日	晴	二七、〇	二三、五	ナシ	三百四十四尾七貫百匁ヲ放養ス。
十二月二十八日	全	二四、〇	二三、五	全	七尾死ス、魚体毀損ス、攝餌ノ模様少キ爲少量投餌ス。
十二月二十九日	全	二二、〇	二二、五	全	投餌ノ都度水面ニ飛躍シ攝餌ノ模様アリシ爲投餌量ヲ増ス。
十二月三十日	全	一一、五	一一、五	全	一尾死ス魚体毀損ス。
一月一日	全	一一、五	一一、五	全	
一月二日	全	一一、五	一一、五	全	
一月三日	全	一一、五	一一、五	全	
一月四日	曇	一一、五	一一、五	全	
一月五日	曇	一一、五	一一、五	全	
一月六日	晴	一一、〇	一一、〇	全	
一月七日	全	一一、五	一一、五	全	
一月八日	全	一一、五	一一、五	全	
一月九日	全	一一、五	一一、五	全	
一月十日	全	一一、五	一一、五	全	
一月十一日	全	一一、五	一一、五	全	
一月十二日	全	一一、五	一一、五	全	
一月十三日	全	一一、五	一一、五	全	
一月十四日	全	一一、五	一一、五	全	
一月十五日	全	一一、五	一一、五	全	
一月十六日	全	一一、五	一一、五	全	
一月十七日	全	一一、五	一一、五	全	
一月十八日	全	一一、五	一一、五	全	
一月十九日	全	一一、五	一一、五	全	

爾後ノ攝餌宜シク經過良好ナリ。

体長	大ノ分			小ノ分			摘要
	大ノ分	小ノ分	最多分	大ノ分	小ノ分	最多分	
体高	三、五〇	〇、六三		一、六六	〇、三三		測定ハ十尾平均ニ依ル。
体重	三、四〇	〇、四三		〇、九六	〇、三三		

五、淡水魚族人工孵化試驗

本試驗ハ積極的ニ河川ノ生産ヲ増進セシメントスルニアリテ、淡水魚族中重要種タル鮎及鱒ニ就キ吉井川ニ於テ人工孵化放流試驗ヲ施行セリ。

イ、鮎人工孵化放流試驗

本試驗ハ前年度ニ繼承シ孵化場ノ位置ヲ吉井川下流禁漁區域タル上道郡御休村大字一日市地先ニ設置セリ。孵化槽ハ前年度使用セル河水用孵化槽一個ノ外本年新ニ、三個ノ河水用孵化槽ニあつきんす式孵化槽ヲ配合セル者ヲ増設シ蘆田橋下ノ河中ニ建テタル支柱ニ繫キ水ノ増減ニ應ジ自由ニ昇降シ得ル様十月一日迄ニ設備ヲ完了セリ。親魚ハ前年ノ經驗ニ基キ禁漁場内ノ瀬付場ニ群集スル者ヲ晝間五人網ニテ捕獲セシガ雌魚ノ朶朶成績良好ナルニ係ハラズ、雄魚ノ多クハ射精後ノ者ニシテ受精用トシテ、不適當ナルヲ認メタルヲ以テ十日十一日以降ハ晝間五人網ニテ雌魚ヲ捕獲シ活洲ニ貯ヘ夜間之レヲ漁場ニ運搬シテ、鮎掛鈎ニテ得タル雌魚ヲ直チニ使用シテ受精セシムル事トシ、良好ノ成績ヲ舉グルヲ得タリ、漁獲狀況ハ採卵初期ノ十月八日及九日ハ雌魚ノ漁獲多カリシガ、十四日以降ハ雄魚ノ方多ク産

卵盛期ハ十日前後ナリシガ如ク、其ノ大サ左表ノ如シ。

体長	雌			雄			摘要
	大ノ分	小ノ分	最多分	大ノ分	小ノ分	最多分	
体重	八、〇	四、六		七、七	四、六		測定ハ採卵前ノ者廿尾平均ニ依ル
	四、七	五、二		一、六	一、九		

受精ハ大形羽幕中ニテ乾導法ニ依リ、行フ事前年度ト同法ニシテ、雌魚一尾ニ對シ四五尾乃至一、二尾ノ雄魚ヲ配合セリ。採卵ハ十月八日ニ開始シ全月十九日迄七回ニ雌魚九百四十七尾、雄魚二千七百六十八尾ヨリ、魚卵約五百十三萬粒ヲ採卵セシ事左表ノ如シ。

採卵月日	採卵數	採卵用親魚數		摘要
		雌	雄	
十月八日	一、四八〇、〇〇〇	二二	一〇一	雌魚ノ約四割ハ射精後ノ者ナリ、雌魚一尾朶朶數約七千粒。
全九日	九〇〇、〇〇〇	一五三	五三三	雌魚ノ約三分五割ハ射精後ナリ、雌魚一尾朶朶數約五千九百粒。
全十一日	五八〇、〇〇〇	五	三三	雌魚ノ漁獲多ク、而カモ多量ノ精液ヲ有ス雌魚一尾ノ朶朶數約六百粒。
全十四日	四八〇、〇〇〇	六〇	一一三	雌魚ノ漁獲多クシテ、良好雌魚ハ掛鈎ニシテ大キク一尾ノ朶朶數約八千粒。
全十六日	五二〇、〇〇〇	一一七	二七九	雌魚ノ漁獲少ク放卵後ノ者ヲ混ズ、一尾ノ朶朶數約四千九百粒。
全十八日	七九〇、〇〇〇	一八一	三五二	雌魚ノ漁獲少ク放卵後若クハ過半數放卵ノ者三割ヲ混
全十九日	四〇〇、〇〇〇	一一五	三七九	雌魚ノ漁獲少ク小形トナリ、約四割ハ放卵後ノ者ニシテ
計	五、一四〇、〇〇〇	九三七	三、七六八	雌魚ノ約四分ハ射精後ノ者ナリ、雌魚一尾朶朶數約七千粒。

受精卵ハ棕栞皮ニ附着セシメ、あときんす式孵化盆ニ併べ河水用孵化槽内ニ收容シ、三日ニ一回宛孵化槽ノ儘水中ニテ洗滌シ卵膜上ニ附着セル汚物ヲ除却シ、孵化ニカメシガ、採卵後七日乃至十六日ニシテ孵化セリ。

孵化成績ハ親魚ノ如何ニ依リ非常ニ異ナリ、第一回及第二回採卵分ハ、雄魚ノ射精後ノ者多ク受精良好ナラザリシ爲メカ、前者ハ十日發眼シタルモ約九割斃死シ後者ハ十一日及十二日ニ約四割發眼セシノミニシテ、二十日孵化終了迄ニ更ニ其ノ半数ヲ失ヒ成績不良ナリキ、然レモ第三回以降採卵セル者ハ雄魚ノ射精良好ナリシ爲メ、成績宜シク、孵化率九割乃至九割八分ヲ示シ、第三回分ハ十月二十日ニ第四回分ハ二十二日ニ、第五回分ハ二十三日ニ第六回分ハ二十五日ニ、第七回分ハ十一月四日ニ孵化終了セリ、即チ採卵總數五百十三萬粒ニ對シ、平均約六割ノ孵化率ヲ以テ仔兒三百三萬尾ノ放流ヲ了セル者ニシテ孵化兒ハ孵化槽ノ金網粹ヲ通ジ自由ニ逸出シ得ル様設備セリ。

之ヲ要スルニ、本年度ノ孵化成績ハ第三回採卵以降ハ夜間作業セシ爲メ、良好ノ成績ヲ得タルモ、第一回及第二回採卵分ハ雄魚不良ニテ、殆ンド全滅セシ結果概況ニ於テ不成績ヲ見ルニ至レル者ニシテ、次年度ニ於テハ之レガ欠點ヲ補ヒ、且ツ孵化槽ヲ増設シテ放流數ノ増加ヲ圖ラント欲ス。

尙ホ本試験中ノ觀測日誌ヲ示セバ左表ノ如シ。

月 日	天候	氣 温		水 温		摘 要	
		午前六時	正午	午後六時	平均		午前六時
十月八日	晴	一八、〇	二〇、〇	一七、〇	一八、七	五人網ニテ漁獲セル親魚ヨリ百四十八萬粒採卵。	
全 九日	曇	一八、〇	二二、〇	一八、〇	一八、七	第一回採卵分、發眼セシモ、大部分死滅セリ。	
全 十日	全	一八、〇	二二、〇	一八、〇	一九、三	第三回五十八萬粒夜間採卵、第二回採卵分發眼シ初ム。	
全 十一日	晴	一八、〇	二二、〇	一九、〇	一九、五	河水十一尺ニ増水シ、採卵中止ス。	
全 十二日	雨	一七、〇	一八、〇	一七、〇	一九、八		

月 日	天候	氣 温		水 温		摘 要	
		午前六時	正午	午後六時	平均		午前六時
十月十三日	雨	一九、〇	二二、〇	二〇、〇	二〇、三	第四回四十八萬粒採卵。	
全 十四日	晴	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、三	第三回採卵分發眼シ初ム。	
全 十五日	全	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇	第五回及第六回採卵分發眼シ初ム。	
全 十六日	全	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇	第六回七十三萬粒採卵。	
全 十七日	全	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇	第七回四十四萬粒採卵。	
全 十八日	曇	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇	第一回第三回採卵分發眼。	
全 十九日	曇	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇	第二回採卵分發眼。	
全 二十日	晴	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇	第三回採卵分發眼。	
全 二十一日	全	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇	第四回採卵分發眼終了、孵化率九割八分。	
全 二十二日	全	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇	第五回採卵分發眼ス。	
全 二十三日	全	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇	第六回採卵分發眼終了、孵化率九割六分。	
全 二十四日	全	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇	第七回採卵分發眼ス。	
全 二十五日	全	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇	第六回採卵分發眼終了、孵化率九割八分。	
全 二十六日	全	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇		
全 二十七日	全	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇		
全 二十八日	雨	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇		
全 二十九日	全	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇		
全 三十日	晴	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇		
全 三十一日	全	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇		
十一月一日	全	一九、〇	二二、〇	一九、〇	一九、〇		

十二月二日	晴	九、〇	三三、五	一五、〇	一四、八	一五、〇	一六、〇	一五、三
全三日	全	七、五	一九、〇	一七、五	一四、七	一四、〇	一六、〇	一五、〇
全四日	全	〇、七	二〇、〇	一五、〇	一四、〇	一五、〇	一五、五	一五、二

第七回採卵分解化終ル孵化率九割二分。

口、鱒族人工孵化放流試験

本試験ハ前年度ニ繼承シ、孵化場ヲ苦田郡上加茂村大字知和内田龍平所有ノ舟山川ニ沿ヘル納屋ニ設置シ、前年度使用セルういりあむそん式孵化槽ノ外本年新ニ、三臺ノあどきんす式孵化槽ヲ調製シテ、十一月下旬迄ニ之レガ据付其他一切ノ孵化設備ヲ終了セリ。

魚卵ハ琵琶湖産鮭卵三十万粒購入ノ豫定ナリシモ、不漁ノ爲所要卵數ノ供給ヲ得ズ僅ニ五万粒ヲ得タルノミナルヲ以テ、更ニ群馬縣利根郡片品村丸沼養魚場ヨリ同沼産鮭卵十萬粒ヲ購入セリ。

琵琶湖産鮭卵ハ十一月三日採卵同月二十六日發眼セル者ニシテ、二個ノ箱詰トシ、十二月十一日大津驛發荷、十二日孵化場ニ到着セリ、運搬箱ハ杉六分板製大小二様ニシテ、大ハ幅一尺三寸七分、長二尺五分、深サ一尺一寸五分、小ハ幅一尺七分長一尺八寸九分、深サ一尺六分ニテ、外側ノ各隅ニハ幅一寸四分ノ四分板ヲ深サニ沿ヒ、打チ添へ、又箱ノ内側ニハ卵枠ノ動搖ヲ防グ爲メ長幅邊ノ中央ニ六分乃至一寸二分ノ打添へ板アリ、卵枠ハ大箱用長サ一尺七寸五分幅一寸四分、小箱用長一尺七寸五分幅八寸五分ノ杉板六分角製ノ木枠ニシテ、底面ニ長サ四尺五寸ノ綿布ヲ上面ニ折返シ中央ニテ相重ル様貼付セリ、此卵枠ニ魚卵ヲ收メタルモノヲ大箱ニハ九枚、小箱ニハ八枚ヲ入レ箱ト枠及枠間ノ間隔ニ濕潤セル水苔ヲ填充シ運搬シ來レリ。

丸沼産鮭卵ハ十一月九日採卵十二月七日發眼同月十四日前橋驛發荷十六日孵化場ニ到着セルモノニシテ荷造次ノ如シ

、運搬箱ハ落葉松六分板製ニシテ、長サ一尺九寸、幅一尺深一尺五寸卵枠ハ同板六分角製長サ一尺六寸幅六寸五分ノ木枠ニシテ長邊ノ中央ニ仕切り板アリ、底面ニ綿布ヲ上面ニテ折リ重ナリ合フ様貼付シ此枠十三枚ニ魚卵ヲ收メ運搬器ニ入レ、水苔ヲ填充セリ。

斯ク荷造リセル魚卵ノ孵化場ニ到着スルヤ、直チニ解荷セシニ、鮭卵ノ場合ハ箱内温度九度氣温八度半用水温十度ニシテ鮭卵ノ場合ハ箱内温度十度氣温八度用水温十度ナリシヲ以テ用水ヲ如露ニテ數回箱上ニ撒布シ箱内温度ト水温トヲ畧均等ナラシメタル後徐々ニ魚卵ヲ取出シ孵化盆ニ移シ孵化槽ニ收容セシカ、鮭卵ハ荷造リ宜シカリシ爲メ卵ノ動搖少カリシモ、鮭卵ハ卵枠ノ一隅ニ壓縮セラレタルモノ多ク、且ツ卵膜ノ收縮セルモノモアリテ、荷造リ宜シカラザリキ、而シテ翌朝之ヲ檢卵セシニ、鮭卵ハ約百六十尾ノ孵化兒アリテ、運搬期稍遲延セルノ感アリシニ係ラズ死卵僅カニ五百七十粒ニシテ歩減一分一厘強ニ留マリ成績極メテ良好ナリシガ、鮭卵ハ死卵數四千八百八十三粒歩減四分九厘弱ニシテ成績稍劣レリ、尙ホ卵枠ノ上下ニ依ル死卵數ノ増減ハ大ナル差異ナカリシガ、兩者共ニ上層卵枠ニ於ケルモノハ下層ノモノヨリ、死卵數少ナキト左表ノ如シ。

品名	卵枠順	第一枠	第二枠	第三枠	第四枠	第五枠	第六枠	第七枠	第八枠	第九枠	第十枠	第十一枠	第十二枠	第十三枠	計
鮭卵	大箱	一八粒	三三粒	二〇粒	三〇粒	五三粒	四七粒	三三粒	二六粒	—	—	—	—	—	三一八
	小箱	三〇粒	一六粒	一七粒	二二粒	二六粒	五〇粒	三七粒	五二粒	—	—	—	—	—	二五二
鮭卵	卵	一三三	一七三	二八三	三七三	四八六	三三三	二六三	六八〇	三四四	七七六	二九四	四五二	三〇四	四八八三

備考 卵枠順ハ上部ヨリ下部ニ至ル者ニシテ數字ハ各枠ノ死卵數ナリ。

魚卵ノ孵化槽ニ收容後ハ經過良好ニシテ鮭卵ハ翌日ヨリ孵化シ初メ十二月二十一日頃最モ盛ニ翌年一月八日全ク孵化終

了スル迄死卵千三百十四粒死魚千六百三十五尾ヲ算シ、孵化率九割四分ノ成績ヲ示シ、二月十三日ヨリ孵出シ初メ三月七日頃最モ盛ニ同月十日孵出シ終ル迄僅ニ、三百三十七尾ヲ失ヒシニ過ギズ、又姫鱒卵ハ一月一日頃ヨリ孵化シ初メ同月二十三日頃最モ盛ニシテ、二月十九日孵化率七割四分ノ成績ヲ以テ孵化終了シ、死卵二萬三千二百二十九粒、死魚二千三百十五尾ヲ算シ、鮭卵ヨリ孵化成績劣等ナリシガ爾後經過良好ニシテ、三月二十九日頃ヨリ孵化シ初メ四月十六日頃最モ盛ニ全月十九日孵化終了スル迄七百六十八尾ノ斃死魚ヲ出セルノミ而シテ、姫鱒卵ノ鮭卵ニ比シ孵化成績良好ナラザリシハ前者ハ後者ヨリ荷造宜シカラズ、且ツ遠距離運搬ヲ施行セシ爲メ運搬中ノ歩減稍大ニ、而カモ收容後ノ魚卵ノ發育上ニ多大ノ損傷ヲ與ヘタルニ起因スルモノナルベケレド孵化終了迄ノ姫鱒死卵百粒ニ就キ檢鏡セシ所ニ依レバ發眼卵僅カニ一割胚盤時代ノ者四割卵受精卵五割ノ比例ヲ示シ、採卵用親魚ノ良好ナラザリシニ依ルモノノ如ク、死因攻究上一考ニ値スベシ。

斯クテ鮭ハ三月十七日ヨリ、姫鱒ハ四月二十二日ヨリ干燥餅ノ粉碎セル餌料ヲ投與シ餌付キ良好ナリシガ、鮭ハ三月十九日深更落葉注水樋ニ流レ込ミ注水一時斷絶セシ爲メ魚兒約二萬三千尾ヲ失ヘリ、而シテ、四月初旬頃ヨリ、姫鱒浮出シ初メ孵化槽狹隘ヲ感ズルニ至レルヲ以テ四月九日及五月十一日ノ兩回ニ鮭兒全部ヲ魚兒飼育池ニ坪半ニ放養シ、姫鱒モ亦五月九日新舊孵化槽五台ニ分養セシガ、此間斃死數極メテ少ク僅カニ、鮭兒ハ百六十三尾姫鱒ハ四百五十尾ニシテ魚兒肥大シ攝餌宜シク、經過良好ナリキ、然ルニ鮭兒ハ五月二十九日頃ヨリ日々二十尾宛斃死シ、六月ニ入り三四百尾ヲ失フニ至リシヲ以テ六月七日出張實査セシニ、斃死魚ハ一二日前ヨリ游泳不活潑トナリ、水流ノ溪漫ナル個所ニ押シ流サレ、水底ニ靜止シ溺死ノ瞬間ニ及ベバ恰モ眩暈ヲ起スガ如ク數回激シク旋回シタル後頭部ヲ池底又ハ砂利ノ間ニ衝キ込ミタル儘斃死スルカ、或ハ旋回後全ク游泳力消失シ水流ニ從ヒ排水部ニ流サレ金網ニ吸ヒ付ケラレタルマ、死ニ至ルモノニシテ、概シテ大形ノ者ニ被害多ク且ツ夜間ノ方斃死率大ニ晝間ノ約四倍ニ及ベリ、而シテ斃死魚ハ僅少ノ眼

球白濁セルモノアリシ外、外觀上更ニ症狀ヲ認メズ何レモ肥大シ、又解剖上肝臟ノ稍充血セル者アリシノミニシテ、消化器ニ異狀ナク、攝取セル餌料ハ悉ク消化セラレ、後腸部ニ僅カニ餅ノ附屬肢片ノ殘留スルヲ認メシノミ、鰓ハ充血シ居ラザリシモ、口腔ヲ開キタルマ、斃死セシ者稍々多ク、特ニ夜間ノ斃死魚ニ於テ然リトス、而シテ斃死前後ノ飼育狀況ヲ見ルニ餌料トシテ、與ヘタル、乾餅ハ成分上稚魚餌料トシテ恰好ノ者ナレバ五月二十五日之ガ不足ヲ來シ補充用トシテ與ヘタル鯨肉粉ハ脂肪過多ノ嫌ヒアリタレド、同月末日迄僅カニ六日間ニ約一升弱ヲ與ヘタルニ過ギズ、又投餌量ハ三月十七日餌付ケヨリ五月末日迄飼育日數七十六日間ニ浮出魚兒約二萬四千尾ニ對シ、干餅約九貫匁ヲ給與セシモノニシテ投餌過多ト認メ難キモ、放養量ハ二坪半ノ養池ニ魚兒約二萬四千尾ヲ放養セシ者ナレド放養過量ノ嫌ヒヲ免レズ、以上ノ調査ヲ綜合スルニ斃死原因ハ脂肪過多ノ鯨肉粉ヲ攝餌シ疾病ヲ惹起シタルニ依ル者モ多少アルベケレド、大部分ハ放養過量ノ結果呼吸困難ヲ感ジ窒息途ニ死ニ至リシモノニ非ザルカ、特ニ夜間落葉ノ注水樋金網ニ掛リ晝間ヨリ流量不足セル時ニ於テ、而カモ大ナル魚兒ニ被害多キヨリ者察スレバ然カク首肯シ得ラル、モ被害程度緩漫ナルノ疑点アリテ、其斃死原因ニ就キテハ斷定スルコト能ハザリキ。

然レモ鮭ノ被害ハ七月六日頃ヨリ稍減退セシガ、之ニ反シ姫鱒ハ同日頃ヨリ同様ノ被害ヲ見ルニ至レリ、而シテ被害原因ハ之レヲ探究シ能ハザリシガ放養過量ノ嫌ヒヲ免レズ、他ニ適當ノ飼育池ナキヲ以テ六月八日鮭一萬五千尾姫鱒七萬三千尾ヲ吉井川支流加茂川ニ放流セシガ左記成長度ヲ示シ發育良好ナリキ。

魚種	測定事項			大	小	最	多	摘
	體長	體高	體重					
鮭	11.0	11.0	1.1	11.0	11.0	1.1	1.1	測定ハ二十七尾平均ニ依ル。
鮭	11.0	11.0	1.1	11.0	11.0	1.1	1.1	

姫鱒	體長	1.3m
鱒	體高	0.110
體重		0.110

之ヲ要スルニ本年度成績ハ左表ノ如ク姫鱒ハ良好ナリシガ、鮭ハ孵化及浮出良シカリシニ係ラズ、放流數少キハ浮出後ノ三月二十日育水一時斷絶シテ、二萬三千尾餘即全歩減數ノ大半ヲ失ヒシニ依ルモノニシテ次年度ハ監視ヲ嚴シシ、飼育ニ努メテ放流數ノ増加ヲ圖ラントス。

魚種	入		化		出		放		尾數	同率
	月日	卵數	月日	尾數	月日	尾數	月日	尾數		
鮭	十二月十二日	50,000粒	自十二月十三日至一月八日	47,051尾	自二月十三日至三月十日	46,721尾	六月八日	21,556尾	73.5%	
姫鱒	十二月十六日	100,000粒	自一月十九日至二月十九日	74,456尾	自二月廿九日至四月十九日	73,688尾	六月八日	73,938尾	73.5%	

備考 孵化、浮出及ビ放流ノ各率ハ購入數ニ對スル百分率ニシテ鮭ノ放流數中ニハ池中養殖用魚苗六千尾ヲ含ム。放流後ノ經過ニ就キテハ詳細ナル調査ナク統計上ニ於テモ、未ダ顯著ナル産額ノ増加ヲ見ルニ至ラザルモ近時放流魚ハ吉井川流域ノ各所ニテ漁獲セラレ、殊ニ下流赤磐郡石生村大字田原上井堰附近ノ釜ニテ各期採捕セラル、者多ク十二月下旬ヨリ一月下旬迄ヲ盛期トシ釜一個ニテ、一日五六尾乃至二三十尾ヲ獲得ス、即チ大正五年一月八日同所ニテ採捕セル者拾尾ヲ檢スルニ體長五寸乃至六寸、體高一寸乃至一寸三分、體重十一匁乃至十三匁五分ノ成長度ヲ示シ年齢ハ魚鱗ヨリ査定セバ一年未滿ノ者ニシテ同所附近ニテバ從來在來種ノ鮭ヲ漁獲セシ事ナシト言ヘバ明ラカニ放流魚タルヲ推知シ得ベシ、尙又早春沿海壺網ニテ漁獲セラル、者アリ、即チ大正五年四月十日和氣郡福河村大字福浦地先壺網ニテ及大

正六年三月三十一日邑久郡牛窓町地先壺網ニテ捕獲セル者五尾ヲ檢スルニ體長九寸乃至一尺一寸、體高二寸三分乃至二寸四分、體重七十八匁乃至八十六匁ニシテ年齢ハ魚鱗ヨリ査定セシニ何レモ、二年未滿ノ者ニテ魚體肥滿シ、頭部、小サク體側幽微ニ八九個ノ楕圓形斑紋ヲ存ジ形態本縣産鱒ト異ナレルヨリ見レバ放流魚ノ者ノ如キモ俄ニ斷定シ難シ而シテ之等放流成績ニ關シテハ目下調査中ニシテ殊ニ移殖種タル姫鱒ノ漁獲ハ之ガ解決ヲ明瞭ナラシムベキモ、更ニ次年度ニ於テハ積極的ニ標識放流ヲナシ、放流成績ノ的確ニ指示セントスルモノニシテ參考ノ爲メ前記石生村及牛窓町ニテ漁獲セル當才魚及ビ二才魚ノ標本ヲ插圖ス。

尙ホ本試驗施行中ノ觀測日誌ヲ示セバ左表ノ如シ。

月日	天候	氣温	水温	水温	摘	要
十二月十二日	晴	8.5	10.0	10.0	午後四時鮭卵五万粒孵化場着孵化槽ニ收容ス。	
全 十三日	全 晴	8.0	10.0	10.0	死卵五百七十粒百六十四尾ノ孵化兒アリ。	
全 十四日	雨	7.0	10.0	10.0	死卵百四十粒。	
全 十五日	微雨	7.0	10.0	10.0	午後四時鮭卵十萬粒到着。	
全 十六日	晴	10.0	10.0	10.0	孵化ニ收容ス。	
全 十七日	全 晴	6.0	10.0	10.0	鮭死卵四千八百八十三粒。	
全 十八日	全 晴	5.5	9.7	9.7	鮭卵孵化稍盛ナリ。	
全 十九日	全 晴	6.0	9.6	9.6	鮭死卵二百八十七粒。	
全 二十日	全 晴	6.0	9.5	9.5	鮭孵化盛ナリ。	
全 二十一日	全 晴	6.5	9.5	9.5		

五月九日	曇	一七、四	一、八	姫鱒浮出兒ヲ孵化槽五台ニ分養ス。
全十日	晴	一六、五	一、〇	鮭殘部ヲ魚兒飼育池ニ移ス。
全十一日	雨	一八、〇	一、〇	姫鱒死魚四百五十尾。
全十二日	曇	一一、〇	一、一	
全十三日	曇	一八、〇	一、〇	
全十四日	晴	一〇、八	一、〇	
全十五日	全	一五、二	一、三	
全十六日	全	一八、〇	一、一	
全十七日	曇	二二、〇	一、三	
全十八日	曇	一八、九	一、五	
全十九日	全	二八、四	一、五	
全二十日	全	二七、八	一、六	
全二十一日	全	二〇、〇	一、五	
全二十二日	全	二五、五	一、九	
全二十三日	曇	二一、〇	一、九	
全二十四日	曇	二〇、〇	一、〇	干餅欠乏シ、鯨肉粉ヲ投餌ス。
全二十五日	全	二〇、〇	一、三	
全二十六日	全	二一、〇	一、四	
全二十七日	全	一九、八	一、三	
全二十八日	全	一六、〇	一、六	鯨死魚三十尾、干餅到着鯨肉粉投餌ヲ止ム。
全二十九日	全	二五、六	一、六	
全三十日	曇	一九、〇	一、六	
全三十一日	晴	二四、〇	一、六	

備考 本表ハ午後二時觀測ニ依ル。

六月一日	曇	二三、五	一三、五	同 死魚百五十尾。
全二日	全	二〇、〇	一三、〇	同 二百五十尾。
全三日	晴	一九、八	一三、〇	同 四百尾。
全四日	雨	一五、五	一二、五	同 三百尾。
全五日	曇	一六、五	一三、〇	同 三百尾。
全六日	晴	一六、五	一三、〇	同 三百尾。
全七日	全	一九、八	一三、五	同 二百尾。
全八日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全九日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全十日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全十一日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全十二日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全十三日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全十四日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全十五日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全十六日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全十七日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全十八日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全十九日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全二十日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全二十一日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全二十二日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全二十三日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全二十四日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全二十五日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全二十七日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全二十八日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全二十九日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全三十日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。
全三十一日	全	一九、〇	一二、九	同 二百尾。

鹹水養殖之部

技手 中井信隆擔任

一、壯蠣養殖試験

本試験ハ從來移殖セル、住ノ江牡蠣ノ養殖試験及縣下養殖業ノ改良ヲ企圖スル眞牡蠣養殖試験ノ二項ニ分レ、後者ハ本年度ノ創始ニ依ル者ニシテ、共ニ兒島灣内本場養殖地ニテ試験セリ。

イ、住ノ江牡蠣養殖試験

本試験ハ苗貝ヲ佐賀縣ヨリ移殖シテ蕃殖ヲ圖ラムトスルニアリテ、試験地ハ兒島灣内笹ヶ瀬川ノ川口第六區開墾地拘泥堤切レ所外測ニアリ、面積二千三百七十七坪強ヲ算ス苗貝ノ移殖ハ明治四十一年度ヨリ大正四年度迄ニ百十六石ニ及ビ茲後販賣シ、又ハ斃死セル者アレド成長良好ニシテ、大正四年度末ノ現在石數ハ百三十五石ヲ計上シ、母貝トシテノ數量充分ナルヲ認メタルヲ以テ、本年度ヨリ苗貝ノ移殖ヲ中止シ専ラ移殖種ノ飼育及採苗試験ヲ施行セリ。

飼育ハ毎年夏季一回養殖地内ニ於テ床換ヘヲナスニ、止マリ、次年度ノ作業迄ニハ一尺内外モ埋没シ、斃死スル者多キヲ以テ、本年度ハ埋没ノ度ヲ減ジ、且ツ床換ヘ作業及石數調査ニ便ゼンガ爲メ床換ヘト同時ニ互ニ固着セル牡蠣ヲ個々分離セリ。而シテ、前年度ニ於テハ互ニ固着セル者ニ就キ石數調査ヲナシ、本年度ハ分離セル者ヲ測定セシヲ以テ此ノ圓石數ニ多少ノ差異アルハ免レザレド四月二十七日ヨリ六月三日ニ至ル調査ノ結果ニ依レバ總石數百五十八石四斗ニ

シテ前年度ノ百三十五石ニ比シ、僅カニ二十三石四斗ヲ増石セシノミ、又各年度移殖分ニ就キテハ大正元年度分ハ老衰ノ爲メ二割八分歩減シ大正三年度分ハ一倍七分ノ増加ヲ示セドモ他ハ前年度ト大差ナク個體ノ成長度ハ一倍三分内外ヲ増重セシト左表ノ如シ。

移殖年度	大正五年度石數	大正四年度石數	前年度ニ對スル増減
明治四十四年度	三、四	五、〇	一、六
大正元年度	三、七	五、〇	一、三
大正二年度	六、八	六、〇	〇、八
大正三年度	五、〇	三、〇	二、〇
大正四年度	五、一	五、〇	〇、一
計	一、五八、四	一、三三、〇	二五、四

備考 前年度ハ八月一日調査セルモノナレド本年度分ハ六年四月二十五日現在ナリ。

移殖年度	殻長	殻幅	殻高	重量	摘要
明治四十四年度	六、〇	三、六	一、七	二、四、〇	四十五年一月移殖。
大正元年度	六、八	四、二	一、五	二、九、九	大正二年一月移殖。
大正二年度	六、九	四、八	一、六	三、七、〇	大正三年二月移殖。
大正三年度	五、四	三、八	一、一	二、八、八	大正四年一月移殖。
大正四年度	四、八	二、五	〇、七	五、〇、〇	大正五年二月移殖。

備考 本表ハ三十個測定平均ニ依ル。

尙ホ移殖各年度生總個數及一斗入個數ヲ表示セバ左表ノ如シ。

移植年度	個數	石數	一斗入個數
明治四十四年	七八六	三、四〇	二、三〇
大正元年	五七九	三一、七〇	一、六
大正二年	一、〇七九	六八、一〇	一九
大正三年	二、〇四九	五〇、一〇	四〇
大正四年	四、八八〇	五、一〇	九六
計	四、〇六九	一五八、四〇	四〇

採苗試験。

前年度ノ經驗ニ基キ、本年度ハ牡蠣胚子ヲ飛散セシメズシテ採苗スル様佛蘭西式箱漬採苗法ニ依リ、即チ松一寸板ヲ以テ、長サ、六尺、幅三尺、深サ三尺ノ底板ナキ木箱ヲ造リ箱内三重ニ六個ノ底部金網製木枠ヲ收メ、上部ニ蓋ヲ備ヘ、且ツ海水ノ流通ヲ圖ル爲メ箱ノ側面及上面ニ方一寸ノ小孔多數ヲ穿ツ、此ノ採苗箱ヲ支柱ニ依リ地底上一尺ノ距離ニ設置シ下部ノ木枠二個ニ母貝ヲ上中両木枠四個ニ石灰ヲ塗布セル瓦瓦即チ胚子ノ附着材料ヲ容レ、下方母貝ヨリ放出スル胚子ヲ飛散セシメズシテ、箱内ノ瓦瓦ニ附着ヲ圖ラントスルニアリテ、六月十七日試驗地ノ東北隅ニ之ガ設備ヲ終了セリ斯クテ七月三十日實査セシニ、殻長二分内外ノ住ノ江牡蠣稚貝ト思考セラル、者九瓦一枚ニ付三四十個乃至百二、三十個附着シ、其狀況、瓦ノ上面ハ裏面ヨリ多ク上部木枠分ハ中部ノ者ヨリ多カリシガ、何レモ瓦上一分餘浮泥堆積セル爲メ附着セル稚貝ノ過半數ハ斃死セリ、茲ニ於テ、九瓦ヲ採苗箱ヨリ取り出し、浮泥ヲ洗滌シタル後稚貝ノ附着セル儘養蠟箱ニ收容セシガ、八月下旬ノ暴風ニ際會シ、養蠟箱破損シ、且ツ稚貝ノ瓦ヨリ脱落シテ消失セシ者多ク豫期ノ成績ヲ擧グル能ハザリキ然レドモ九月十日養蠟箱ノ修繕ト同時ニ附近ニ飛散セル稚貝ヲ蒐集シ飼育ニ努メシ結果大正六年四月

十三日調査ニレバ、殻長一寸七分殻幅一寸二分、殻高五分六厘、重量五匁五分、肉量一匁六分(二十個平均ニ依ル、)ノ成長ヲ示シ總量四升五合個數四百二十三個ヲ計上シ、本種採苗上ノ曙光ヲ認メタリ、之レヲ要スルニ箱漬採苗法ハ結果良好ナル者ノ如キモ試驗地ノ如キ浮泥多キ處ニテハ、之ガ除害方法ヲ攻究スルノ必要アレバ、次年度ニ於テハ箱ノ側面ニ一尺内外ヲ穿孔シ海水ノ流通ヲ圖リ以テ浮泥堆積量ト胚子ノ附着狀況ノ關係ヲ試験セントス。

ロ、眞牡蠣養殖試験

近時牡蠣ノ需要激增シ、殊ニ海外輸出ヲ見ルニ至レルヲ以テ形狀宜シク實入り充分ニシテ、且ツ遠距離運搬ニ堪ヘウル様個体ノ形態ニ重キヲナスニ至レリ、然ルニ本縣養蠟地ハ底質軟泥ニシテ浮泥多ク産出牡蠣ハ之等需要者ノ嗜好ニ投ズル能ハザルヲ以テ、從來ノ養蠟法ヲ改善シ聲價ヲ高メシメンガ爲メ、本試験ヲ施行セントスルニアリテ本年度ノ創始ニ係ル。

試驗地ハ兒島灣内住ノ江牡蠣養殖地ノ北部ニ近接シテ採苗地千三百一十坪ヲ、及ビ同灣口高島東部ニ七千四百五十六坪ノ養成地ヲ設置セリ。

試驗方法ハ佛蘭西式瓦漬採苗法ニ依リ採苗セル稚貝ヲ約半ケ年間採苗地ニテ養成シタル後瓦ヨリ脱離シテ一ツ牡蠣トナシ、高島養成場ニテ二ケ年内外飼育シ、此ノ間一潮ニ數回ノ打チ返シヲ施行シ以テ實入りノ充實ト形態ノ改善ヲ圖ラムトスルニアリテ、本年度ハ之ガ採苗ヲ試験セリ。

瓦漬採苗法トハ石灰ヲ塗布セル瓦ヲ海中ニ建設シ、牡蠣胚子ノ附着ヲ圖ルニアリテ、其ノ特徴トスル所ハ、附着器ヨリ稚貝ノ脱離ニ容易ニシテ、毀損スル事少ナク稚貝ノ形態善良ニシテ、附着率大ニ、而モ使用年限ノ長キ諸點ニアリ、瓦

ハ普通ノ家屋ニ使用スル丸瓦ニシテ之レニ塗抹スル石灰ハ石灰一斗ニ對シ細砂約一斗ヲ能ク混和シタル後角又百匁ヲ水四升ニ入レ煮沸溶解シタル濾液ヲ加ヘテ攪拌セル乳劑ヲ用フル者ニシテ瓦ヲ此ノ中ニ入レ平等ニ塗布ス、瓦ヲ裝置スベキ台ハ長サ六尺幅三尺高サ三尺ニテ、三段トシ各段三十二枚ヲ配列スル者ニシテ、上部ニ蓋ヲナス。

即チ本年度ハ五月上旬迄ニ附着台二個ヲ前記採苗地ノ中央ニ新設セシガ、石灰ノ塗抹ハ準備ノ都合上五月上旬之レヲ行ヒ、六月十七日裝置ヲ終了セリ、尙ホ採苗地ノ西側ニ竹筵及粗朶筵各二百本ヲ建設シ採苗ノ比較ニ便ジタリ、斯クテ七月三十日調査セシニ、竹及粗朶筵ニハふじつばノ着生甚シク稚貝ノ殆ンド皆無ナリシニ係ラズ、瓦ニハ一枚ニ付平均百二十個乃至三百十個附着シ其狀況上段最モ宜シク中段之ニ次ギ又瓦ノ表面ハ裏面ヨリ少ク成績良好ナリキ、然ルニ八月下旬ノ暴風ニテ瓦ノ脫離消失スル者多ク、且ツ石灰ノ硬化充分ナラザリシ爲メカ其後稚貝ノ石灰ト共ニ瓦ヨリ剝落スル者アリテ、充分豫期ノ成績ヲ舉グル事能ハザリシガ、六年五月十七日調査ニ依レバ總量三斗四升、一升ノ粒位二百四十個ニシテ左記成長度ヲ示シ、次年度ニ繼承飼育中ニ屬ス。

形状	殻長	殻幅	殻高	重量	摘要
最大形	1.10	0.85	0.55	3.80	二十五個平均ニ依ル
最小形	0.85	0.65	0.45	1.00	
最多形	1.05	0.75	0.50	1.85	

二、車蝦蓄養委託試験

本試験ハ前年來ノ繼續事業ニ係リ、秋期車蝦ノ多獲低廉ナル際購入シ、翌春價格ノ騰貴ヲ待チテ販賣セントスル短期ノ蓄養ヲ目的トシ淺口郡連島町難波芳松ニ試験ヲ委託施行セリ。

試験地ハ同町大字龜島新田福田開墾地ノ東南隅ニアリテ、一號池面積七十坪小干潮面ニ於ケル水深二尺、二號池面積二十坪同上水深三尺ノ外本年度面積三十二坪同上水深一尺五寸ノ三號池ヲ二號池ニ接シテ新設シ、八月二十日迄ニ一齊ノ設備ヲ終了セリ、而シテ本年度ハ、各池ノ放養量ヲ異ニシ、最多坪當リ五百匁迄トシ、且ツ販賣期ヲ異ニシテ經濟關係ニ就キ試験セントセリ、

種蝦ノ購入ハ其ノ僥産地タル讃岐觀音寺ヨリセントシタルモ價格並ニ運搬上ノ協定意ノ如クナラズシテ、果サズ、九月二十二日ヨリ十月三日迄ニ兒島郡福田村呼松及淺口郡玉島町乙島ヨリ二十六匁六百匁、二千四百五十七尾ヲ購入シ、坪當リ一號池百匁、二號池五百匁及ビ三號池三百匁ノ比ニ放養シ、試験ニ着手セシ事左表ノ如シ。

池別	同面積	全池			放養月日
		重量	尾數	坪數	
第一號池	70	7,000	6,000	9,300	十月三日
第二號池	110	10,000	8,000	11,200	十月一日及二日
第三號池	32	9,600	9,670	3,000	九月二十二日及同月三十日

体長	大ノ分	小ノ分	最多分	摘要
7.0	110	48.9	6.00	十尾平均ニ依ル。
5.7	55.0	5.50	1.00	

餌料ハ干餅ヲ水ニ浸漬シタル後塊狀トシテ日没後池ノ各所ニ投給スルモノニシテ蝦ノ捕食狀況ヲ檢シ、一日一升二三合乃至二升ヲ與ヘ十月三十一日迄ニ二斗九升四合ヲ使用セリ。

斯クテ十月三十一日第三號池ヲ取揚ゲシニ六貫五百十匁、六百四十八尾ヲ得タリ、即チ放養當時ニ比シ、三割二分ノ歩減ヲ示シ個体ノ増重殆ンドナカリシモ、市價約二倍一分強ヲ騰貴シ、一貫匁ニ付參圓四拾參錢五厘ヲ算セシヲ以テ、支出金額ニ對シ一割三分強ノ收利ヲ見ルニ至リ成績稍良好ナリキ次デ十二月三十日、第二號池ヲ池浚セシニ僅ニ六十尾五百十匁ヲ得タルノミニシテ、池底ニ斃死蝦ノ殘骸ヲモ認メズ、水門部ニ異狀ナクシテ歩減リ原因全ク不明ナレド委託者ノ言ニ依レバ、かわうそノ侵害ナリト云フ、茲ニ於テ試ミニ第一號池底ニ潛伏セル、蝦ヲ捕獲セシニ一尾十一匁乃至十六匁ノ者十七尾ヲ得タルガ内僅カニ三尾ノ斃死ヲ見タルノミナリキ、然ルニ翌年二月三日之ヲ池浚セルニ放養蝦ノ殆ンド全部ハ池底ニ潛入セルマ、斃死セルヲ發見シ成績不良ニ終リシガ其原因一月以降ノ嚴寒ノ爲メ凍死セルモノ、如シ。

之ヲ要スルニ本年度試験成績ハ第一號池ハ稍良好ナリシモ、種蝦高價ナリシ爲メ收利比較的少ク、第二號池ハ外敵ノ爲メ第三號池ハ酷寒ノ爲メ侵害セラレ、何レモ不良ニ終リ試験ノ目的ヲ遂行スル能ハザリキ、而シテ累年試験成績ニ微スルニ種蝦ノ高價ナルカ若クハ歩減甚シキ爲メ收利少ク成績不良ニ終リツ、アリ、其原因前者ハ試験地附近ニ於テ種蝦ノ漁獲ナク隨時之ヲ購入シ能ハザルニアリ、後者ハ寒冷ノ候ニ入りテ斃死スル者其ノ大部分ヲ占ムル所ニシテ種々妨害ノ施設ヲナセドモ奏効セザルハ試験地域開墾地區内ニアリテ用水ノ交換自在ナラズ水温并ニ水質ノ調節不可能ナルガ爲ニシテ、何レニシテモ試験地ノ位置不適當ナルニ起因スルモノナレバ將來到底試験ノ目的ヲ遂行シ能ハザルヲ認メ、本年度限り之ガ試験ヲ中止セリ。

三、活魚運搬試験

本診驗ハ縣下各浦ヨリ旭川ヲ溯航シテ岡山市場ニ活魚ヲ供給シツ、アル運搬事業ノ改良ヲ圖ラムトスルニアリテ大正二年度ノ創始ニ係リ、活魚運搬中ノ斃死原因ハ主トシテ水中酸素ノ缺乏ニ係ル者ト思考シ大正二年度及三年度ニ於テ空中

酸素又ハ壓迫酸素ヲ魚槽内ニ送氣シテ試験セシモ豫期ノ試験ヲ得ザリシヲ以テ、寧根本的ニ之ガ調査ヲナスノ却テ其ノ解決ヲ早カラシムベキヲ信ジ大正四年度ニ於テ、中井、山根兩技手ガうんくら一氏法ニ依リ活魚中ノ水中酸素量ヲ定量シ其減少ガ短時間ノ活魚上ニ及ボス影響少キモノ、如キモ、決シテ、看過スベカラザルヲ試験シ得タルヲ以テ、本年度ハ水中酸素ト同様魚族ノ活送上ニ關係深キ水中炭酸ニ就キ定量試験ヲ施行セリ。

試験方法、

容積二石ノ水槽ヲ陸上ニ裝置シ一定量ノ魚族ヲ此ノ内ニ放チテヨリ大部分斃死スルニ至ル迄一定時間毎ニ採水シ含有炭酸量ヲ定量シ、其變化ノ活魚上ニ及ボス影響如何ヲ考究スルニアリ。

而シテ水中ノ炭酸ハ炭酸第一攪類ニ屬スル者ノ抱合炭酸ト炭酸第二攪類ニ屬スルモノ、半抱合炭酸ト、及ビ攪類ト結合セズシテ、瓦斯體又ハ水酸鹽トシテ存ズル游離炭酸ノ三様ノ形態ニ分ルルヲ以テ炭酸量ニ就キ精細ニ調査セントセバ、此ノ二者ヲ定量セザルベカラズ然レドモ、抱合炭酸ハ分解シ難ク直接水質上ニ關係少キヲ以テ本試験ニハ游離及半抱合狀ノ炭酸ヲ定量セントセシモ、設備ノ都合上施行スルニ至ラズ、單ニ游離炭酸ニ就キ之ガ試験ヲ行ヘリ、即チ此レ

つひ氏法ニ從ヒ檢水二〇〇鈍ヲえるれんまいや一氏瓶ニ取り一〇滴ノふえのるふたれいん液ヲ滴トシ、白紙上ニ置キ十分ノ一規定曹達液ニテ滴定シ液ノ赤色トナルヲ、度トシテ止ム、而シテ十分ノ一規定曹達液一鈍ハ四、四鈍ノ炭酸瓦斯ニ相當スルニ依リ、所要炭酸量ヲ算出スル事ヲ得、尙ホ本試験ニ際シ游離炭酸ノ含量微量ナルヲ知リタルヲ以テ、結果ヲシテ精確ナラシメン爲メ百分ノ一規定曹達液ヲ使用セリ。

試験成績、

試験ハ、六月二十三日ヨリ六月二十七日迄ニ四回及ビ大正六年三月二十七日ヨリ四月二日迄ニ五回施行セシモノニシテ其結果左表ノ如シ。

第一回試験、六月二十三日

供試魚めばる、べら。

試験時間	氣温	水温	千分中ノ游離炭酸量	放養魚ノ状態	摘	要
放養	二六、〇	二二、五	〇、六六五	放養當時稍不安ノ状アリシモ十分乃至十五分ニシテ器底ニ静止スめばる三尾、四十分間ニシテ浮泳シ呼吸困難ノ状アリ。	放養量めばる十三尾、二百二十隻用六斗。用水比一、〇二一〇(水温二十度五、午前八時半放養。	
二時間後	二六、五	二四、〇	七、五一九	一時間十分ニテめばる一尾狂奔間五分乃至十分ニテ死ス。一時間四分乃至十分ニテ死ス。一時間四分乃至十分ニテ死ス。一時間四分乃至十分ニテ死ス。一時間四分乃至十分ニテ死ス。		
三時間後	二七、二五	二四、五	八、〇一〇	二時間十分乃至三十分ニシテめばる二尾死ス。三時間五分乃至十分ニシテめばる全ク死ス。べら横臥ノ儘呼吸少ク体色腿セタレド死ニ至ラズ。		
放養	二五、〇	二二、七五	〇、四六六	三十分ニシテ一尾浮泳シ稍不安ノ状ヲ現ハシ、他ハ器底ニ静止ス。	午前九時黒鯛五尾、三百五十隻ヲ放養。用水比一、〇一九(水温二十二度五、)	

第二回試験、六月二十四日

供試魚黒鯛。

一時間後	二時間後	放養	一時間後	二時間後	三時間後
二五、〇	二五、〇	二四、二五	二四、〇	二四、二五	二四、〇
五、八一七	七、四一九	〇、六六五	五、〇一三	六、〇一五	一〇、〇二五
一時間十分ニテ一尾横臥同三十分死ス。一時間四分ニテ死ス。一時間四分ニテ死ス。一時間四分ニテ死ス。一時間四分ニテ死ス。	二時間ニシテ一尾狂奔二分後ニ死ス。一時間四分ニテ一尾横臥、二時間十分ニテ一尾狂奔十五分ニシテ死ス。	二十分後ニシテ器底ヲ游泳シ、又ハ浮遊シ、不安ノ状ヲ表ハス。四十分ニシテ一尾狂奔シタルモ暫時ニシテ鎮靜シ他ハ器底ニ静止ス。	一時間十分ニシテ、何レモ不安ノ状甚シク、二十六分ニシテ一尾呼吸困難ヲ呈ス。一時間四十分一尾狂奔ス。	二時間一分ニシテ一尾死ス。二時間五分ニシテ二尾横臥シ三十分五分ニシテ死ス。二時間四分ニシテ一尾横臥シ二時間十分死ス。	二時間五分ニシテ一尾横臥シ、三十分五分ニシテ死ス。
		午前九時すぎ三尾四百隻放養。水量六斗。比重一、〇一九〇(水温同上)。			

第三回試験、六月二十六日

供試魚すぎき。

第四回試験、六月二十七日

供試魚べら。

放養	八時間後	六時間後	三時間後	一時間後
二六、五	二七、〇	二六、七五	二六、一	二六、〇
二四、五	二五、〇	二五、〇	二四、〇	二四、〇
一、〇〇〇	五、〇〇	六、二五	三、六一	三、〇一〇
器底ニ密集静止シ異状ナシ。	七時間十三分ニテ五尾狂奔シ十 八時間四十分ニテ六尾死ス。 八時間四十分ニテ二尾死ス。 六時間四十分ニテ二尾死ス。 五時間三十分ニテ二尾死ス。 四時間四十分ニテ一尾死ス。 奔シ五時一分ニテ一尾死シ十七分 一尾死ス。 五時間三十分ニテ二尾死ス。 六時間四十分ニテ二尾死ス。 八時間四十分ニテ二尾死ス。 七時間十三分ニテ五尾狂奔シ十 八時間四十分ニテ六尾死ス。 八時間四十分ニテ二尾死ス。 六時間四十分ニテ二尾死ス。 五時間三十分ニテ二尾死ス。 四時間四十分ニテ一尾死ス。	二時間五十分ニテ三尾横臥シ 四時間四十分ニテ一尾狂奔シ 二時間五十分ニテ一尾死ス。 二時間四十分ニテ二尾横臥 ス。	一時間十二分ニテ三尾浮游シ アリ。又ハ器底ヲ徘徊シ稍不安ノ状 ス。	器底ニ密集静止シ異状ナシ。
午前八時べら三尾四百五十匁放養 水量六斗。〇二二〇(水温二十五度五)				

第五回試験、三月二十七日

供試魚黒鯛。

放養	八時間後	三時間後	一時間後	放養
八七、五	一〇、五	一一、五	九、五	八七、五
九、五	一〇、〇	九、五	九、一	九、五
〇、八八〇	八、一九〇	五、八五〇	二、九三〇	〇、八八〇
器底ニ静止シ異状ナシ。	六時間二十分ニテ二尾狂奔 死ス。八時間五分ニテ一尾死ス。 四時間十分ニテ二尾狂奔シ死ス。 八時間十分ニテ二尾狂奔シ死ス。 十二分ニテ一尾横臥、十時間二分ニテ 一分ニテ死ス。	器底ニ静止シ時々水面ニ浮游シ 游泳力鈍シ(二時間後)四時間四 十分一尾狂奔シ、五十分死ス 他ハ器底ニ静止スルモ体色腿セ タリ。	同	器底ニ静止シ異状ナシ。
午前九時半黒鯛六尾四十匁放養。 水量三斗。〇二三〇(水温同上、)				

第六回試験、三月二十八日

供試魚鱈。

放養	八時間後	三時間後	八時間後
八七、五	一〇、五	一一、五	一〇、五
九、五	一〇、〇	九、五	一〇、〇
一、〇〇〇	八、一九〇	四、八七五	八、一九〇
器底ニ静止シ異状ナシ。	六時間二十分ニテ二尾狂奔 死ス。八時間五分ニテ一尾死ス。 四時間十分ニテ二尾狂奔シ死ス。 八時間十分ニテ二尾狂奔シ死ス。 十二分ニテ一尾横臥、十時間二分ニテ 一分ニテ死ス。	器底ニ静止シ時々水面ニ浮游シ 游泳力鈍シ(二時間後)四時間四 十分一尾狂奔シ、五十分死ス 他ハ器底ニ静止スルモ体色腿セ タリ。	器底ニ静止シ異状ナシ。
午前八時すゞき四尾十匁放養。 水量三斗。〇二三〇(水温十度二分)			

二十四時 間後	八、〇	七、五	八、七八〇	二十二時二十分ニシテ一尾狂奔シ、二十三時四十分ニテ死ス。五分ニテ横臥、二十五時二十分ニテ死ス。	
------------	-----	-----	-------	---	--

第七回試験、三月三十日 供試魚黒鯛。

放養	七、三	九、〇	〇、七八〇	放養後五分ニシテ、水面ニ浮遊シ不安ノ状アリシモ、三分ニシテ器底ニ静止ス。	午前八時十分黒鯛一尾七十匁放養 水量三斗。 比重一、〇二三〇(水温同上)
五時間後	一一、〇	九、〇	三、五一〇	器底ニ静止シ異状シ。	
十時間後	一〇、二五	九、七五	六、二四〇	時々水面ニ來リ稍疲勞ノ状ヲ表ハシ、体色腿七運動不活潑ナリ。十五分間ニシテ氣温八度二分、水温九度ヲ示シ、器底ニ沈静ス。	
二十五時 間後	八、〇	八、五	七、八〇〇	器底ニ静止セシガ、二十六時三十分頃ヨリ呼吸稍不正調トナリ、二十七時三十分ニシテ、三十分間呼吸困難ノ状ヲ表ハシ、三十分ニテ横臥、三十分ニシテ静カニ死ス。	
第八回試験、 四月一日	九、五	九、五	〇、九七〇	器底ニ静止ス。	午前七時朱口一尾六百五十匁放養 水量六斗。 比重一、〇二三〇(水温同上)。

三時間後	一〇、〇	九、五	二、三四〇	口部ヲ水面ニ上ゲ呼吸稍激シク困難ノ状アリ。	
六時間後	一一、五	一〇、二五	四、〇七五	五時間二十八分徐々ニ体ヲ横臥シタリシガ、又常態ニ復シテスルコト六回五時間五十二分途ニ横臥ス。	
十時間後	一一、五	一〇、二五	五、六五五	九時間五十分ニシテ呼吸不正調トナリ、十時間二十分ニシテ狂奔スルコト激シク約八分、後仰臥ス。	
十二時間 後	一一、〇	一〇、二五	四、六八〇	十一時間四十二分呼吸殆ンドナク時々体ヲ蠢動シ、十二時間三十分静ニ絶息ス。	
第九回試験、 四月二日	九、五	九、五	〇、九七〇	器底ニ静止ス。	午前十時朱口三尾五百十匁放養。 水量三斗。 比重一、〇二三〇。
放養	一〇、七五	一〇、〇	一、三六五	器底ニ静止ス。	
三時間後	一一、五	一〇、〇	二、九二五	二尾浮泳シ呼吸稍激シク困難ノ状アリ、四時間四分ニテ一尾狂奔シ、横臥シタルモ五時間十分ニシテ常態ニ復ス。	
八時間後	一一、〇	一〇、〇	五、二六五	七時間四十分ニテ一尾死ス、十分ニシテ一尾狂奔横臥、十二時間二十分ニシテ常態ニ復シ他ハ器底ニ静止ス。	

二十時間後	九、〇	一〇、〇	六、〇 四、五	十八時間十二分ニシテ一尾横臥 二十時間二十一分ニシテ死ス 四十二分ニテ死ス
-------	-----	------	------------	---

以上試験成績ヲ綜合スルニ魚族ノ活力時間ハ魚種ニ依リ多少ノ差異アリ、又同種類ト雖モ試験時期ニ依リ甚シキ差異ヲ示セドモ游離炭素量ハ魚種類并ニ試験時期ニ依リ大差ナク、而モ其ノ變化緩慢ナルヲ以テセバ炭酸量ノ變化ノ魚類活力上ニ及ボス影響僅少ナルモノノ如シ、然レドモ、本試験ハ半抱合炭酸ニ就キ定量セシモノニ非ザレバ、俄ニ、而カク斷定シ難キモ海水中ニ於ケル、半抱合炭酸鹽ハ僅少ナルモノナレバ單ニ游離炭酸量ヲ以テシテモ、活魚中ノ炭酸量ノ變化ノ一斑ヲ知ルニ難カラザルベシ。

尙ホ次年度ニ於テハ半抱合炭酸ノ定量及ビ運搬試験ヲ施行シ運搬中ノ酸素炭酸量ノ變化ヲ同時ニ定量シテ本試験ノ目的ヲ遂行セントス。

漁撈之部

技手 山根 揆一 擔任

一、コールター染料試験

イ、試験ノ主旨、

網地染料ノ良否ハ網ノ保存上ニ大關係ヲ有シ、延イテ、漁業經濟上ニ及ボスコト甚大ナルモノナレバ、之ヲ改善ハ漁業上緊要タルヤ多言ヲ要セズ、漁具比較的精巧ヲ極ムル本縣下沿岸漁業ニアリテハ、特ニ然リトス、然レドモ從來漁業者ハ樹皮染料タル、のぶ皮しい皮、かじわ皮及かつち等ノ單寧劑ヲ一般ニ使用セルガ、單寧ハ水ニ溶ケ易キガ故ニ之等ヲ使用シテ、防腐ヲ爲スニハ頻繁ニ之ヲ染メザルベカラズ、之レ多大ノ經費ト口數トヲ要シ、經濟上ノ損失甚カラズ、故ニ漁業用ノ染料問題到ル處ニ喧傳セラレ、今日ニ於テハ種々ノ染料案出セルル、ニ至レリ、就中コールターハ防腐力ニ於テ優秀ニシテ、加フルニ廉價ナルガ故ニ、之レヲ縣下各浦ニ散在セル坪網ニ使用セバ利益大ナル可シト思考シタレドモ本染料ハ歐米ニ於テ「トロール」網、罅刺網、巾着網、本邦ニ於テ「トロール」網、大敷網其他一、二種ノ網ニ使用セラル、ニ過ギザレバ、坪網ノ如キ規模小ナル定置漁具ニ使用シ、漁獲上ニ影響ヲ及ボスコトナキカラ懸念シ、之ガ影響ノ有無ヲ實驗シ、且ツ其染料トシテノ經濟上ノ價值ヲ實地ニ研究センガ爲メ本試験ヲ開始セリ。

ロ、試験ノ方法、

本試験ハ小田郡神島外村山本藤吉ニ囑托シ、本場ヨリハ單ニ材料タル「コールター」ヲ提供シ、漁網其他染網ニ要スル費用ハ全部被囑托者ノ負擔トセリ。

先づ魚族ニ及ボス影響如何ヲ試験スベク、漁場ヲ小田郡神島外村大字大飛島地先ニニケ所ヲ選定シ、同人經營ノ坪網ニ就キ一「ハ」コールター染料トシ、他ハ從來染料タル、さる皮染網ヲ使用シ、之ニヨリテ漁獲上ノ相違ヲ比較試験シ一面地形海洋ノ状態及附近漁場ノ漁況ヲモ參酌調査スルコト、セリ。

ハ、試験ニ使用セル坪網ノ構造、

(1.) 枠網

い、浮子下網、 枠網ノ最上部ニ使用スル網地。

材料ハ綿糸二十四本合、網目ハ鯨尺二寸五分長サ一尺、幅三百六十掛、四百五十掛、三百二十掛、四百五十掛、三百六十掛ノ五反ヨリナリ、之ヲ右ノ順序ニ横縫ニシ、之ヲ縦目ニ使用ス、縮結ハ五割トス。

ろ、肩網、 浮子下網ノ下方ニ附スル網地。

材料ハ綿糸十八本合網目ハ鯨尺二寸五分長二十四尋幅五十掛モノ、七反ヲ縦縫ニシ、之ヲ横目ニ使用ス。

は、胴網、 肩網ノ下方ニ附スル網地。

材料ハ綿糸十四本合、網目ハ鯨尺二寸五分。

浮子下網三百六十掛モノ、下ニ附スル網地ハ、五十掛二十四尋モノ六反ヲ横ニ縫合シ横目ニ使用ス。

浮子下網四百五十掛モノ、下ニ附スル網地ハ五十掛三十尋モノ六反ヲ横縫ニシ横目ニ使用ス。

浮子下網三百二十掛モノ、下ニ附スル網地ハ五十掛二十一尋モノ六反ヲ横縫ニシ、横目ニ使用ス、即チ二十四尋モノ、十二反二十一尋モノ六反、三十尋モノ、十二反ヲ要ス。

に、沈子方網、 枠網最下部ニ附スル網地。

浮子下網ニ同ジ。

(2.) 袋網

い、袋、 網總丈ノ中央ニ附ス、材料ハ綿糸十五本合ニシテ、一寸二分目二百掛二尋モノ、一寸目二百掛、二尋半モノ八分目百掛一尋モノ、三反ヲ右ノ順序ニ縦ニ縫合セ縦目ニ使用ス。

ろ、返り網、 第一輪ノ位置ニ附ス、材料ハ綿糸十二本合網目ハ一寸二分、長一尺間ヲ二百掛トシ、夫レヨリ、各通兩端ニテ、一目宛落シ、總長尋ニ一尺迄編キ下ス、而シテ二百掛ト反對ノ網目ヲ周二尺五寸ニ縮結ス。

第二返り網、 第二輪ノ位置ニ附ス、第一返網ニ同ジ、但シ第一返り網ニ於テ二尺五寸ニ縮結セル部ヲ二尺ニス。

は、三角網、 袋ノ兩側ニ附ス、即チ一個ノ袋ニ、二枚ヲ要ス、材料ハ綿糸十五本合、網目ハ胴網ニ同大トスレバ二十五掛、袋網ト同大ニスレバ、五十掛ニ初マリ、二尋ニ一目迄落ス。

に、袋ノ竹輪、

第一輪ハ周三尋半ニシテ枠網ト袋網ノ接合部ニ附ス。

第二輪ハ周二尋半ニシテ、一寸二分目網地ト一寸目網地トノ接合部ニ附ス。

第三輪ハ周二尋ニシテ一寸目網地ノ中央部ニ附ス。

第四輪ハ周一尋半ニシテ、一寸目網地ト、八分目網地トノ接合部ニ附ス。

(3.) 垣網

材料ハ綿糸十八本合、網目ハ鯨尺五寸、百五十掛六十尋モノ百二十掛三十尋モノ、百掛三十尋、七十掛三十尋モノヲ縦縫ニシテ横目ニ使用シ、浮子方及沈子方ニハ、枠網ト同シ浮子下網、沈子下網ヲ附ス、縮結ハ三割トス。

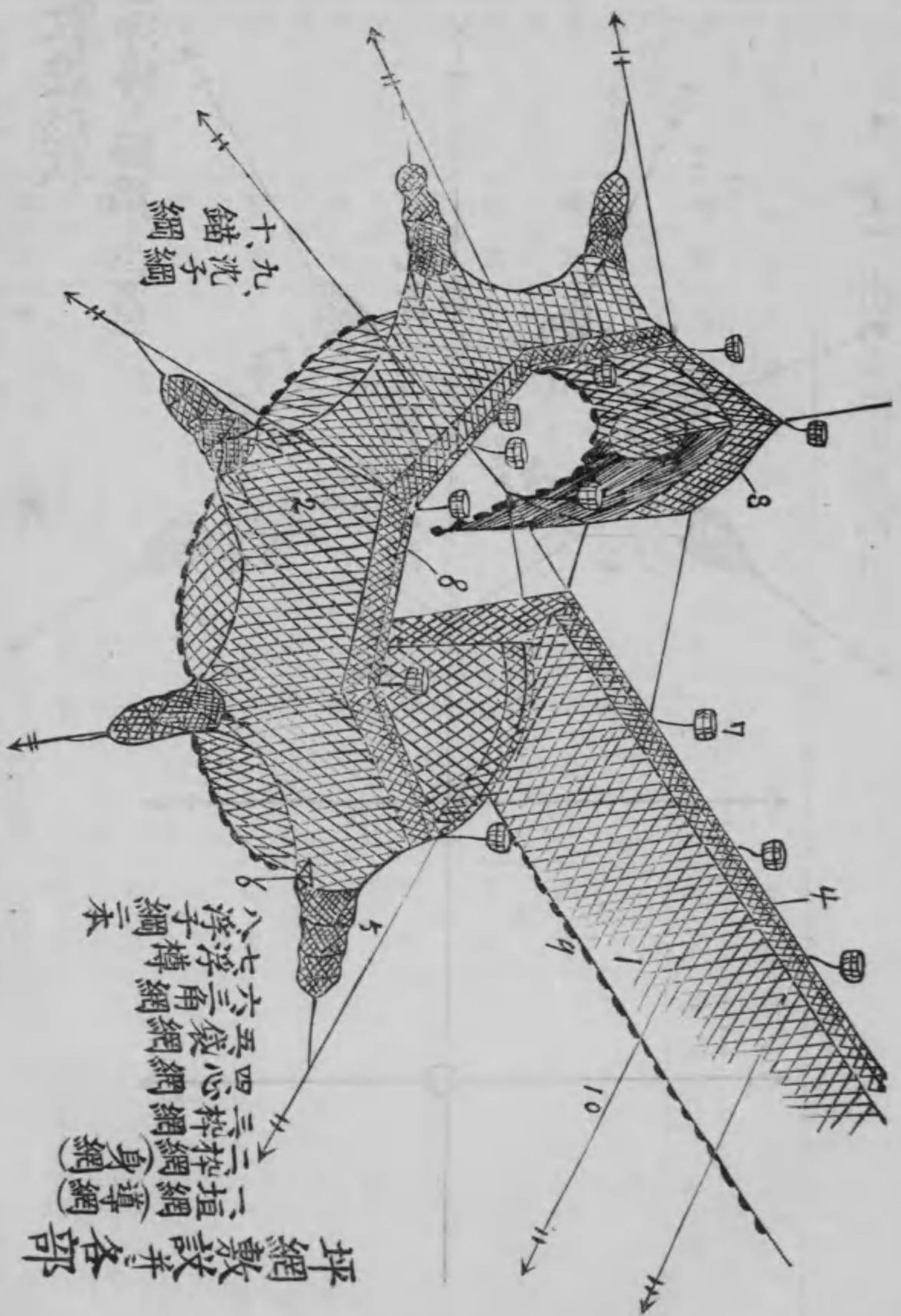
(4.) 網類

い、枠網類、

- 一 沈子網、藁網三子徑一寸長七十四尋。
- 二 浮子網、棕梠三子徑四分長七十尋。
- 三 沈子方目通網、綿糸百二十本合長八十尋。
- 四 浮子方目通網、綿糸百五十本合長七十五尋。
- 五 粹網、藁網三子徑一寸二分長八十五尋。
- 六 碇網、藁網三子徑一寸四分長六十五尋。
 水深ノ約四倍一ヶ所二本總數十四本。

ろ、垣網ノ網類、

- 一 沈子網、藁網三子徑一寸長サ百〇五尋。
 - 二 浮子網、藁網三子徑五分長百尋。
 - 三 沈子方目通網、棕梠二子徑二分五厘長百十五尋。
 - 四 浮子方目通網、綿糸百二十本合長百十尋。
 - 五 心網、藁網三子徑一寸四分長百二十尋。
 - 六 碇網、粹網ノ碇網ニ同シ、間隔二十尋八本ヲ要ス。
- (5) 浮子樽、
- 大樽、徑一尺二寸、高一尺二寸八個ヲ要シ、内六個ハ垣網ニ附ス。
 - 小樽、徑一尺、高一尺七個ヲ要シ粹網ニ附ス。
- 碇、拾五貫位ノ木碇。



坪網敷設并各部

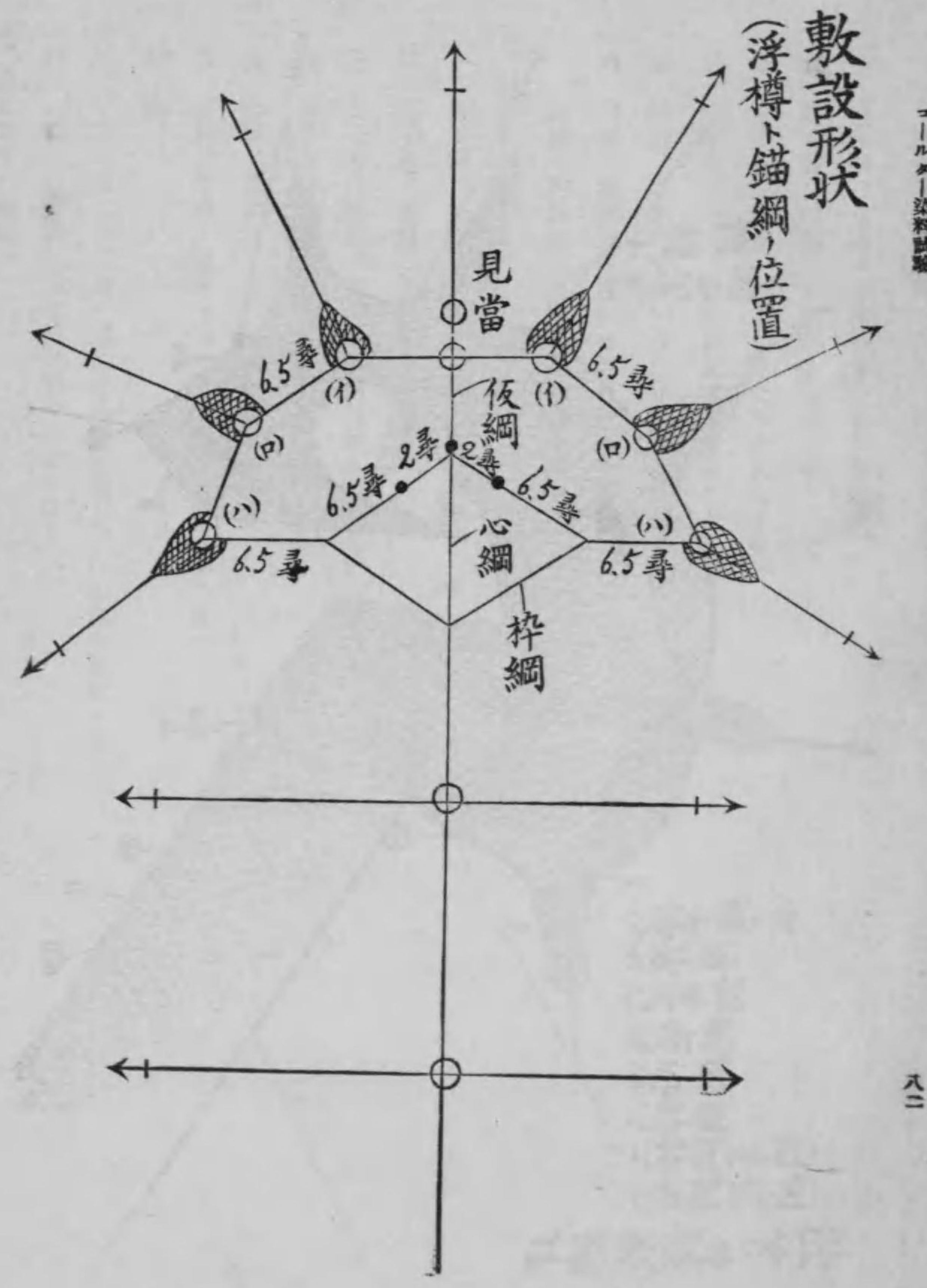
- 一垣網(導網)
- 二粹網(身網)
- 三粹網
- 四心網
- 五袋網
- 六三角網
- 七浮子樽
- 八浮子網二本

九、沈子網

コールドー染壺網		サル皮染壺網					
月日	種類	尾數	貫數	月日	種類	尾數	貫數
四月二十三日	雜鯛	一	二、一八〇	四月十八日	全鯛	一	一、五七〇
四月二十四日	雜鯛	四	二、五〇〇	四月十九日	全鯛	五	二、〇〇〇
四月二十五日	雜鯛	六	三、五〇〇	二十日	雜鯛	九	三、〇〇〇
四月二十六日	雜鯛	四	一、三〇〇	二十一日	雜鯛	三	一、八〇〇
四月二十七日	雜鯛	六	二、三〇〇	二十二日	雜鯛	三	一、六〇〇
四月二十八日	雜鯛	一三	一、六〇〇	二十三日	はね	二	一、七〇〇
四月二十九日	雜鯛	四	一、六〇〇	二十四日	雜鯛	三	一、七〇〇
四月三十日	雜鯛	五	一、六〇〇	二十五日	全鯛	二	一、六〇〇
五月一日	雜鯛	六	一、六〇〇	二十六日	雜鯛	二	一、六〇〇
五月一日	雜鯛	六	一、六〇〇	二十七日	雜鯛	九	二、七〇〇

兩種壺網水揚高比較表

二、兩種壺網水揚高比較表



コールドー染料試驗

兩種漁網水揚高比較表

七月十二日	あいご	二九	一、五九五	六月五日	こち	一	五〇〇
全十三日	全	五〇	二、七五〇	全六日	こち	一	五〇〇
全十四日	全	六二	三、四一〇	全七日	こち	一	六六〇
全十五日	全	五四	二、九七〇	全八日	こち	一	二、四〇〇
全十六日	全	三五	一、九三〇	全九日	こち	一	〇、七五〇
全十七日	全	一六	八八〇	全十日	こち	一	二、四〇〇
全十八日	全	二五	一、三七五	全十一日	こち	一	二、四〇〇
全十九日	全	二二	一、二一〇	全十二日	こち	一	六〇〇
全二十日	全	二九	一、五九五	全十三日	こち	一	六〇〇
全二十一日	全	三七	二、三五〇	全十四日	こち	一	六〇〇
全二十二日	全	三二	一、七六〇	全十五日	こち	一	六〇〇
全二十三日	全	四二	三、七〇〇	全十六日	こち	一	六〇〇
計			二二、六二五〇	全十七日	こち	一	六〇〇
			二二、六二五〇	全十八日	こち	一	六〇〇
			二二、六二五〇	全十九日	こち	一	六〇〇
			二二、六二五〇	全二十日	こち	一	六〇〇
			二二、六二五〇	全二十一日	こち	一	六〇〇
			二二、六二五〇	全二十二日	こち	一	六〇〇
			二二、六二五〇	全二十三日	こち	一	六〇〇

本、試験ノ結果、
僅ニ一ヶ年ノ實驗ノミナラズ其兩種染用漁網ノ漁獲高ヲ見ルモ、其漁獲高ノ消長ハ、其當時ニ於ケル各般ノ海況ニ依リ左右セラル、コト多ク、染料ノ差異ニ依ル直接ノ原因トシテ、之レヲ見ルコト至難ニシテ、之レニヨリテ直チニ其影響如何ヲ判定スルコト能ハザリシガ、大体ニ於テ四圍ノ狀況ヨリ推シテ、其漁獲上ニ及ボス影響ノ如キ殆ンド、之ヲ認ムルコトナカリキ。
但シ「コールター」ハ最初染付ノ場合之レヲ乾燥スルニ多少ノ日數ト手間ヲ要スル爲、之ガ省略手段トシテ、染付後乾燥ヲ待タズ、濕網ノ儘直チニ海中ニ附設シタル爲メ、數日間過剰ノ「コールター」ヲ附近水面ニ遊離浮漂スルヲ以テ、

多少魚類ノ其息氣ヲ嫌避セザルナキヤノ感アリ、之レ即チ其染付乾燥ノ手段手數ヲ惜ムヨリ來ル影響(?)ト認ムベク、如斯手段ヲ惜マズシテ、其染付後ハ直チニ川流又ハ海水中ニ浸漬洗滌スルコト三四時間ノ上、四五日間晝夜共陸上ニ曝乾シタル後漁場ニ敷設スル時ハ以上ノ杞憂ハ當然氷解スルモノナリト信ズ。
尙其經濟上ノ得失ニ對シテハ在來使用ノ染料ハ一ヶ月數回染網ノ必要アルニ對シ、「コールター」ハ少クモ百日間以上ノ効力アルガタメ其染付度數ニ於テ月籠ノ差アリ、從テ染付操業上經費ト日數トニ於テ經濟上甚カラザル利益ヲ「コールター」ニ認ムルコトヲ得ベシ、依テ尙次年度ニ於テハ右經濟上ノ比較ヲ數字のニ試験發表セムトス。

二、漁業調査

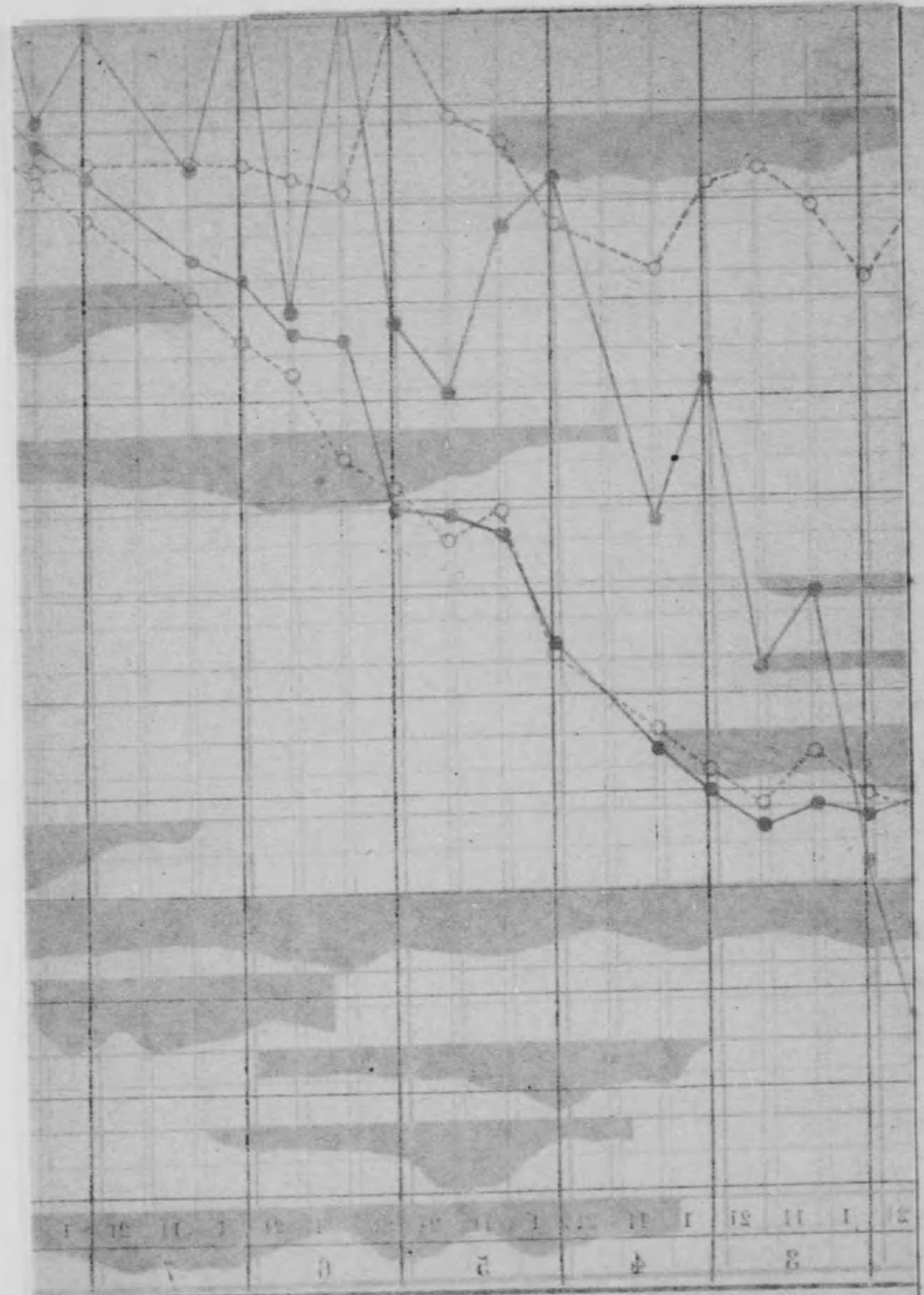
イ、海洋観測

本観測ハ前數年來ノ繼續ニ係リ、観測所ハ縣下樞要ノ地區小田郡真鍋島村、兒島郡下津井町、邑久郡牛窓町三ヶ所ヲ撰ビ各観測員ヲ置キ毎月一、十一、二十一ノ三回観測ヲナシ、之ガ報告ヲ爲サシメツ、アリ、是レ一ツハ以テ水理學上ノ研究ニ資シ一ハ以テ重要生物調査ト相俟ツテ、水族ト海洋トノ關係ヲ究ムベキ資料トラント欲スルモノナルガ、俄カニ其効果ヲ收ムルコトハ蓋シ其性質上容易ノ業ニアラズ以テ以下本年度観測ニ係ル結果ヲ圖表ニ就キ報告スベシ。

イ、小田郡真鍋島村ニ於ケル海洋観測

月	日	潮流ノ速力	潮流ノ方向	風力	風向	天候	表面水温	底水温	氣温	表面比重
一月	一日									
全	十一日									

兩種漁網水揚高比較表

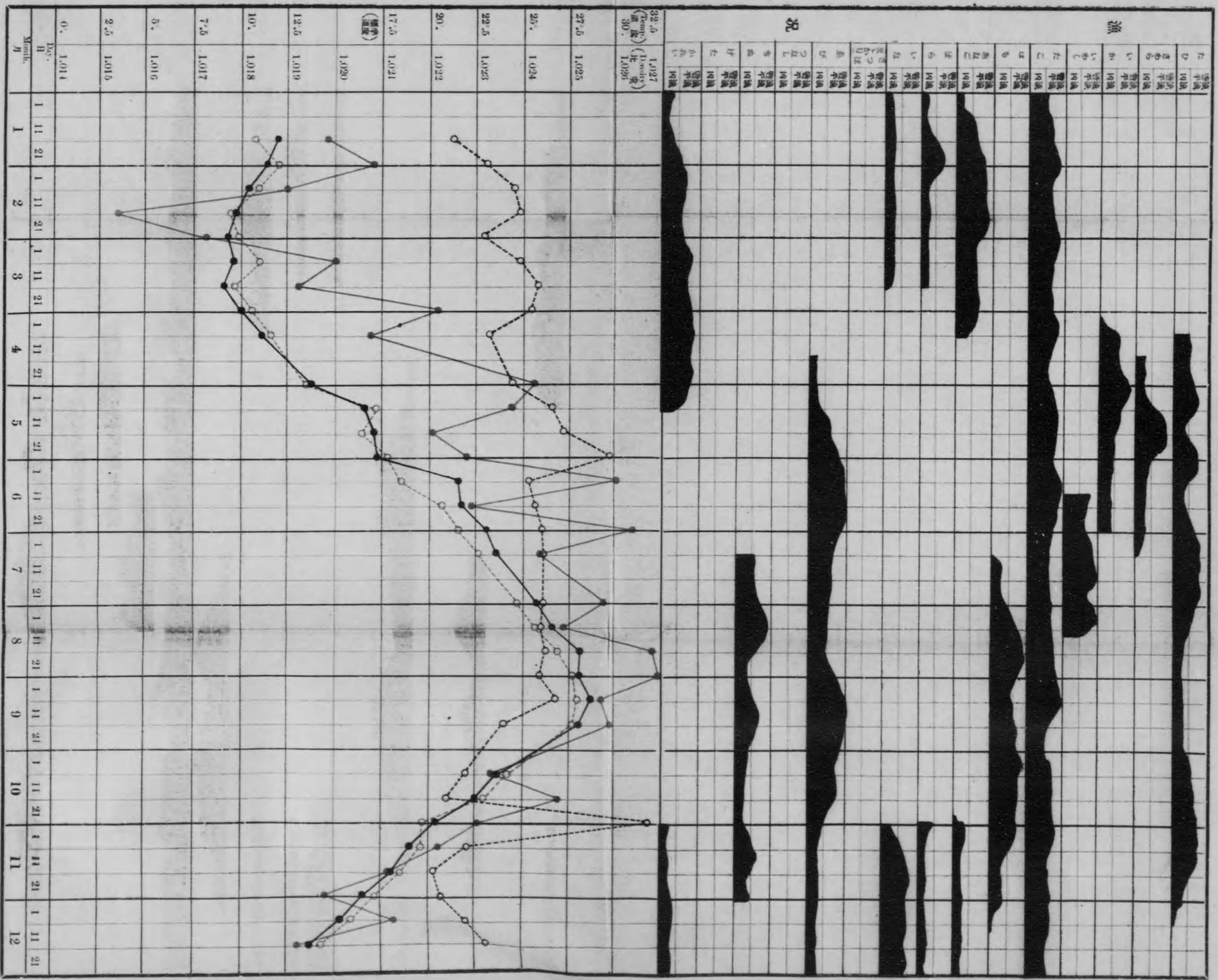


海峽測量表
 ○ 雷山測量
 ● 海峽測量
 △ 海峽測量
 □ 海峽測量

日期	雷山測量	海峽測量	海峽測量	海峽測量
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				



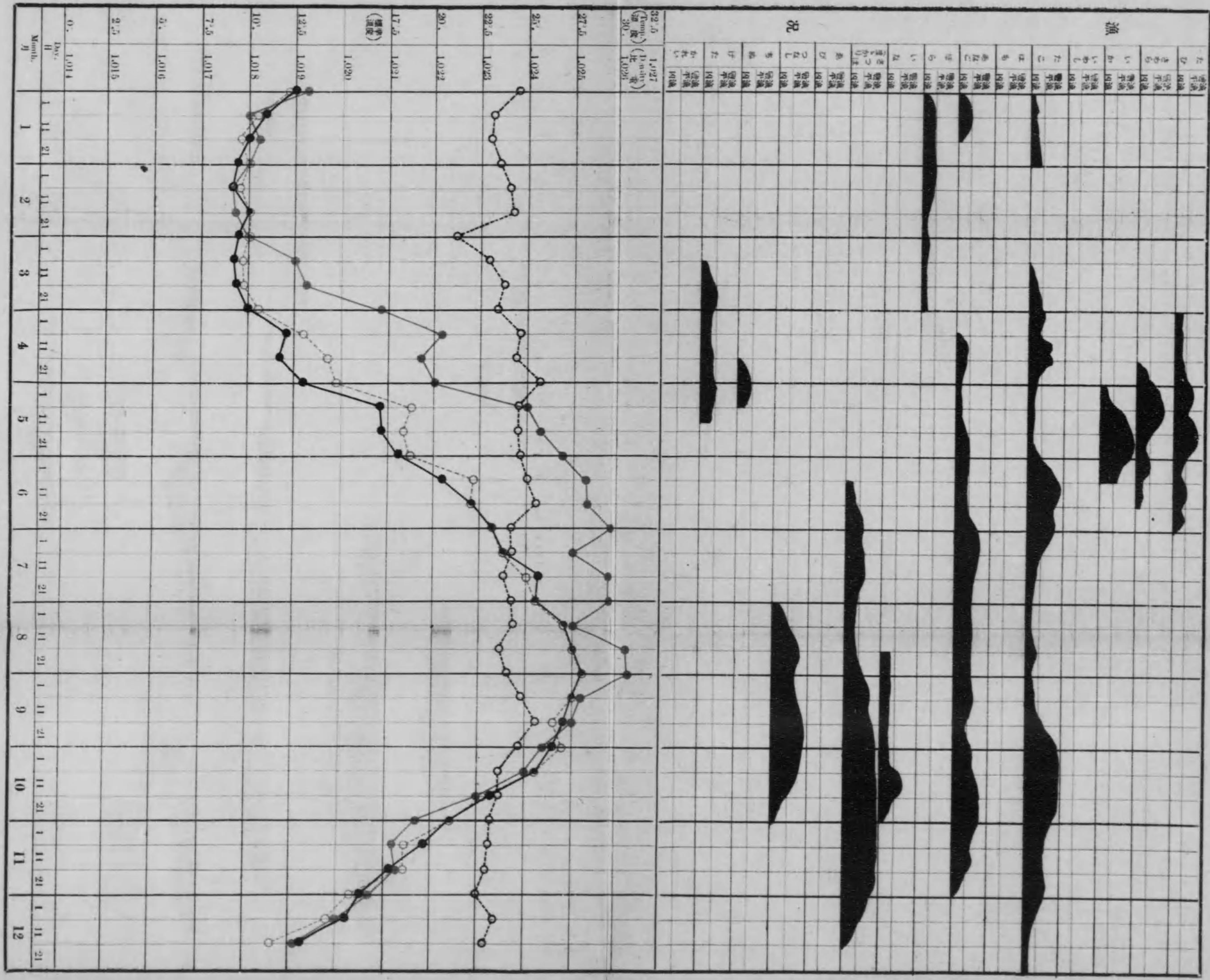
海洋観測表其ノ一(小田郡真鍋島村沖)



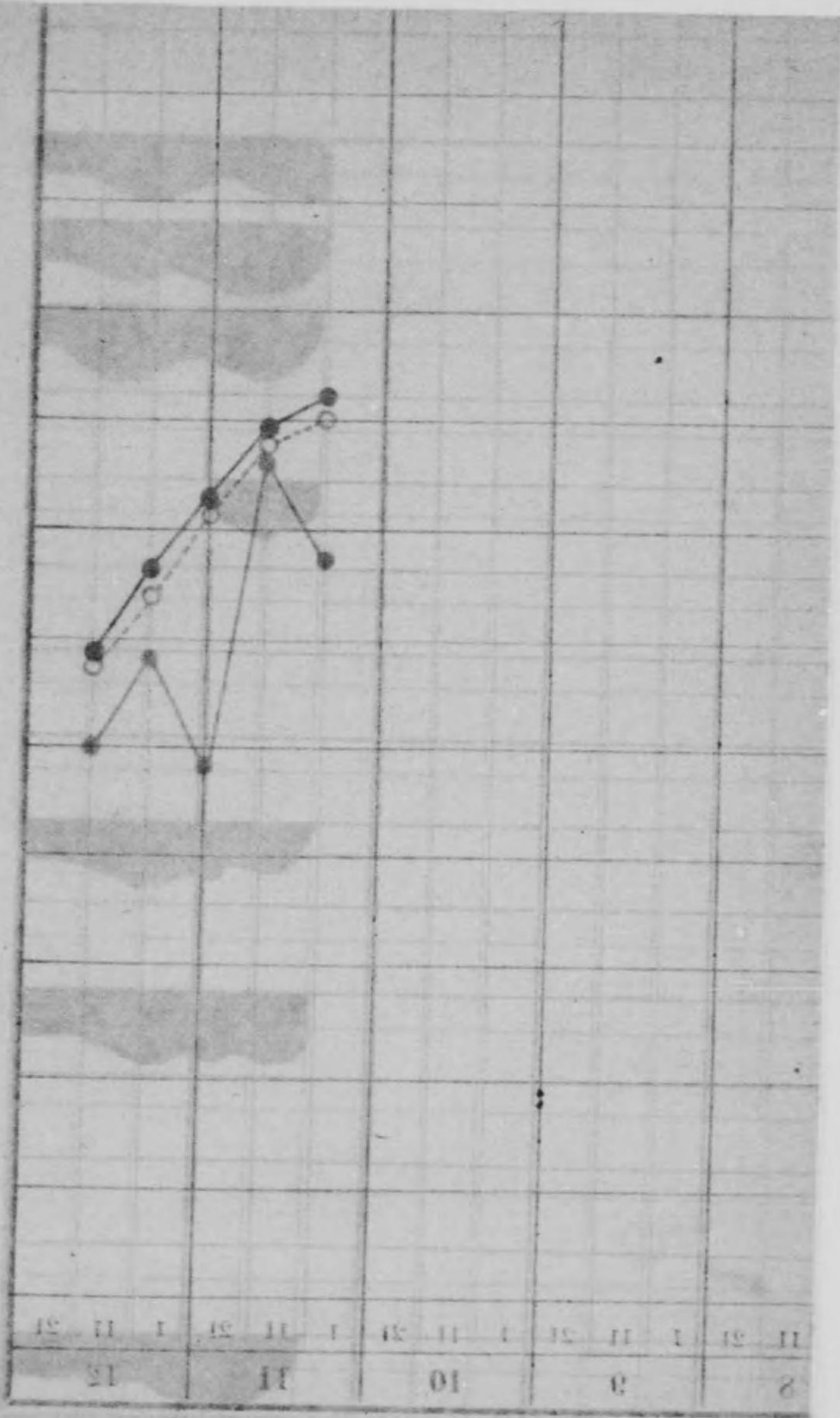
表面流速 ○—○
 底層流速 ○—○
 風 ●—●
 雲量 ●—●
 降雨 ●—●



海洋観測表 其ノ二 (兒島郡下津井町大字大島沖)



表面比重 ○——○
 温度 ●——●
 表面水質 ○——○
 水深ノ多少 ○——○



口、重要漁況調査

本調査ハ前年度ヨリ繼續施行セルモノニシテ、縣下樞要ノ地區六ヶ所ヲ

重要漁業調査

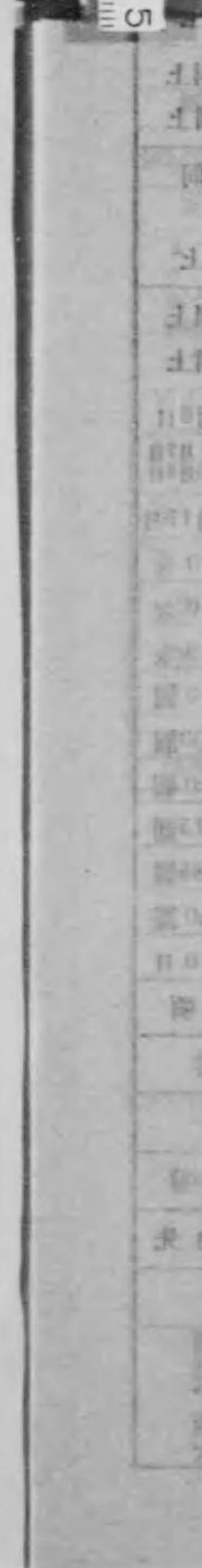
漁村名	小田郡真鍋島村	小田郡金浦町	浅口郡寄島町	邑久郡牛窓町
重要生物名稱	はも	全	全	全
漁具名稱	籠延縄	延縄	打瀬網	曳網
漁船數	1隻	2隻	135隻	15隻 8隻
漁船肩巾	5.7尺	5.3尺	9尺 7尺	5.3尺 5尺
漁具數	自15鉢至25鉢	40鉢	445統	300鉢 8統
漁業者數	13人	6人	270人	45人 19人
始場並置	各本島、六島、各周圍沖合	海飛小田郡、岸島郡、附近島	水島灘一圍	崎小大島、豆島沖、金ヶケ
底質	泥砂礫岩	泥	砂、泥	泥
深度	18尋	13尋	自7尋至17尋	5尋内外 15尋内外
終場並置	同	同	同	大天多島、府沖、ヨ
底質	同上	同上	同上	同上
深度	同上	同上	同上	自10尋至30尋
終場並置	同上	同上	同上	崎大間島、金ヶ
底質	同上	同上	同上	同上
深度	同上	同上	同上	自25尋至30尋
始漁期	6月15日	9月上旬	6月15日	7月9日 7月6日
盛漁期	8月10日	10月中旬	7月20日	自9月1日至9月30日 自8月7日至10月3日
終漁期	11月30日	11月下旬	11月20日	11月3日 10月11日
尾漁量	200匁	150匁	100匁	130匁 70匁
始漁量	160匁	1000匁	200匁	130匁 60匁
終漁量	120匁	600匁	200匁	160匁 60匁
平均漁獲高	7.0圓	9.5圓	5圓	1.5圓 3.0圓
最高漁獲高	110圓	140圓	20圓	1.5圓 130圓
最低漁獲高	6.0圓	6.5圓	1.2圓	1.5圓 3.0圓
最高底價	1.5圓	1.6圓	1.4圓	1.5圓 1.15圓
最低底價	1.0圓	1.5圓	0.7圓	0.92圓 0.85圓
平均價格	1.25圓	1.53圓	1.1圓	1.2圓 1.0圓
出漁日數	120日	60日	159日	90日 80日
產卵期	自6月上旬至10月中旬	12月上旬	11月中旬	9月1日頃
停滯期	自6月上旬至11月下旬	自5月上旬至10月中旬	自5月至11月	不詳
產卵水質		不	不	泥
產卵水深				自10尋至15尋
產卵場位			詳	牛窓町地先
餌料	夏ハ手長蛤、秋ハ小鰹、冬ハ魚、冬ハ小鰹	詳	雜魚	
販賣處理法	本縣下各市場ニ販賣ス	販賣ノ各近郷ニ田井原、成羽、高橋、矢野、小田、田	地方ニ販賣ス、北島、王島、ト、倉敷、中山、美備、美作	寺、山、西、大、販賣地



項目	小田郡真鍋島村	小田郡金浦町	浅口郡寄島町	邑久郡牛窓町
漁獲物	はも	はも	はも	はも
漁具	籠延縄	延縄	打瀬網	曳網
漁船	1隻	2隻	135隻	15隻 8隻
漁船肩巾	5.7尺	5.3尺	9尺 7尺	5.3尺 5尺
漁具數	自15鉢至25鉢	40鉢	445統	300鉢 8統
漁業者數	13人	6人	270人	45人 19人
始場並置	各本島、六島、各周圍沖合	海飛小田郡、岸島郡、附近島	水島灘一圍	崎小大島、豆島沖、金ヶケ
底質	泥砂礫岩	泥	砂、泥	泥
深度	18尋	13尋	自7尋至17尋	5尋内外 15尋内外
終場並置	同	同	同	大天多島、府沖、ヨ
底質	同上	同上	同上	同上
深度	同上	同上	同上	自10尋至30尋
終場並置	同上	同上	同上	崎大間島、金ヶ
底質	同上	同上	同上	同上
深度	同上	同上	同上	自25尋至30尋
始漁期	6月15日	9月上旬	6月15日	7月9日 7月6日
盛漁期	8月10日	10月中旬	7月20日	自9月1日至9月30日 自8月7日至10月3日
終漁期	11月30日	11月下旬	11月20日	11月3日 10月11日
尾漁量	200匁	150匁	100匁	130匁 70匁
始漁量	160匁	1000匁	200匁	130匁 60匁
終漁量	120匁	600匁	200匁	160匁 60匁
平均漁獲高	7.0圓	9.5圓	5圓	1.5圓 3.0圓
最高漁獲高	110圓	140圓	20圓	1.5圓 130圓
最低漁獲高	6.0圓	6.5圓	1.2圓	1.5圓 3.0圓
最高底價	1.5圓	1.6圓	1.4圓	1.5圓 1.15圓
最低底價	1.0圓	1.5圓	0.7圓	0.92圓 0.85圓
平均價格	1.25圓	1.53圓	1.1圓	1.2圓 1.0圓
出漁日數	120日	60日	159日	90日 80日
產卵期	自6月上旬至10月中旬	12月上旬	11月中旬	9月1日頃
停滯期	自6月上旬至11月下旬	自5月上旬至10月中旬	自5月至11月	不詳
產卵水質		不	不	泥
產卵水深				自10尋至15尋
產卵場位			詳	牛窓町地先
餌料	夏ハ手長蛤、秋ハ小鰹、冬ハ魚、冬ハ小鰹	詳	雜魚	
販賣處理法	本縣下各市場ニ販賣ス	販賣ノ各近郷ニ田井原、成羽、高橋、矢野、小田、田	地方ニ販賣ス、北島、王島、ト、倉敷、中山、美備、美作	寺、山、西、大、販賣地

重要漁業調査

漁村名	小金田郡	淺野口郡
漁物名稱	いな	全
漁具名稱	建網	網
漁船數	25隻	8隻
漁船肩巾	5.3尺	7尺6尺
漁具數	200統	2統
漁業者數	75人	36人
始漁場並位置	半城小田郡 海岸一圓茂岡	淺野口、小田
	底質	泥
始漁深度	深3尋 自4尋	同上
	盛漁場並位置	同上
盛漁底質	同上	同上
	終漁場並位置	同上
終漁底質	同上	同上
	始漁期	11月上旬
始漁期	12月上旬	8月11日
	終漁期	2月下旬
始漁尾ノ重量	30匁	50匁
	盛漁尾ノ重量	30匁
終漁尾ノ重量	30匁	70匁
	始漁尾ノ重量	30匁
始漁尾ノ重量	45匁	100匁
	終漁尾ノ重量	15匁
始漁尾ノ重量	1.0匁	1.62匁
	終漁尾ノ重量	0.67匁
始漁尾ノ重量	0.83匁	1.0匁
	終漁尾ノ重量	100匁
始漁尾ノ重量	不詳	不詳
	終漁尾ノ重量	自11月上旬 至3月下旬
始漁尾ノ重量	泥	泥土
	終漁尾ノ重量	1尋
始漁尾ノ重量	小田郡、國 金浦、海川	沿海一円
	終漁尾ノ重量	蝦、海虫類
始漁尾ノ重量	販賣處理法	販賣處理法
	終漁尾ノ重量	販賣處理法



項目	1	2	3	4	5
漁物名稱	いな	いな	いな	いな	いな
漁具名稱	建網	建網	建網	建網	建網
漁船數	25隻	25隻	25隻	25隻	25隻
漁船肩巾	5.3尺	5.3尺	5.3尺	5.3尺	5.3尺
漁具數	200統	200統	200統	200統	200統
漁業者數	75人	75人	75人	75人	75人
始漁場並位置	半城小田郡 海岸一圓茂岡	半城小田郡 海岸一圓茂岡	半城小田郡 海岸一圓茂岡	半城小田郡 海岸一圓茂岡	半城小田郡 海岸一圓茂岡
始漁深度	深3尋 自4尋	深3尋 自4尋	深3尋 自4尋	深3尋 自4尋	深3尋 自4尋
盛漁場並位置	同上	同上	同上	同上	同上
盛漁底質	同上	同上	同上	同上	同上
終漁場並位置	同上	同上	同上	同上	同上
終漁底質	同上	同上	同上	同上	同上
始漁期	11月上旬	11月上旬	11月上旬	11月上旬	11月上旬
盛漁期	12月上旬	12月上旬	12月上旬	12月上旬	12月上旬
終漁期	2月下旬	2月下旬	2月下旬	2月下旬	2月下旬
始漁尾ノ重量	30匁	30匁	30匁	30匁	30匁
盛漁尾ノ重量	30匁	30匁	30匁	30匁	30匁
終漁尾ノ重量	30匁	30匁	30匁	30匁	30匁
始漁尾ノ重量	30匁	30匁	30匁	30匁	30匁
盛漁尾ノ重量	45匁	45匁	45匁	45匁	45匁
終漁尾ノ重量	15匁	15匁	15匁	15匁	15匁
始漁尾ノ重量	1.0匁	1.0匁	1.0匁	1.0匁	1.0匁
盛漁尾ノ重量	0.67匁	0.67匁	0.67匁	0.67匁	0.67匁
終漁尾ノ重量	0.83匁	0.83匁	0.83匁	0.83匁	0.83匁
始漁尾ノ重量	100匁	100匁	100匁	100匁	100匁
終漁尾ノ重量	不詳	不詳	不詳	不詳	不詳
始漁尾ノ重量	自11月上旬 至3月下旬	自11月上旬 至3月下旬	自11月上旬 至3月下旬	自11月上旬 至3月下旬	自11月上旬 至3月下旬
始漁尾ノ重量	泥	泥	泥	泥	泥
終漁尾ノ重量	1尋	1尋	1尋	1尋	1尋
始漁尾ノ重量	小田郡、國 金浦、海川	小田郡、國 金浦、海川	小田郡、國 金浦、海川	小田郡、國 金浦、海川	小田郡、國 金浦、海川
終漁尾ノ重量	蝦、海虫類	蝦、海虫類	蝦、海虫類	蝦、海虫類	蝦、海虫類
始漁尾ノ重量	販賣處理法	販賣處理法	販賣處理法	販賣處理法	販賣處理法
終漁尾ノ重量	販賣處理法	販賣處理法	販賣處理法	販賣處理法	販賣處理法

重要漁業調査

漁村名	田部郡		邑久郡	
	小金	浦町	牛窓町	全
漁具名稱	建網		建網	釣
漁船數	25隻	12隻	20隻	
漁船肩巾	5.3尺	5尺	4.5尺	
漁具數	500反	12統	80本	
漁業者數	50人	38人	30人	
始場	漁場並置	外小田部郡 内浦町端島	牛窓町地先	牛窓町地先
	底質	泥	泥	泥
盛場	漁場並置	同上	同上	同上
	底質	同上	同上	同上
終場	漁場並置	同上	同上	同上
	底質	同上	同上	同上
漁期	始漁期	8月上旬	9月12日	8月8日
	盛漁期	8月中旬	9月27日	9月27日
	終漁期	9月下旬	10月16日	10月16日
漁獲物	始漁	4隻	150尾 = 41貫	150尾 = 41貫
	終漁	4隻	180尾 = 41貫	180尾 = 41貫
漁獲物一ヶ月平均	始漁	20圓	10圓	6圓
	終漁	38圓	15圓	6圓
漁獲物一ヶ月最高	始漁	12圓	8圓	3圓
	終漁	0.5圓	0.45圓	0.45圓
漁獲物一ヶ月最低	始漁	0.3圓	0.18圓	0.18圓
	終漁	0.4圓	0.29圓	0.22圓
出漁日數	45日	30日	90日	
產卵期	12月上旬	四季毎 = 產卵		
停滯期	自5月上旬至10月中旬	不詳		
產卵底質	不詳	泥藻		
產卵水深	同上	自3尋至8尋		
場位	同上	牛窓町地先		
餌料	同上			
販賣處理法	販賣各町、小田部郡、高松、矢野、井原、大岡山、寺市、西	賣大岡山、寺市、西		

重要漁業調査

漁村名	邑久郡		
	浅井町	牛窓町	
漁具名稱	ばら網	練網	
漁船數	8隻	1隻	
漁船肩巾	7尺6尺	8尺	
漁具數	2統	1統	
漁業者數	36人	21人	
始場	漁場並置	南淺井、小田部郡、海田	牛窓町地先
	底質	泥	岩泥
盛場	漁場並置	同上	同上
	底質	同上	同上
終場	漁場並置	同上	同上
	底質	同上	同上
漁期	始漁期	8月11日	2月1日
	盛漁期	10月5日	2月15日
	終漁期	11月15日	3月1日
漁獲物	始漁	200隻	100隻
	終漁	250隻	200隻
漁獲物一ヶ月平均	始漁	300隻	200隻
	終漁	120貫	10圓
漁獲物一ヶ月最高	始漁	250貫	120圓
	終漁	150貫	12圓
漁獲物一ヶ月最低	始漁	1.4圓	1.15圓
	終漁	0.9圓	1.07圓
出漁日數	97日	15日	
產卵期	不詳	不詳	
停滯期	周年		
產卵底質	不詳		
產卵水深	不詳		
場位	不詳		
餌料	貝、海虫類、魚等		
販賣處理法	大岡山、寺市、西、津山、高松、中一、山	賣大岡山、寺市、西	



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75
76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90
91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105
106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120
121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135
136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150

重要漁業調査

漁村名	小田郡眞鍋島村		小田郡金浦町		淺口郡寄島町	邑久郡牛窓町	
漁生物名稱	たこ		全		全	全	
漁具名稱	大延 蛤網	手長 網蛤	大蛤 釣	飯 蛤釣	手長 網	壺 網	釣
漁船數	1隻	1隻	10隻	10隻	15隻	6隻	12隻
漁船肩巾	6.2尺又 ハ5.7尺	5.7尺又 ハ6.2尺	5.3尺	5.3尺	6.3尺	5.2尺	4.8尺
漁具數	800疋乃至 100疋	1統	40本	100本	15統	6壺	24本
漁業者數	13人	75人	20人	10人	45人	12人	28人
始場並置	各本島、六島	各本島、六島	北島、眞鍋島、小田郡海岸	小田郡海岸	金浦町海岸	水島灘	牛窓町地先
底質	砂	砂	石	泥	泥	泥	石
深度	自5尋至30尋	自7尋至25尋	自10尋至20尋	5尋	自5尋至8尋	自5尋至30尋	自5尋至30尋
漁場並置	同	同	同	同	同	同	同
底質	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
深度	同上	同上	15尋	同上	同上	同上	同上
終場並置	同	同	同	同	同	同	同
底質	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
深度	同上	同上	20尋	同上	同上	同上	同上
始漁期	4月20日	12月3日	4月上旬	9月	12月	6月7日	6月7日
盛漁期	9月15日	2月1日	10月中旬	10月上旬	1月	自7月7日至9月10日	7月中
終漁期	12月30日	4月15日	12月下旬	12月下旬	3月	12月21日	9月30日
始漁量	150疋	自1疋至230疋	150疋	28疋	25疋	400疋	300疋
盛漁量	220疋	同上	130疋	90疋	30疋	400疋	400疋
終漁量	200疋	同上	600疋	60疋	30疋	300疋	300疋
始漁高	40圓	14圓	40圓	10圓	20圓	60圓	15圓
盛漁高	70圓	30圓	85圓	15圓	80圓	120圓	15圓
終漁高	60圓	40圓	30圓	10圓	60圓	100圓	9圓
最高價	0.45圓	0.4圓	0.6圓	0.6圓	0.65圓	0.5圓	0.4圓
最低價	0.15圓	0.3圓	0.4圓	0.5圓	0.3圓	0.22圓	0.2圓
平均價	0.3圓	0.34圓	0.52圓	0.52圓	0.5圓	0.42圓	0.33圓
出漁日數	180日	120日	180日	80日	120日	200日	110日
產卵期	自5月上旬至7月下旬	自5月上旬至7月下旬	自5月中旬至6月上旬	1月頃	四季毎ニ産卵ス		
停滯期	年中	年中	年中	年中	不詳		
産卵水底質	不	不	石藻	泥	岩泥		
産卵水深			自3尋至15尋	3尋	自5尋至20尋		
産卵場位			小田郡沿海	水島灘沿海	牛窓町地先		
餌料	詳	詳	貝類	魚類	魚類		
販賣處理法	尾道又ニ縣下各市	本島又ニ縣下各市	小田郡、眞鍋島、高野、高野、高野	等倉敷、岡山、山	賣大岡山、寺町、及販西		

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

漁村名	小田郡眞鍋島村	小田郡金浦町	淺口郡寄島町	邑久郡牛窓町
漁具名稱	大延 蛤網	手長 網蛤	大蛤 釣	飯 蛤釣
漁船數	1隻	1隻	10隻	10隻
漁船肩巾	6.2尺又 ハ5.7尺	5.7尺又 ハ6.2尺	5.3尺	5.3尺
漁具數	800疋乃至 100疋	1統	40本	100本
漁業者數	13人	75人	20人	10人
始場並置	各本島、六島	各本島、六島	北島、眞鍋島、小田郡海岸	小田郡海岸
底質	砂	砂	石	泥
深度	自5尋至30尋	自7尋至25尋	自10尋至20尋	5尋
漁場並置	同	同	同	同
底質	同上	同上	同上	同上
深度	同上	同上	15尋	同上
終場並置	同	同	同	同
底質	同上	同上	同上	同上
深度	同上	同上	20尋	同上
始漁期	4月20日	12月3日	4月上旬	9月
盛漁期	9月15日	2月1日	10月中旬	10月上旬
終漁期	12月30日	4月15日	12月下旬	12月下旬
始漁量	150疋	自1疋至230疋	150疋	28疋
盛漁量	220疋	同上	130疋	90疋
終漁量	200疋	同上	600疋	60疋
始漁高	40圓	14圓	40圓	10圓
盛漁高	70圓	30圓	85圓	15圓
終漁高	60圓	40圓	30圓	10圓
最高價	0.45圓	0.4圓	0.6圓	0.6圓
最低價	0.15圓	0.3圓	0.4圓	0.5圓
平均價	0.3圓	0.34圓	0.52圓	0.52圓
出漁日數	180日	120日	180日	80日
產卵期	自5月上旬至7月下旬	自5月上旬至7月下旬	自5月中旬至6月上旬	1月頃
停滯期	年中	年中	年中	年中
産卵水底質	不	不	石藻	泥
産卵水深			自3尋至15尋	3尋
産卵場位			小田郡沿海	水島灘沿海
餌料	詳	詳	貝類	魚類
販賣處理法	尾道又ニ縣下各市	本島又ニ縣下各市	小田郡、眞鍋島、高野、高野、高野	等倉敷、岡山、山

重要漁業調査

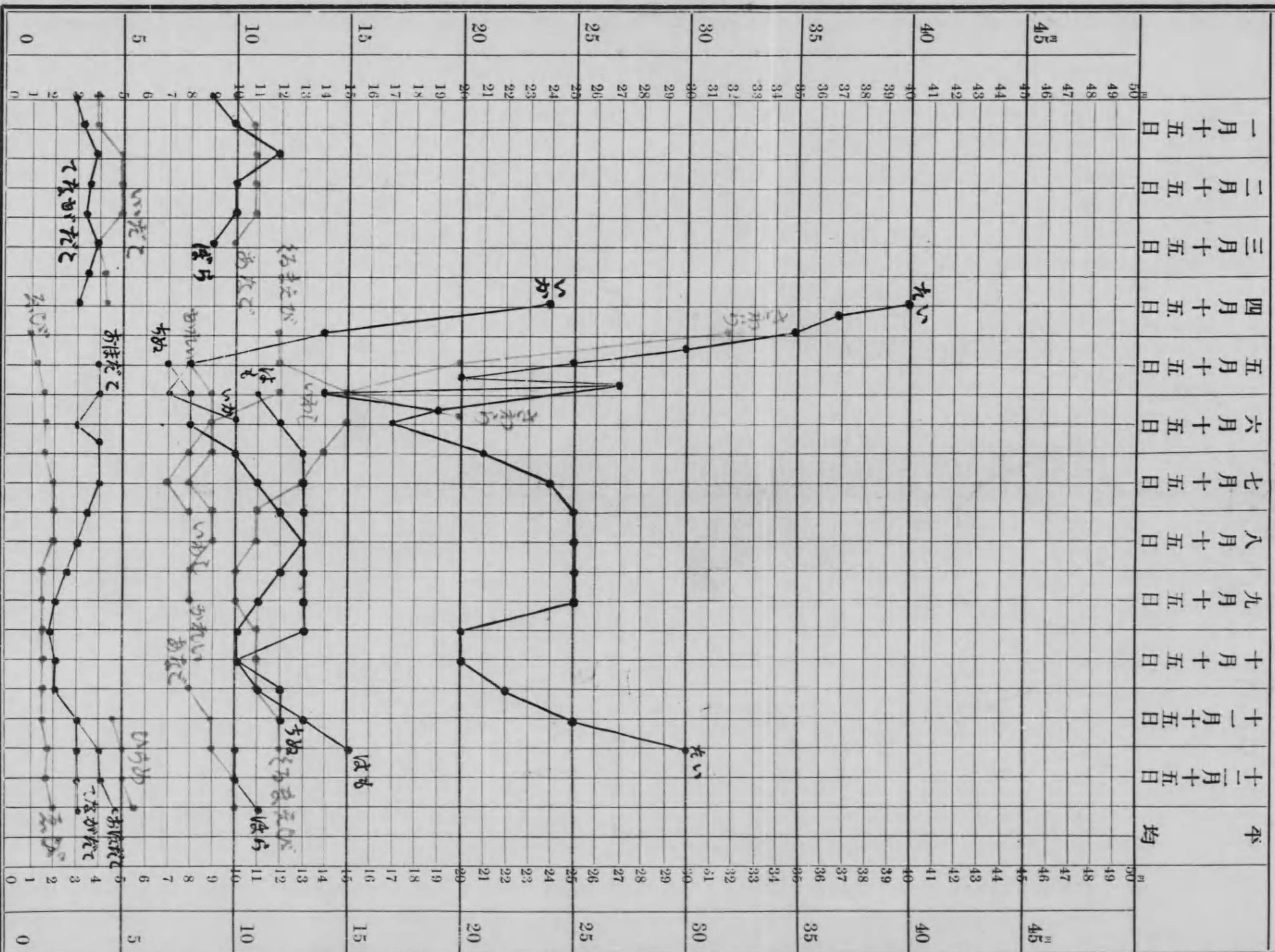
漁村名	小田郡村		小田郡町		浅井郡町		邑久郡牛窓町	
	い	か	全	全	全	全	全	全
漁具名稱	網	網	網	網	網	網	網	網
漁船數	1隻			50隻	60隻	30隻	53隻	80隻
漁船幅巾	5.5尺		5.3尺	自4.5尺至5尺	5尺	5尺	5尺	4尺
漁具數	1統		1800反	50統	180統	30統	210把	320本
漁業者數	5人		60人	100人	240人	60人	70人	120人
始場並置	真鍋島漁場		面淺海深一四河部海	水島灘北部	牛窓町地先	牛窓町地先	牛窓町地先	牛窓町地先
底質	砂		藻泥	泥	泥	泥	礫	泥岩
深	自5尋至60尋		4尋	自7尋至17尋	5尋	5尋	10尋内外	10尋内外
場並置	同上		同上	同上	同上	同上	同上	同上
場並置	同上		同上	同上	同上	同上	同上	同上
場並置	同上		同上	同上	同上	同上	同上	同上
場並置	同上		同上	同上	同上	同上	同上	同上
始漁期	4月15日		5月上旬	4月25日	4月28日	5月9日	5月2日	4月25日
盛漁期	5月10日		6月上旬	5月15日	自5月3日至5月22日	自5月3日至5月16日	自5月3日至6月2日	自5月3日至5月22日
終漁期	6月16日		7月下旬	6月20日	6月5日	5月30日	6月5日	6月20日
尾/重	始 90匁	90匁	200匁	60匁	80匁	90匁	80匁	80匁
一/後	盛 70匁	70匁	800匁	55匁	90匁	75匁	90匁	90匁
均	終 50匁	50匁	400匁	40匁	70匁	70匁	70匁	70匁
平均	始 25圓	30圓	32圓	18圓	6圓	15圓	5圓	7.5圓
高	盛 15圓		43圓	55圓	200圓	90圓	230圓	50圓
高	終 10圓	10圓	15圓	30圓	36圓	30圓	5圓	30圓
高	最 2.4圓	1.8圓	0.4圓	1.2圓	0.77圓	0.54圓	0.77圓	0.77圓
低	最 0.7圓	0.7圓	0.35圓	0.6圓	0.3圓	0.21圓	0.31圓	0.3圓
平	均 1.1圓	0.9圓	0.36圓	0.9圓	0.35圓	0.25圓	0.35圓	0.35圓
出	漁日數 5.5日		7日	5日	35日	30日	35日	33日
產	卵期 自5月上旬至6月中旬		7月上旬	自5月15日至5月31日	八十八夜ヨリ十日後			
停	滯期 自4月下旬至6月下旬		自4月上旬至7月下旬	自4月1日至6月03日	八十八夜ヨリ三十日後			
產	卵水	不	泥	泥土	岩			
場	位	詳	小田郡神高外浦内	水島灘一四	牛窓町地先			
餌	料		甲斐石ノ開類魚又ノ海苔	蝦、海蟲類	鰯、マ、カサ			
販	物處理法	場本縣下販賣ス	方成井津、販賣ス	賣鮮魚、ス、ク、販	村、大寺、同山市、西			



項目	小田郡村	小田郡町	浅井郡町	邑久郡牛窓町
漁船數	1	50	60	30
漁船幅巾	5.5	5.3	5	5
漁具數	1	1800	50	180
漁業者數	5	60	100	240
始場並置	真鍋島	面淺海深一四河部海	水島灘北部	牛窓町地先
底質	砂	藻泥	泥	泥
深	自5尋至60尋	4尋	自7尋至17尋	5尋
場並置	同上	同上	同上	同上
場並置	同上	同上	同上	同上
場並置	同上	同上	同上	同上
場並置	同上	同上	同上	同上
始漁期	4月15日	5月上旬	4月25日	4月28日
盛漁期	5月10日	6月上旬	5月15日	自5月3日至5月22日
終漁期	6月16日	7月下旬	6月20日	6月5日
尾/重	始 90匁	90匁	200匁	60匁
一/後	盛 70匁	70匁	800匁	55匁
均	終 50匁	50匁	400匁	40匁
平均	始 25圓	30圓	32圓	18圓
高	盛 15圓		43圓	55圓
高	終 10圓	10圓	15圓	30圓
高	最 2.4圓	1.8圓	0.4圓	1.2圓
低	最 0.7圓	0.7圓	0.35圓	0.6圓
平	均 1.1圓	0.9圓	0.36圓	0.9圓
出	漁日數 5.5日		7日	5日
產	卵期 自5月上旬至6月中旬		7月上旬	自5月15日至5月31日
停	滯期 自4月下旬至6月下旬		自4月上旬至7月下旬	自4月1日至6月03日
產	卵水	不	泥	泥土
場	位	詳	小田郡神高外浦内	水島灘一四
餌	料		甲斐石ノ開類魚又ノ海苔	蝦、海蟲類
販	物處理法	場本縣下販賣ス	方成井津、販賣ス	賣鮮魚、ス、ク、販

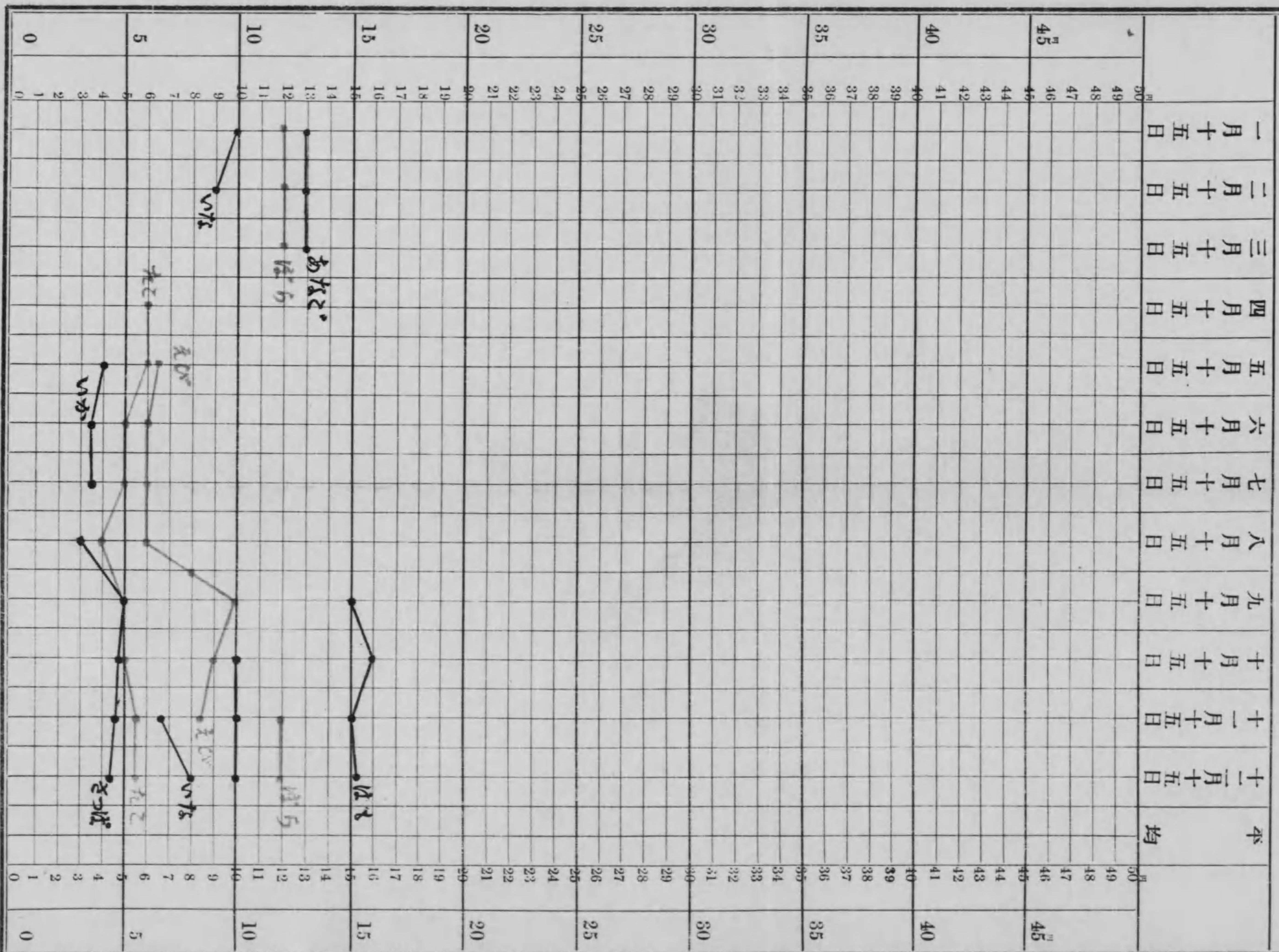
大正五年岡山縣鮮魚平均相場表(每十貫目)

小田郡眞鍋島村ニ於ケル調査



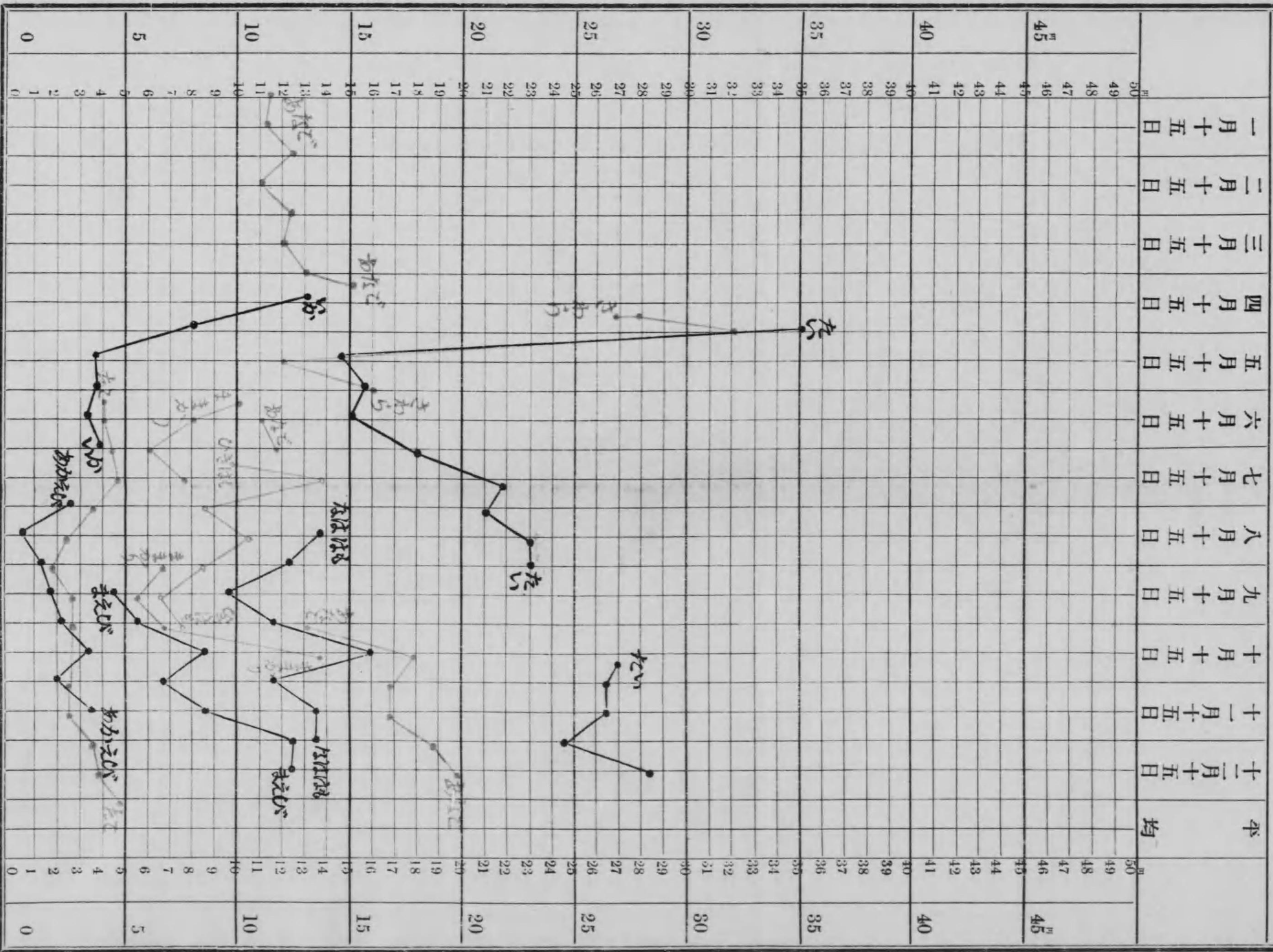
大正五年岡山縣鮮魚平均相場表(毎十貫目)

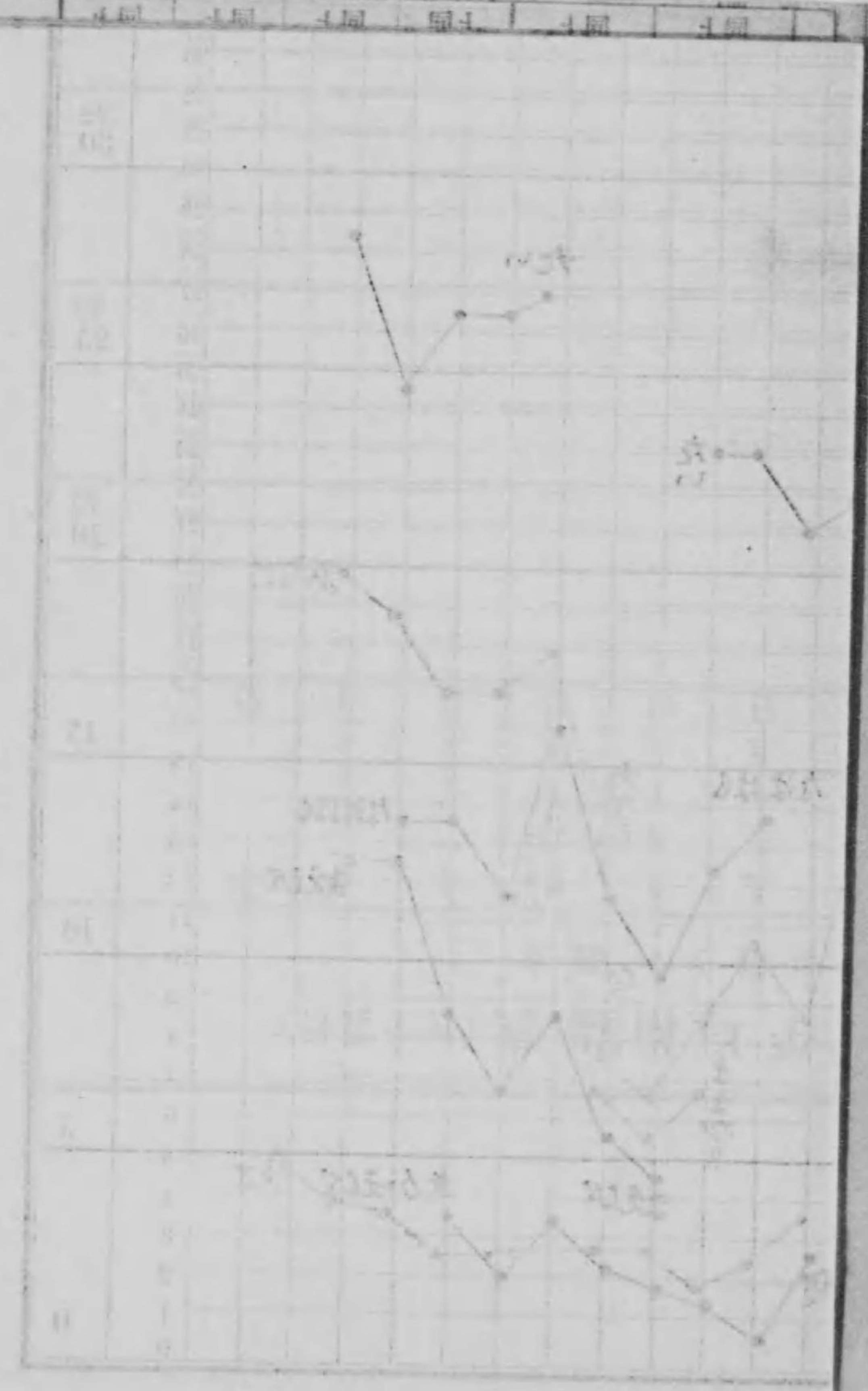
小田郡金浦町ニ於ケル調査



大正五年岡山縣鮮魚平均相場表(毎十貫目)

邑久郡牛窓町ニ於ケル調査





講習講話及實地指導

一、養殖短期講習

魚介類等ノ養殖思想ノ普及并ニ其ノ發展ヲ企圖センガ爲、毎年縣下適當ノ個所ヲ撰定シ養殖ニ關スル短期講習ヲ施コシツ、アルガ、本年度ハ大正六年二月五日ヨリ三日間淺口郡玉島町ニ於テ鹹水養殖講習ヲ實施セシガ、成績良好ナリキ。

二、講話及實地指導

本場ニ於テ必要ト認メタル場合、若クハ當業者ノ請求ニ應ジ隨時養殖漁撈製造等水産一班ニ關スル講話并ニ實地指導ヲ爲シ、専ラ水産事業ノ誘導啓發ニ努メタリ、而シテ其件數ヲ舉グレバ左ノ如シ。

- 一、鹹水養殖講話 一件
- 二、淡水養殖講話 三件
- 三、漁業指導 十三件
- 四、製造指導 三件
- 五、鹹水養殖指導 八件
- 六、淡水養殖指導 二十二件

講習講話及實地指導

四六	四六	四六	四〇七	三五	三四	三三	三三	三三	三二	三二	二二	二二	二二	同	一六	二一
九	九	五	二〇	一五	一八	一六	二〇	二〇	七	一	九	七	八	同	二	六
三六	一四	四四	五段	一段	一段	六	四	四	一	一	三	二	二	二	二	九
續	續	續	無	耗	二	餌	投	察	二	八	二	好	良	四	續	續
廣	續	續	ノ	耗	三	投	餌	案	三	二	八	良	好	二	續	成
同	同	七	七	七	七	七	同	六	六	同	六	同	六	五	五	五
八	同	五	四	二	二	二	二	二	六	八	三	同	八	三	一	一
二	十	十	同	同	五	五	四	三	三	二	六	二	八	二	五	四
間	二	一	尾	尾	尾	乃	下	ん	い	試	側	壯	八	二	槽	餘
三		死	死	死	〇	ト	い	ん	診	測	壯	〇	三	〇	四	溪

買行字正誤表
買行字正誤

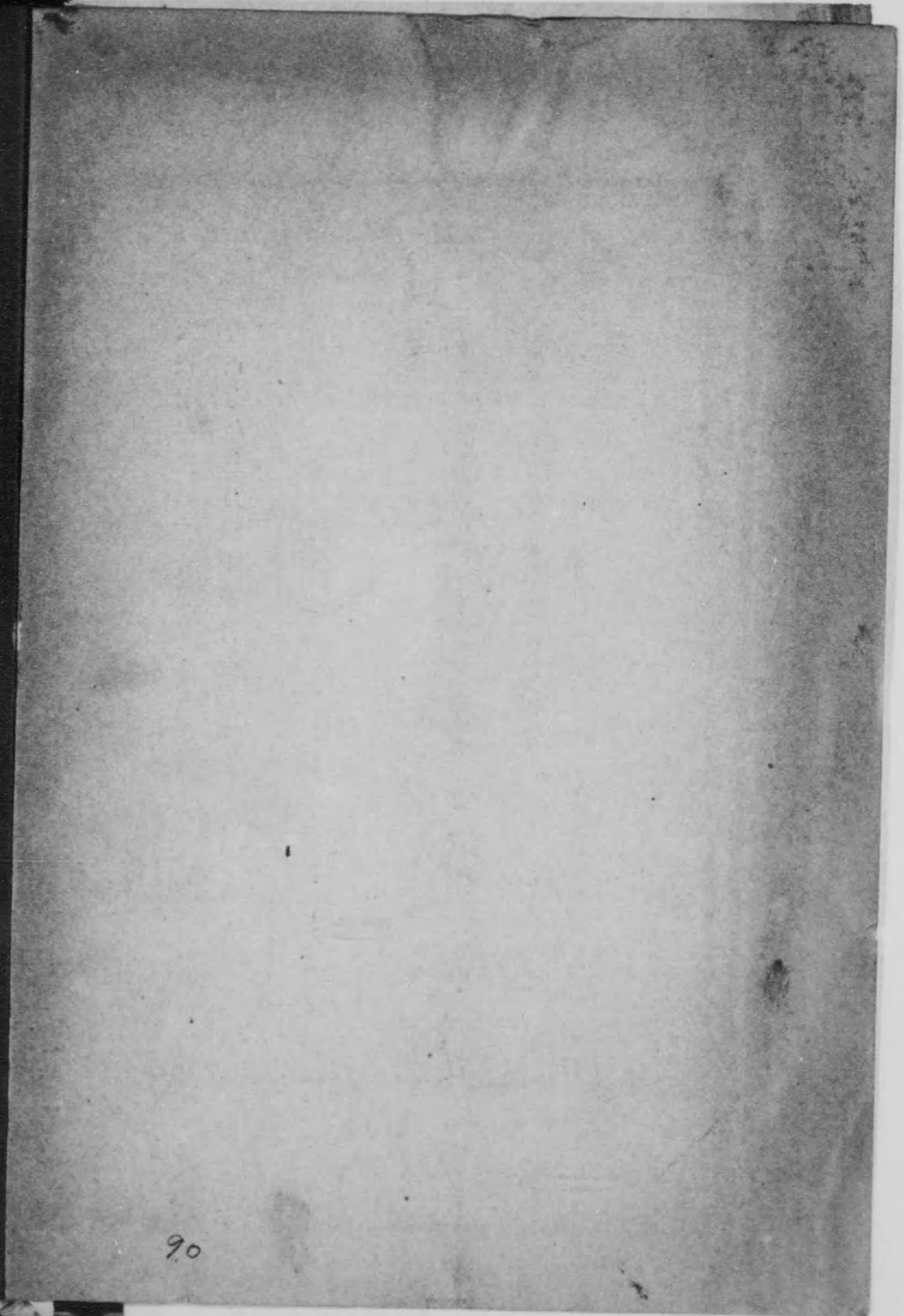
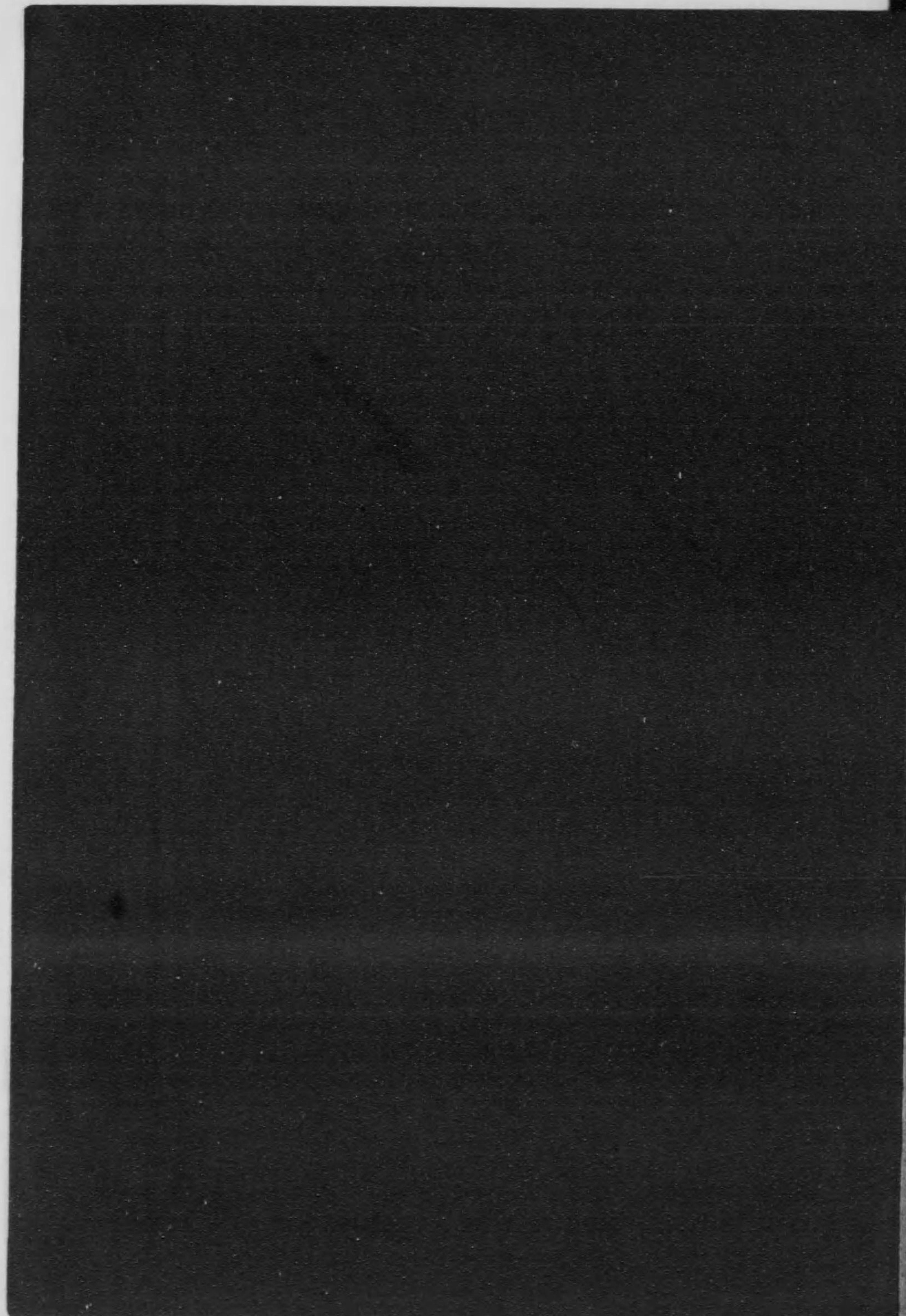
大正七年三月二十八日印刷
大正七年三月三十一日發行

(非賣品)

岡山縣水產試驗場

印刷者 岡山市大字船頭町八十二番地ノ一 安井宇吉

印刷所 岡山市大字西中山下百五十四番地 山陽新報社印刷部



90

終